

ヲ必要トセス(昭二・大審「法新二七五七號一三頁」)
677 委付ノ效力トシテ被保險者ノ加害者ニ對スル損害賠償請求
權カ法律上當然保險者ニ移轉スル場合ニ於テハ債務者ニ對スル通
知ヲ爲シ又ハ債務者ノ承諾ヲ得サルモ其移轉ヲ以テ第三者ニ對抗
スルヲ得(昭二・大審「法新二七四二號一〇頁」)

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサ
ルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス
保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間
内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲ス
コトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコト
ノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス
◇六七二 船舶ノ行方カ知レサルトキ保險金額
ノ全部ヲ請求。商施一三二。
第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於
テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼
續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコト
ヲ得ス
第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スル
トキハ三ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スル
コトヲ要ス
前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ
第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知りタ
ル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者
カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨ
リ之ヲ起算ス
◇六七八 項ニ委付ト保險ノ目的ニ關スル事項。
四一二 損害保險ト危險ニ關スル通知義務。
第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要
ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其

部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得
保險金額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委
付ハ保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ應シテ之
ヲ爲スコトヲ得
第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ
後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
◇六七九 委付ト保險金額ノ支拂。
第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保
險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關
スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス
◇四一五・四一六 保險金額ノ支拂ト保險者ノ代位
六七四 保險者ニ對スル委付(大四・中村。大七。
東・松波)(例)六七五・六七九
△委付ノ登記ヲシタル後保險ニ附シ得ルヤ(大五・日
市村。昭六・九・野津)(例)五四四
▽再保險(昭二・東北・小野)

680 船舶抵當權者カ該船舶ニ備船又ハ再備船契約ノ存在ヲ知リ
得ヘカリシ關係ニ在リタルニ拘ラス抵當權實行ノ爲ニ競賣ノ申立
ヲ爲シ船舶ヲ碇泊セシメタルトキハ右備船又ハ再備船契約上ノ權
利侵害ニ付過失アリ(昭四・神地「法新三〇一四號一三頁」)

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保
險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ
其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スル
コトヲ要ス
保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支
拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間
ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起
算ス
◇三八七 一三九〇 數箇ノ保險契約。
第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ
被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ
保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス
◇六七六 委付ニ對スル異議。六七二 保險委付

第七節 船舶債權者
第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船
舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取
特權ヲ有ス
一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣
手續開始後ノ保存費
二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
四 水先案内料及ヒ挽船料
五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損(本
號改正)
六八〇 船舶先取權(昭二・四・明・松岡)
第七節 船舶債權者
六八一 船舶債權者ノ先取特權。六五二ノ二以
下ニ海難救助。六四一 共同海損ノ意義。五六
八・五七二 船長ノ責任。六八五 項ニ先取特
權ハ船舶ノ發航ニ因リ消滅。民三〇三 先取特
權。三〇六一 共益費用。三〇七 共益費用ノ
先取特權。三一〇 動産ノ保存。三二一 動
産保存ノ先取特權。三〇六 三 雇人ノ給料。三
〇九 雇人給料ノ先取特權。三一六 動産ノ
賣買。三二二 動産賣買先取特權。三二五 三
不動産ノ賣買。三二八 不動産賣買ノ先取特權。

第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラヌ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

◇民三二九一項 先取特權ノ順位

第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

◇民三二九二項 一般ノ先取特權カ互ニ競合セル場合ニ於ケル先取特權ノ順位

第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

◇商施一三五・三三〇

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ経過シタルトキハ消滅ス

第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

◇五四〇 船舶國籍證書・六八九 製造中ノ船舶・五三九 船舶ノ從物・五六八一項 船長ノ責任・民三六九以下 抵當權

第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

◇六八〇 船舶債權者ノ先取特權 民三三六・三三三・三四〇

第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

◇五四〇 船舶國籍證書

第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

附則 (明治四十四年法律第七十三號)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年勅令第二百十九條ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

治四十四年勅令第二百十九條ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス

第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算結了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五條 第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作リタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第四百四十二條ノ二乃至第四百四十二條ノ四ノ規定ヲ適用ヲ妨ケス

第八條 第五百二十二條第三項及ヒ第五百十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第五百二十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第九條 第六十三條及ヒ第六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決

議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條 第七十七條及ヒ第八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但社債募集ノ公告ヲ爲サザルトキハ第二百三條、第二百三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十五條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其增加ヲ爲スコトヲ得

第十六條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル

場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未満ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ適用ス

第十八條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條 附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十條 附則第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十一條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 附則第九條、第十條、第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十三條 附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ適用ス

第二十四條 前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ適用ス

第二十五條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十條ノ二及ヒ第三百八十八條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時効ハ其施行

行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ適用ス

第二十九條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ適用ス

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及ヒ第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ適用ス

第三十五條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

二條第一項及第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六月間内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲サザリシ者ハ其登記ヲ爲サザリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十条ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セザルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メザリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ニ定メタル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支

商法施行法前ニ於テハ民事商事ノ區別存スルナク從テ如何ナル行爲カ商行爲ナルカヲ定ムルニ付特別規定存セザリシト雖モ本法ノ趣旨トスル所ハ商法施行後ニ於テ施行前ノ行爲ノ性質カ民事行爲ナリシヤ商事行爲ナリヤニ付商法ノ規定ニ依據シテ區別シ現行商法上商行爲ニ該當スルヲ商行爲トシ取扱フヘキモノト爲スニ在リ(昭二・東控J)

商法施行法

(明治三十二年三月九日) 法律第四十九號

改正、明治三十三—法律六九、大正一一—法律七一

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商法施行法

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滯ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用キサルモノハ其施行ノ日ヨリ三月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 商法第十八條以上五十條以下ノ過料ニ處セラレタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十四條 商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十

38 舊商法ニ基キ設立シタル合資會社ノ組織變更ニ付テハ登記
官吏ハ商業登記取扱手續第二一條後段ノ登記手續ヲ爲スヘシ(昭
二・法決「法曹五卷九號一〇五頁」)

店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商
法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ
規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以
上五十圓以下ノ過料ニ處セラル
第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定
ハ舊商法第四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ
之ヲ準用ス
第二十九條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第三十條 合名會社ニハ之ヲ適用セズ
第三十一條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法
施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命
シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ
解散シタルモノト看做ス
第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場
合ニ於テ未ク清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ
日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ
規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲
スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト
同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場
合ニ於テ未ク清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ
同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得
此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財產
目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス
第三十五條 商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條
ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第三十六條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ
爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リ
テ之ヲ爲ス
第三十七條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ
解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週
間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲ス
コトヲ要ス
第三十八條 商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲ス
コトヲ要ス
第三十九條 商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲ス
コトヲ要ス
第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊

商法第五百一一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變
更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又
ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ
必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス
第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、
第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ
之ヲ準用ス
第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商
法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存
續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メ
タル種類ノ一タルコトヲ要ス
合併ノ決議ハ舊商法第五百一一條第二項ノ規定ニ
依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式
會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セ
ス
第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式
會社トモ其發起人カ未ク株主ノ募集ニ着手セサ
ルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス
第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主
ノ募集ニ着手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ
會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ
定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款

ヲ變更スルコトヲ要ス
第四十七條 商法第三百十條ノ規定ハ前二條ノ場合
ニモ亦之ヲ適用ス
第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二項ノ
規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ召集シタル創業總會
ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施
行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨ
リ之ヲ起算ス
第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ
株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商
法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨ
リ六ヶ月内ニ發起人カ創業總會ヲ召集セサルトキ
ハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得
第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於
テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込
アリタル後二週間内ニ商法第四百一一條第一項ニ
定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立
ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第
百二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メ
サルモノハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ其定款ヲ
變更スルコトヲ要ス
第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立
ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三
ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在
地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲

ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第四百五條第二項ノ規定ニ於テ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得

商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條 商法中株式ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株式券及ヒ假株券ハ商法第四百八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモノヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株式ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條 商法第五百十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株式ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株式券ハ無効トシ最後ノ記名株式ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株式券ヲ發行シタルトキハ八百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラズ

第六十二條 商法第六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ノノミニ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴訟ハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ

第六十三條 商法第六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治產ニ因リテ選任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行後ニ選任シタル金額ノ數ノ株式券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行後ニ選任シタル株式會社ノ取締役ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後選任シタル株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

商法施行前ニ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後選任シタル破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十條 商法第七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條 舊商法第八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ノノミニ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴訟ハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キト雖モ其任期間在任ス

第七十四條 商法第九十條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ

ハ之ヲ適用セス
 第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認
 許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシ
 メサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ
 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ
 商法第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事
 項ヲ登記スルコトヲ要ス
 第八十條 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂
 込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店
 及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法
 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ
 登記スルコトヲ要ス
 第八十一條 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第
 二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セ
 ス
 第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス
 第八十二條 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施
 行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合
 ニモ亦之ヲ適用ス
 第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會
 社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲
 シタル場合ニハ之ヲ適用セス
 第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若
 クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テ
 ハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコ
 トヲ得

商法第二百二十八條乃至第三百十條ノ規定ハ前項ノ
 場合ニ之ヲ準用ス
 第八十五條 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議
 ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商法施行前
 ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲サザリ
 シトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタ
 ルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在
 地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第八十六條 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場
 合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役
 ハ商法施行ノ後遲滞ナク株主ニ對シテ解散ノ通知
 ヲ發スルコトヲ要ス
 第八十七條 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルト
 キハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル
 第八十八條 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判
 所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ
 要ス
 第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ
 規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖
 モ其權限ヲ保有ス
 第九十條 第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散
 シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準
 用ス
 第九十一條 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、
 第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之
 ヲ準用ス

117 金錢ノ貸借ヲ業トスル會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル會社
 ナリト云フヲ得スト雖モ營利ヲ目的トシテ商法會社編ノ規定ニ依
 リ設立セラレタル社團タル性質ヲ有シスル社團ハ商行爲ヲ爲スヲ
 業トセサルモ商法第四二條第二項ニ依リ會社ト看做サレスル會社
 ノ行爲ニハ二八五條ノ二ニヨリ商行爲ニ關スル規定ノ準用アリ從
 テ商法施行法第一一七條ニ依リ利息制限法第五條ハ其準用ナシ
 (昭二・大審「新報一二六號一三頁」) 一本條ハ利息制限法第五條

第九十二條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外
 國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタルコ
 トヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタ
 ル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ
 第九十三條 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則
 ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト
 雖モ其罰則ヲ適用ス
 第九十四條 「私設鐵道株式會社ニハ明治廿年勅令
 第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及
 ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス」
 第九十五條 乃至第六十六條 (明治三十三年法律第
 六十九號保險業法第六十三條ヲ以テ本條ヲ削除)
 第九十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第
 五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス
 第九十八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ
 付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣
 法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其
 他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣
 却スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合
 ニ之ヲ準用ス
 第九十九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ
 無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外
 舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第
 三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス
 第一百二十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行

前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之
 ヲ適用ス
 第一百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施
 行前ニ約シタル匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス
 第一百二十二條 湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ
 選信大臣之ヲ定ム
 第一百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還
 請求權ハ支拂拒絶證書ノ作成カ商法施行前ニ在リ
 タル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絶證書ノ
 作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成
 ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ
 消滅ス
 裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前
 ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商
 法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ
 六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
 商法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ商法施
 行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月ヨリ短キトキハ時効ハ
 其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス
 第一百二十四條 「明治十九年法律第二號公證人規則」
 第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絶證書ヲ作ル場合
 ニハ之ヲ適用セス
 第一百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件
 ハ行爲地ノ法律ニ依ル
 前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行
 爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ

ノ規定ヲ商事ニ適用セサル旨ヲ規定シタルニ止マリ積極的ニ辨濟期日後ノ損害金ヲ如何程高率ニ約定スルモ有效ナル旨ヲ規定シタルモノニ非サルコト勿論ナレトモ損害金ノ約定カ高率ナレハトテ直ニ之ヲ以テ公序良俗ニ反スルモノト斷スルヲ得ス(昭四・東地「新報二〇二號二二頁」)

137 本條ニヨリ民法施行法第三〇條カ準用セラルル結果商法施行法前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ該債權カ商事債權ト

外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セザルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ
第二百六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル
第二百七條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス
商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス
第二百八條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ貸借ニモ亦之ヲ適用ス
第二百九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス
第三百十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ選任大臣之ヲ定ム
第三百十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得
第三百十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六ヶ

月間分明ナラザルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セザルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス
第三百十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラザルトキハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得
第三百十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス
第三百十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス
第三百十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス
第三百十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第三十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス
附則
第三百十八條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年法律第七十一號破産法第三百九十一條ヲ以テ本條ヲ改正)
第三百十九條 商法施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效

ル以上其發生ハ舊商法施行ノ前後如何ニアルヲ問ハス現行商法ニヨル五年ノ短期消滅時効ニ罹ルモノト謂フヘシ(大一五・東地「法新二六四六號一五頁」)

舊商法施行條例

商法中署名スヘキ場合ニ關スル件

小商人ノ範圍ニ關スル件

力ヲ有ス(同上本條ヲ追加)

舊商法施行條例(明治二十三年八月八日)

朕商法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(商法施行法第三百二十九條參看)
第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百三十一條、第二百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出スルコトヲ得
第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得
第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス
第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノノ外第二百五十四條、第三百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第四百五十六條、第四百九十九條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ

地方裁判所トス

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾等ノ商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
小商人ノ範圍ニ關スル件
(明治三十二年六月十五日)
(勅令第二百七十一號)

朕小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス
附則
此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍

(明治三十二年五月二十六日) (逓信省令第二十號)

商法施行法第二百二十二條ノ規定ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ハ左ノ通定ム
湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル
沿岸小航海ノ範圍ハ播磨國明石川口西岸ヨリ淡路國江崎ニ至ル線、淡路國押登崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵崎ニ至ル線及豊前國部埼ヨリ長門國宇部村ニ至ル線ヲ以テ限ラレタル内海トス

手形法

(昭和七年七月十四日) (法律第二十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ手形法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

手形法

第一章 爲替手形

第一條 爲替手形ノ振出及方式

一 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字
一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託
支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
満期ノ表示
支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケル者ヲ指圖スル者ノ名稱
支拂ヲ振出ス日及地ノ表示
七 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名
八 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス
支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限リ之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス

手形法 爲替手形 爲替手形ノ振出及方式 裏書

振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得

第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生スベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第六條 爲替手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第七條 爲替手形ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

第八條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

第九條 爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第十條 爲替手形ノ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名ニ偽造ノ署名ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他

ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ効力ヲ妨ゲラレルコトナシ

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第十二條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保スルコトヲ得振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得

第十三條 振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十四條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十六條 振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指圖ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ効力ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十七條 裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十八條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十九條 一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

第二十條 持券人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス

第二章 裏書

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得
第十二條 振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指圖ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ効力ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得
第十三條 裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
第十四條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス
第十五條 一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス
第十六條 持券人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス

手形法 爲替手形 満期 支拂 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求

第三十六條 日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ満期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満期トス

日附後又ハ一覽後一月又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス月ノ始、月ノ央(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ満期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八日」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ満八日又ハ十五日ヲ謂フ

「半月」トハ十五日ノ期間ヲ謂フ

第三十七條 振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ満期ノ日ハ支拂地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモ以テ看做ス

曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタル爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ニ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ満期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ計算ス

前三項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ單ナル記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知り得ベキトキハ之ヲ適用セズ

第六章 支拂

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

第三十九條 爲替手形ノ支拂人ハ支拂ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シテ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得

一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 爲替手形ノ所持人ハ満期前ニハ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ要セズ

満期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス

満期ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限り其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連續ノ蓋否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ズル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ満期ノ日ニ於ケル價格ニ依リテ其ノ通貨ヲ以テ支拂フノ爲ニ於テ得價務者ガ支拂ノ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リテ満期ノ日又ハ支拂地ノ日ノ相場ニ從ヒテ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リテ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リテ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載シタル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求

第四十二條 第三十八條ニ規定スル期間内ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債務者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第四十三條 満期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ満期前ト雖モ亦同

一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ

二 引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效力ヲ奏セザル場合

三 引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合

第四十四條 引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證書(引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書)ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ要ス

引受拒絶證書ハ引受ノ爲ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶證書ハ其ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ支拂拒絶證書ハ爲替手形ノ支拂ヲ爲スベキ

手形法 爲替手形 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求

日又ハ之ニ次グ二取引日ニ支拂ヲ爲スルコトヲ要ス一覽後ノ手形ノ支拂拒絶證書ハ引受拒絶證書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒテ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

引受拒絶證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效力ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シテ手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ズレバ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ請求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シテ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知

スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ノ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十六條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」拒絶證書不要ニ對シテ其ノ他ノ同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シテ其ノ請求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シテ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シテ之ヲ援用スル者ニ於テ署名者ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ振出人又ハ保證人一切ノ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルハ其ノ費用ハ所持人ガ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ其ノ費用ハ所持人ガ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ其ノ費用ハ所持人ガ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ其ノ費用ハ所持人ガ負擔ス

第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シテ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シテ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

第四十八條 所持人ハ請求ヲ受ケタル者ニ對シテ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息

二 年六分ノ率ニ依ル満期以後ノ利息

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

滿期前ニ請求權ヲ行フトキハ割引ニ依リテ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所地ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リテ之ヲ計算ス

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シテ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前項ノ金額ニ對シテ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第五十條 請求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取證書記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書

手形法

爲替手形 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求 參加 通則 參加引受

ヲ抹消スルコトヲ得
 第五十一條 一部引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザル手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコトヲ得又支拂後ノ請求權ヲ請求スルコトヲ得又支拂後ノ請求權ヲ請求スルコトヲ得又支拂後ノ請求權ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限リ其ノ住所ニ於テ支拂ヲベキ新形手形(戻手形)ニ依リ請求スルコトヲ得

第五十三條 戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印刷費ヲ含ム

第五十四條 所持人ガ戻手形ヲ提出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住所ニ宛テ提出ス

第五十五條 爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ提出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ提出人ガ其ノ住所ニ依リ之ヲ定ム

第五十六條 爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ハ一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十七條 左ノ期間ガ経過シタルトキハ所持人ハ裏書人ニ提出人ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間
 一 引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間
 二 無費用償還文句アル場合ニ於ケル拒絶ノ爲ノ呈示期間
 三 振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ

引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十九條 呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

第六十條 法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ延長ス

第六十一條 所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ選滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ヲ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ選滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六十三條 不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ選滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六十四條 爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ延長ス

第六十五條 所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ選滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ヲ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ選滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六十七條 不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ選滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六十八條 爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ延長ス

第六十九條 所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ選滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ヲ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十條 不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ選滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

人ヲ記載スルコトヲ得
 第六十一條 爲替手形ハ請求權ヲ受クベキ何レノ債務者ノ爲ニ參加引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 參加人ハ第三者ノ支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條 參加人ハ其ノ被參加人ニ對シ二取引日内ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第六十四條 爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 爲替手形ニ支拂地ニ於ケル擔保支拂人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ爲替手形ヲ呈示シ且拒絶證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ證明スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ請求權ヲ行フコトヲ得

第六十六條 爲替手形ノ所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被參加人ニ對シ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル請求權ヲ失フ

第六十七條 參加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ參加人署名スベシ參加引受ニハ被參加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十八條 參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後

手形法

爲替手形 參加 參加支拂 復本及贖本 復本 贖本

裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ
 第六十一條 被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ヲ引換ニ爲サザル限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第六十二條 爲替手形ノ計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第六十三條 參加支拂
 第五十九條 參加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スベキ金額ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 支拂ハ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最

第六十六條 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有スル參加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ擔保支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最

第六十七條 翌日迄ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第六十八條 前項ノ期間内ニ拒絶證書ノ作成ナキトキハ擔保支拂人ヲ記載シタル者又ハ被參加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十九條 參加支拂ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第七十條 參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

要ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第六十一條 爲替手形ハ參加支拂人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六十二條 拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 參加支拂人ハ被參加人及其ノ前者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ハ義務ヲ免ル

第六十四條 被參加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十五條 參加支拂ノ場合ニ於テハ最多數ノ義務ヲ免レシムルモノノ優先事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ參加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第六十六條 復本
 第九節 復本及贖本
 第一節 復本
 第六十四條 爲替手形ハ同一ノ内容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

第六十五條 此ノ復本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス

第六十六條 一通限ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ復本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シテ其ノ請求ヲ爲シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ手形ヲ爲スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル復本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十八條 復本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ復本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務

第六十七條 爲替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權
 利ヲ有ス

第六十八條 贖本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス

第六十九條 贖本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ裏書又ハ保證ヲ爲スコトヲ得

第七十條 贖本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ贖本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

第七十一條 保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ贖本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル

第七十二條 爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ爲シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第七十三條 裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第七十四條 引受ノ爲替手形一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名稱ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對シ之ヲ引渡スコトヲ要ス

第七十五條 保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶證書ニ依リ左ノ事實ヲ證明スルニ非ザレバ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

第七十六條 引受ノ爲替手形一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト
 二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受タルコト能ハザリシコト

第七十七條 第二節 贖本

手形法 爲替手形 變造 時效 通則 約束手形

者ニ對シテ尋求權ヲ行フコトヲ得ズ
唐本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏
書ハ唐本ニ爲シタルモノノミ効力ヲ有ス」ノ文句
其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存ス
ルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効
トス

第十章 變造

第六十九條 爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ
其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責
任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ
負フ

第十一章 時效

第七十條 引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿
期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時效ニ屬スル
所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ
時期ニ作ラシメタル拒絶證書ノ日附ヨリ、無費用
價還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以
テ時效ニ屬ス
裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其
ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ
訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時效ニ屬ス
第七十一條 時效ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタ
ル者ニ對シテノミ其ノ効力ヲ生ズ

第十二章 通則

第七十二條 滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之
ノ次ノ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スル
コトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受
振出地ノ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且
振出人ノ住所タルモノト看做ス

ノ爲ノ呈示及拒絶證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ
之ヲ爲スコトヲ得
末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行
爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次
第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期
間ニ算入ス
第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算
入セズ
第七十四條 恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノ
モノタルト問ハズ之ヲ認メズ

第二編 約束手形

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ
以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字
二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束
三 滿期ノ表示
四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
五 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケル者ヲ指圖スル者ノ
名稱
六 手形ヲ振出す日及地ノ表示
七 手形ヲ振出す者(振出人)ノ署名
第七十六條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券
ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定
スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看
做ス
振出地ノ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且
振出人ノ住所タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記
シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス
第七十七條 左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規
定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形
ニ準用ス
一 裏書(第十一條乃至第二十條)
二 滿期(第三十三條乃至第三十七條)
三 支拂(第三十八條乃至第四十二條)
四 支拂拒絶ニ因ル尋求(第四十三條乃至第五十
條、第五十二條乃至第五十四條)
五 參加支拂(第五十五條、第五十九條乃至第六
十三條)
六 唐本(第六十七條及第六十八條)
七 變造(第六十九條)
八 時效(第七十條及第七十一條)
九 休日、期間ノ計算及恩惠日ノ禁止(第七十二
條乃至第七十四條)

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於
テ支拂ヲ爲スベキ爲替手形(第四條及第二十七
條)、利息ノ約定(第五條)、支拂金額ニ關スル記載
ノ差異(第六條)、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲
サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エ
テ爲シタル署名ノ效果(第八條)及白地爲替手
形(第十條)ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用
ス
保證ニ關スル規定(第三十條乃至第三十二條)モ
亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ
於テ何人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルカヲ表示セザルト
キハ約束手形ノ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト
看做ス

手形法 約束手形 附則

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人
ト同一ノ義務ヲ負フ
一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル
期間内ニ振出人ノ一覽ノ爲ニ示スルコトヲ要
ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載
シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一
覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絶證書ニ依リテ
之ヲ證スルコトヲ要ス(第二十五條)其ノ日附ハ
一覽後ノ期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行
法第二百四條乃至第二百六條ハ之ヲ創除ス但
シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上ニ依ルベキ
場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス
第八十一條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約
束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含
ム
第八十三條 第三十八條第二項(第七十七條第一項
ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ司法
大臣之ヲ指定ス
第八十四條 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム
第八十五條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權
利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキ
ト雖モ所持人ハ振出人ノ引受人又ハ裏書人ニ對シ
其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲ス
コトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル
爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効ハ其
ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シテ
訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス
前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定
シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム
第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜
日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ
第八十八條 爲替手形上及約束手形ニ依リテ義務ヲ負フ
者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム其ノ國ノ法
律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他
國ノ法律ヲ適用ス
前項ニ掲グル法律ニ依リテ能力ヲ有セザル者ト雖モ
他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依
レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ
第八十九條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式
ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之
ヲ定ム
爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依
リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地
ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行
爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ効力ヲ
妨ゲザルコトヲ得

第九十條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ
義務ノ効力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律
ニ依リテ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依
リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル効力ハ其ノ署名
ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム但
シ尋求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券
ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム
第九十一條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因
タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ屬ス
ル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム
第九十二條 爲替手形ノ引受人ヲ手形金額ノ一部ニ制
限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受諾スル義
務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ
之ヲ定ム

第九十三條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替
手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要
ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ
行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定
ム
第九十四條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難
ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律
ニ依リテ之ヲ定ム

昭和七年 商法問題追録

第一編 總 則

第一章 法 例

▽民商二法ノ關係ヲ論セヨ(九・山尾)

一 第一條ノ法理的解釋ノ說明(東・田中)

▽甲ハ古銅礦商ヲ營マントシ沈没軍艦ヲ解體シテ引揚ケ其得タル古銅礦ヲ他ニ賣却セント試ミ、其引揚作業施行上該軍艦所在地ノ漁場ノ所有者タル漁夫乙ト交渉シ其漁場ニ於テ「ダイナマイト」ヲ使用シ爆發セシムルニ付同漁場ヲ荒廢シ且ツ其附近ニ於テ漁業ヲ爲スコト能ハサラシムルニヨリ昭和二・七・一以降三ヶ年間ニ於ケル乙ノ蒙ルムルヘキ損害ノ要價金一萬圓トシテ甲ヨリ乙ニ支拂フヘキコトヲ結約シタル本件給付契約ヨリ生スル諸法律關係ハ商法規定ノ規律ヲ受クルヤ(東北・伊澤)

二 國家ニ對スル商法ノ適用如何(明・松岡)

第二章 商人

四 商人ノ意義(日・村瀨。早・寺尾)

五 甲カ未成年者乙ニ對シ其營業上ノ契約ニ基キ請求ヲ爲シタルニ其法定代理人ハ右契約ハ乙カ既ニ營業ノ許可ヲ取消サレ且ツ甲ニ其旨書面ニテ通知

四四ノ三 營業ノ讓渡ト會社ノ合併トノ相違(行)二

第二章 合名會社

第一節 設 立

▽合名會社ト株式會社トノ特徴ト得失(東北・伊澤)

五〇 會社ニ於ケル財産出資(司) [共通] 一一二・二

三七 [關例] 五一

第二節 會社ノ内部ノ關係

五七 合名會社ノ代表社員ノ一人甲ナル者獨斷ニテ乙ヲ支配人ニ選任シ乙ハ會社ノ名ニテ第三者丙ト取引セリ、有效カ(東・竹田) [共通] 五一七・六二ノ

二二項・三〇二項

第三節 會社ノ外部ノ關係

六三 合名會社ノ社員ノ責任(日・大森) [共通] 六四・

五五

▽合名會社々員ハ會社債務ニ付何時如何ナル範圍ノ責任ヲ負擔スルヤ(明・推津) [共通] 六四・五五

▽合名會社及ヒ株式會社ノ債權者保護ノ爲ニ我商法ハ如何ナル手段ヲ講セシカ(九・山尾) [共通] 一七

七・六四——六七・七八・八〇・八二・八三ノ三・九二

第四節 社員ノ退社

六八 合名會社ニ於ケル社員退社ノ意義(專・推津)

セル後ニ爲サレタルモノナリトノ理由ヲ以テ右契約ヲ取消セリ、甲ハ右請求ノ權利ヲ失フカ、但シ甲ハ右通知ヲ開披セサルヲ以テ右許可ノ取消ヲ知ラス、又右許可ノ取消ニ就テ右法定代理人ニ於テ未タ登記ヲ經由シ居ラサルモノナリ、若シ假ニ其登記ヲ爲シタリトセハ如何(專・下飯坂) [共通] 一

二 [關例] 民八八三・非訟一六六一——一六八

第三節 商業登記

一二 商號登記ノ效力(日・村瀨) [共通] 二〇

▽商號登記ノ公定力(東北・伊澤)

第四節 商 號

一六 商號權ノ性質及ヒ其成立ノ時期(京・寺尾)

[共通] 一九・二二

一九 商號統制上ノ任務(專・下飯坂) [共通] 一七一

二一——二四

二三 營業ノ讓渡ト會社ノ合併トノ相違(行) [共通] 四四ノ三

四四ノ三

六八——七三・七五・一一七・一一八・二二三
六・二四七

第四章 株式會社

第一節 設 立

▽株式會社ノ設立(外)

▽合名會社ト株式會社トノ特徴ト得失(東北・伊澤)

[共通] 四九以下

一一二 株式會社ノ現物出資(日・大森) [關例] 一三

五・二二二ノ二

▽會社ニ於ケル財産出資(司) [共通] 五〇・二三七

[關例] 一三五・二二二ノ二

一四一 取締人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ登記シ得ルヤ(東・田中)

一四二ノ二 發起人ノ會社ニ對スル責任(專・推津)

[共通] 一四二ノ三

第二節 株 式

一四四 株主ノ拂込義務(辯) [共通] 一四六 [關例] 一

五二——一五四

▽株主ノ責任如何(早・寺尾)

▽株式會社ノ株主ノ有限責任ノ意義及ヒ其社會的根據(東・田中) [關例] 一一九以下

一四九 株式ノ流通(東北・伊澤) [關例] 一五〇・一五

三・一五四

一五三 株式ヲ拂込マサル株主ヲシテ失權セシムル要件(明・推津) [關例] 一五二・一五三ノ二・一五四
 株主ハ退社シ得ルヤ(東・田中) [共通] 一四九

第三節 會社ノ機關

第二節 取締役

一七七 合名會社及株式會社ノ債權者保護ノ爲ニ我商法ハ如何ナル手段ヲ講セシカ(九・山尾) [共通] 六三・一四二ノ二項・一四四・一五一・一七一・一七四・一九一・一九五・二〇〇ノ二・二二〇・二二六

第四節 會社ノ計算

一九四 秘密準備金(九・山尾) [關例] 一九五
 一九五 株主ニ配當スルヲ得ヘキ利益トハ如何ナルモノカ(京・竹田) [共通] 一九四・一九七
 株式會社ニ於ケル株主ノ利益配當ハ如何ニシテ之ヲ爲スカ(日・松波) [共通] 一九四・一九七

第五章 株式合資會社

二三七 會社ニ於ケル財産出資(司) [共通] 五〇・一二二 [共通] 二四二

第三編 商行爲

第一章 總則

二六三 絕對的商行爲及ヒ一方的商行爲ノ意義(日・村瀨) [共通] 三

有價證券ノ意義(日・村瀨)

取引所員ハ商人ナリヤ(東・田中) [共通] 四
 二六四 (イ)牛乳搾取販賣業(ロ)貸ボート業(ハ)映畫製造業(ニ)デパート業(ホ)不動産賣買周旋業(ヘ)喫茶店業、以上ハ商業ナリヤ、其理由(專・下飯坂) [共通] 二六三

二六五 商人ノ營業ノ爲ニスル行爲(明・松岡)
 二八一 有價證券喪失者ニ對スル商法上ノ特別救済(早・寺尾) [關例] 民訴七七七―七八五・民施五七・商施二二〇

二八五 商事債權ノ特色(行)

第三章 交互計算

第八章 運送業

第一節 物品運送

三三四 貨物引換證ノ效力(日・黒川)
 貨物引換證ノ物權的效力(早・寺尾)
 貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルカ(專・下飯坂) [關例] 三三三
 三三三ノ二 貨物引換證ヲ發行セル後其運送品ヲ質入セル場合其貨物引換證ハ讓渡シ得ルヤ(東・田中) [關例] 三三四ノ三
 三四一 運送品ノ延着ニ對スル運送人ノ責任(京・竹田) [共通] 三三七・三三九・三四〇

三四二 荷受人ト貨物引換證所持人トノ法律上ノ地位ノ差異(司) [共通] 三三三・三四

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

三八四 損害保險ト生命保險トノ間ニ存スル根本的差異(明・水口) [共通] 四二七
 三八五 被保險利益ノ觀念(專・推津)
 被保險利益ヲ明ニセヨ(九・山尾)
 三九六 第三九六條ノ場合ニ保險者カ損害填補ヲ爲スヘキ旨ノ意思表示ハ有效カ(明・水口) [關例] 三九七

第二款 火災保險

四〇一 他人ノ物ノ保管者ハ被保險者タリ得ルカ(東・田中・鈴木) [共通] 六〇六 [關例] 四三三
 四〇二 第四〇二條第一項ノ立法理由(東・田中)
 四〇四 損害保險ノ目的ノ讓渡(日・大森)
 四一〇 危險著シキ増加(日・大森) [共通] 四一一

第三款 火災保險

四一九 火災保險ニ於ケル保險事項タル「火災」ノ意義(九・山尾)

第二節 生命保險

四二七 損害保險ト生命保險トノ間ニ存スル根本的差異(明・水口) [共通] 三八四

四二八 他人ノ爲ニスル生命保險契約ノ性質(專・推津) [關例] 四〇一・四〇六・四三三

第四編 手形

第一章 總則

▽手形所有權取得ノ原因(手形編ニ規定シアル)ヲ列舉略記セヨ(日・野村) [共通] 四三七・四四一・四四三・四四四
 四三五 白地手形ノ補充權(早・大濱) [關例] 四五七・四六一
 四三六 手形行爲ノ代理ノ特色(東・田中・鈴木) [共通] 二六六・民九九
 四三七 偽造手形ノ意義及ヒ效力(早・大濱)
 甲者、丙ヲ受取人トスル二百圓ノ爲替手形ヲ振出し丙ハ其手形金額ヲ五百圓ト變造セル後支拂人乙ノ引受ヲ得テ之ヲ丁ニ裏書セリ、丙及ヒ丁ハ如何ナル手形上ノ權利ヲ有スルカ(京・竹田) [共通] 四四一

四四一 手形ノ有價證券トシテノ效用(日・山内)
 甲ハ金額七千圓、受取人ヲ自己、拂出日附ヲ昭和七・三・一〇、満期日一ヶ月据置三日前通知拂、支拂地仙臺市ト定メタル自己宛爲替手形ヲ振出し即日引受ヲ爲シ之ヲ乙ニ、乙ヨリ丙ニ法定ノ形式ヲ具ヘタル裏書ヲ爲シテ讓渡セリ、丙ハ四・三〇ニ至

リ甲ニ對シ五・四支拂ヲ求ムル旨ノ通知ヲ爲シ其通知ハ甲ニ到達シタリ、丙ハ五・四甲ニ呈示シテ其支拂ヲ求メタルニ甲ハ右手形ハ支拂義務ナシ、假ニ有效ナリトスルモ右手形ハ乙ノ金融援助ノ爲メ無償ニテ乙ニ貸與シタルモノナリテ以テ支拂義務ナシト抗辯セリ、甲ノ抗辯當否如何、因ミニ右手形ハ爲替手形ナル記載及ヒ單純ナル支拂ノ委託記載ヲ具備セルモノトス(東北・小町谷)〔國條〕四四五・四四七・四五五・四六六・四七〇

第二章 爲替手形

第一節 振出

四四五 爲替手形振出人署名當時ハ未成年者ナリシモ交付當時成年者ナリシ時ニ於ケル該手形ノ振出ノ效力(明・水口)〔國條〕五

第二節 裏書

四五六 戻裏書トハ如何(東・田中)〔共通〕五二九
四六三 手形ノ取立委任ノ裏書(辯・專・須賀)
四六四 裏書運送ノ意義(日・山田)

第三節 引受

四七〇 支拂人ノ爲シタル引受ト所謂參加引受トノ間ニ存スル差異(明・水口)〔共通〕五〇四・五〇五
四七二 支拂擔當者ノ記載アル手形ニ於ケル特別ノ效力(專・須賀)〔國條〕四五三

第八節 參加

第一款 參加引受

五〇五 支拂人ノ爲シタル引受ト所謂參加引受トノ間ニ存スル差異(明・水口)〔共通〕四七〇・五〇五

第三款 約束手形

五二五 約束手形ト小切手トノ差異(日・野村)〔共通〕五二六以下・五三〇以下

第四款 小切手

五三三 小切手ノ呈示期間ノ性質(東・田中・鈴木)〔共通〕五三三ノ二—五三四

第五編 海商

▽海商法ノ意義(明・松岡)

▽海商ノ觀念(東北・小町谷)

第一章 船舶及船舶所有者

五四四 船員ノ行爲ニ就テノ船舶所有者ノ責任(日・村瀨)

五四五 船舶所有者ト船舶債權者トノ關係(京・烏賀)

五五六 船舶賃借ト備船契約トノ區別(早)〔共通〕五五七・五九〇以下

第二章 船員

第一款 船長

五六五 第五六五條ニ於ケル船長ノ法律上ノ地位ヲ

明カニセヨ(京・烏賀陽)

▽船長ノ積荷處分ノ權限(外)〔國條〕五六八

▽船長ト積荷關係者トノ關係(東・田中・鈴木)

第三章 運送

第一節 物品運送

六二〇 船荷證券トハ如何ナルモノカ(日・松波)〔共通〕六二一—六二九

▽船荷證券ノ略說(明・松岡)〔共通〕六二一—六二九

▽船荷證券ノ性質ヲ手形ニ比較シテ說明セヨ(早)

〔共通〕六二一以下・四三四以下

第二節 旅客運送

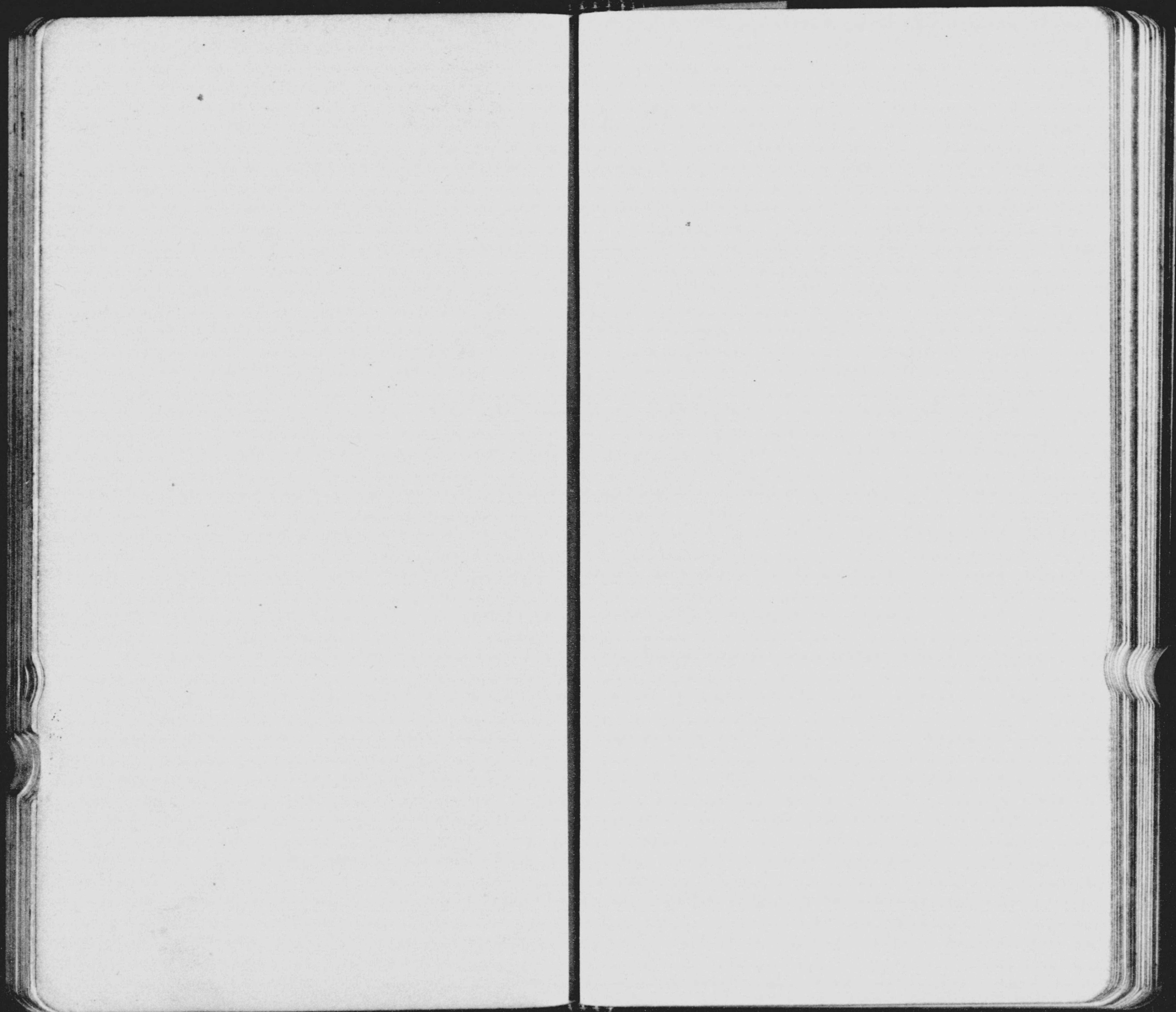
六三八 旅客死傷ノ損害賠償ニ關スル現行法ノ規定ノ論評(東・加藤)〔共通〕六三九

第四章 海損

六五〇 船舶衝突ニヨル損害ノ負擔ニ關スル原則(日・村瀨)

第五章 海難救助

六五二ノ二 海難救助ノ意義及ヒ其法律上ノ效果(日・村瀨)〔共通〕六五二ノ三以下



民訴

民事訴訟法 目次

民事訴訟法 (明三三―法二九)

第一編 總則	一
第一章 裁判所	一
第一節 管轄	一
第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避	一
第二章 當事者	八
第一節 當事者能力及訴訟能力	八
第二節 共同訴訟	八
第三節 訴訟參加	八
第四節 訴訟代理人及輔佐人	八
第三章 訴訟費用	七
第一節 訴訟費用ノ負擔	七
第二節 訴訟費用ノ擔保	七
第三節 訴訟上ノ救助	七
第四章 訴訟手續	三
第一節 口頭辯論	三
第二節 期日及期間	三
第三節 送達	三
第四節 裁判	三
第五節 訴訟手續ノ中断及中止	三

民事訴訟法 目次

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續	三
第一節 訴訟ノ準備	三
第二節 辯論ノ準備	三
第三節 證據	三
第一節 證據ノ提出	三
第二節 證據ノ取調	三
第三節 鑑定	三
第四節 書證	三
第五節 檢證	三
第六節 當事者取調	三
第七節 證據保全	三
第二章 區裁判所ノ訴訟手續	三
第三章 控訴	三
第一節 控訴	三
第二節 抗告	三
第四章 再審	三
第五章 督促手續	三
第六章 強制執行	三

第一章 總則

第一章 總則	三
第一節 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	三
第二節 動産ニ對スル強制執行	三
第三節 有體動産ニ對スル強制執行	三
第四節 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行	三
第五節 配當手續	三
第六節 不動産ニ對スル強制執行	三
第七節 通則	三
第八節 強制競賣	三
第九節 強制管理	三
第十節 船舶ニ對スル強制執行	三
第十一節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	三
第十二節 假差押及假處分	三
第七章 公示催告手續	三
第八章 仲裁手續	三
民事訴訟法施行法 (大一五)	三
民事訴訟法施行法 (法六二)	三
人事訴訟手續法 (明三一―法一三)	三
第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續	三

第二章 親子關係事件、相続人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續	一三
第三章 禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續	一四
第四章 失踪ニ關スル手續	一五
附則	一六
人事訴訟法手續法第一條第二項ノ住所指定(明三二一四八)	一六
人事訴訟法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法(明三一四九)	一六
非訟事件手續法(明三一法一四)	一六
第一編 總則	一六
第二編 民事非訟事件	一七
第一章 法人ニ關スル事件	一七
第二章 財産ノ管理ニ關スル事件	一八
第三章 信託ニ關スル事件	一九
第四章 裁判上ノ地位ニ關スル事件	一九
第五章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件	一九

第六章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相続人及ヒ親族會ニ關スル事件	一九
第七章 相続ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件	一九
第八章 遺言ノ確認及ヒ執行	一九
第九章 法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記	一九
附則	一九
第三編 商事非訟事件	二〇
第一章 會社及ヒ號賣ニ關スル事件	二〇
第二章 會社ノ清算ニ關スル事件	二〇
第三章 商業登記	二〇
第一節 通則	二〇
第二節 商號ノ登記	二〇
第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記	二〇
第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記	二〇
第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記	二〇
第六節 株式會社ノ登記	二〇
第七節 株式合資會社ノ登記	二〇
第八節 外國會社ノ登記	二〇
附則	二〇

破產法(大一一法七二)	二六
第一編 實體規定	二六
第一章 總則	二六
第二章 破產財團	二六
第三章 破產債權	二六
第四章 財團債權	二六
第五章 法律行爲ニ關スル破產ノ效力	二六
第六章 否認權	二六
第七章 取戻權	二六
第八章 別除權	二六
第九章 相殺權	二六
第一編 手續規定	二六
第一章 總則	二六
第二章 破產宣告	二六
第三章 破產管財人	二六
第四章 監査委員	二六
第五章 債權者集會	二六
第六章 破產財團ノ管理及換價	二六
第七章 破產債權ノ届出及調査	二六
第八章 配當	二六
第九章 強制和議	二六
第十章 破產廢止	二六
第十一章 小破產	二六

第三編 復權	二七
第四編 罰則	二七
附則	二七
和議法(大一一法七二)	二七
第一章 總則	二七
第二章 和議ノ開始	二七
第三章 和議債權及其ノ届出	二七
第四章 債權者集會	二七
第五章 和議ノ認否	二七
第六章 和議ノ廢止	二七
第七章 讓歩及和議ノ取消	二七
第八章 罰則	二七
附則	二七
借地借家調停法(大一一法四一)	二七
借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件	二七
借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件	二七
(大一一一)	二七
(大一一八)	二七
借地借家調停法ノ施行期日	二七

及施行地區ニ關スル件	二七
(大一一六)	二七
小作調停法(大一一法一八)	二七
小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件(大一一八)	二七
附則	二七
七年 民訴問題追録	二七

民事訴訟法

(明治二十三年四月二十一日
法律第二十九號)

改正、明治三一—法律一一、明治四
四—法律七二、大正一一—法
律五四、大正一五—法律六一、
昭和六一—法律一七

朕民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治
二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法

第一編 總則

第一章 裁判所

第一節 管轄

第一條 訴ハ被告ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管
轄ニ屬ス
◇二—四—普通裁判籍ノ所在・二七—管轄ノ合意
ノ制限。裁構四—裁判所ノ設立廢止及管轄區域
並ニ其ノ變更。

【問題】

▽民事訴訟法ノ性質(大二・東・仁井田。大九・京・雉
本)

- ▽訴訟行為(昭二・司)
 - ▽民事訴訟法ノ目的(昭三・東・松岡)
 - ▽私權確定ノ手續(大一四・東・松岡)
 - ▽私權保護請求權ノ意義及發生ノ條件(大元・東・仁
井田)〔共通〕憲二四
 - ▽裁判ノ種類ト其別(大一—早・神谷)〔共通〕陪審一
 - ▽判決ヲ四種ニ分ツ學說批判(大一五・京・山田)
 - ▽民事訴訟ト非訟事件トノ區別(大元・大三・大四・
東・仁井田)
 - ▽現行民事訴訟法ノ下ニ於ケル當事者主義(昭六・
東・大森)
 - ▽辯論主義・口頭主義・書面主義・公開主義及非公開
主義ノ區別及關係(大元・京・雉本)
 - ▽干渉主義、不干渉審理主義ノ長短(昭三・東・松岡)
 - ▽訴ノ意義(大一・大二・日・前田。昭二・日・日高)
 - ▽訴ノ意義ト種類(大元・大四・大一四・東・仁井田。
大一四・東・加藤。大一四・日・森田)
 - ▽形成訴訟(大一五・京・山田。昭四・行)
- 第一編 總則
第一章 裁判所
第一節 管轄
- ▽管轄(昭二・司口)
 - ▽普通裁判籍(大元・京・雉本。大一三・昭四・明岩)

22 占有權ノ價格カ問題ト爲リタルトキハ常ニ所有權ノソレヲ標準トシテ算定スヘシ (昭四・大審「法評一九卷二號二五一頁」)

第十六條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十七條 管轄合意ノ制限。商六五二ノ二以下。○二七ニ管轄合意ノ關スル訴ハ不動產所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 登記又ハ登錄ニ關スル訴ハ登記又ハ登錄ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 管轄合意ノ制限。不登法。立木登記規則ハ他死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ行爲ニ關スル訴ハ相續開始ノ時ニ於ケル被相續人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

○二七ニ管轄合意ノ制限。民九六六・九九三・一〇〇四以下。一〇一〇以下。一〇一三〇以下。一〇六四・五五四。

第二十條 相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部カ前條ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限リ其ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

○二七ニ管轄合意ノ制限。民一〇四一。

第二十一條 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

○五九ニ普通共同訴訟。二二七ニ客觀的訴ノ併合。二七ニ管轄合意ノ制限。

第二十二條 裁判所構成法ニ依リ管轄カ訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

○二八ニ管轄事項ノ職權調査。裁構一四第一・二六第一。民印三。

第二十三條 一ノ訴ヲ以テ數個ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價額ヲ合算ス

果實、損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求カ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ訴訟ノ目的ノ價額ニ算入セス

○二一ニ一ノ訴ニヨル數個ノ請求ト裁判籍。民八八・四一五・七〇九・四二〇三項。商四九一・一八二・四九二一項。

二一 土地ノ管轄(大三・東・仁井田) (關例) 二三

二三 訴訟物ノ價額(昭三・中・神谷) (關例) 二三

二四 事物ノ管轄(大三・東・仁井田) (關例) 二三・二二・裁構一四・二六

二五 訴訟ノ目的ト舊法訴訟物トノ關係如何(昭四・關井上) (關例) 舊訴二

26 舊法第三十條ニ本案ノ辯論トハ訴訟ノ目的タル權利又ハ法律行爲ニ付事實上又ハ法律上ノ陳述ヲ爲スノ謂ナルコト法文上明ナリ (大九・大審「法新一七八九號」)

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ム

一 管轄裁判所及裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リテ之ニ代ルヘキ裁判所カ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所カ定ラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○一五〇ニ申立其他ノ申述方式。一二五ニ口頭辯論主義。二〇四ニ決定命令ノ效力發生並ニ書記ノ事務。二〇五ニ訴訟指揮ニ關スル決定命令ノ效力。二〇七ニ決定命令ノ通則。

第二十五條 當事者ハ第一審ニ限り合意ニ依リ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基ク訴ニ關シ且書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

○二七ニ管轄合意ノ制限。

第二十六條 被告カ第一審裁判所ニ於テ管轄違ノ抗辯ヲ提出セスシテ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ管轄權ヲ有ス

○二四九以下ニ口頭辯論準備手續。二五四・二五五ニ準備手續後ノ口頭辯論ト準用規定。二七ニ管轄合意ノ制限。

第二十七條 第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

○四二二ニ一ニ再審ノ管轄。四三一ニ督促手續。五六三ニ強制執行ノ裁判籍。七七九ニ公示催告手續ノ裁判籍。

第二十八條 裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

二四 管轄ノ指定(大一四・明・岩本)

二五 合意管轄ノ要件(大二・東・仁井田。大五・中。大五・日。大一五・中・細野。大六・大一〇・中・前田。大一三・昭五、昭六・京・山田。昭三・司)

二六 當事者ハ外國裁判所ヲ管轄裁判所トスル合意ヲ爲シ得ルカ(大七・中・前田。大八・東・仁井田)

二八 管轄ノ調査及其ノ欠缺ノ效果(昭五・早・神谷) (共通) 三〇

二九 管轄違ノ效果(昭五、昭六・辯)

第二十九條 裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム

○二二三 訴ノ提起方式・二三二 訴ノ變更・二三三 先決的確定ノ訴・二三九 反訴要件・二三四 反訴準則・三五二 以下 區裁判所ノ訴訟手續・三五六 項 和解調ハサル場合・四四二 支拂命令ニ對スル異議ノ效果

第三十條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部カ其ノ管轄ニ屬セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

○二二五 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令

第三十一條 裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著キ損害又ハ遲滞ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除外ノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得

○二七 管轄合意ノ制限・一五〇 申立其他ノ申述方式・一二五 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令

第三十二條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ屬東ス

移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得ス

第三十三條 移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ス

○三〇・三一 訴訟事件ノ移送

第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

○三五 判事ノ除斥原因・三六 判事ノ除斥又忌避ノ申立及其要件・一五〇 申立其他ノ申述方式

第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 上告理由・四二〇 一項 再審ノ物體・一二五 以下 口頭辯論・二四九 以下 辯論ノ準備手續

第三十條 以下 一・七三二 以下

35 裁判ノ言渡ハ既ニ成立シタル裁判ヲ外部ニ發表スル手續ニ過キス從テ前審ニ關與シタル判事ト雖其言渡ニ關與スルヲ防ケス(昭五・大審「評論二〇卷一號一六七頁」)

37 偏頗ノ忌避ハ判事カ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ訴フニ足ルヘキ事情アルヲ要ス單ニ申出テタル證據調ヲ許容セサルハ理由トナラス(大二・大審「大判民訴一九號」)

第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル

一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ債遺義務者タル關係ヲ有スルトキ

二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

三 判事カ當事者ノ後見人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ

四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ

六 判事カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十九條 上告理由・四二〇 一項 再審ノ物體・一二五 以下 口頭辯論・二四九 以下 辯論ノ準備手續

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

○三五 判事ノ除斥原因・三六 判事ノ除斥又忌避ノ申立及其要件・一五〇 申立其他ノ申述方式

第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 上告理由・四二〇 一項 再審ノ物體・一二五 以下 口頭辯論・二四九 以下 辯論ノ準備手續

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

第三十條 以下 一・七三二 以下

45 隱居者及家督相続人ニ非ル者カ提起スル隱居無効ノ訴ニ於テハ隱居者及家督相続人ヲ以テ相手方トス其一人死亡後ハ生存者ヲ相手方トス(昭四・長控「法新二九五二號」)一當該審級ニ於テ防衛者ノ地位ニ立ツ者ノ後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行為ヲ爲スニ付テハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(昭三・大審「法新二〇一號一三頁」)

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ裁判所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ之ヲ疏明スルコトヲ要ス前條第二項但書ノ事實亦同シ
第一五〇ニ申立其他ノ申述方式・一五六以下ニ期間・二六七ニ疏明方法ノ原則・四二ニ除斥又ハ忌避申立ト訴訟手續ノ停止。民印六ノ二。
第三十九條 合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所、區裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス
第一二五ニ口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七ニ決定命令。裁構三・一九・三二・三四・四〇・四三・五三・一一。
第四十條 判事ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判ニ關與スルコトヲ得ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得
第四十一條 除斥又ハ忌避申立ノ方式及管轄。對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第四十二條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テハ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル行為ニ付テハ

此ノ限ニ在ラス
第三十八條 判事ノ除斥又ハ忌避ノ申立。
第四十三條 第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於テハ判事ハ監督權アル判事ノ許可ヲ得テ回避スルコトヲ得
第四十四條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス
裁構八五以下ニ裁判所書記。
第二章 當事者
第一節 當時者能力及訴訟能力
第四十五條 當事者能力、訴訟能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從テ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ
第一ニ權利能力ノ始期。二ニ外國人ノ權利能力。四三ニ法人ノ權利能力。三六ニ外國法人ノ認許及權利能力。七二ニ損害賠償ニ付キ胎兒ノ地位。九六八ニ胎兒ノ家督相続權。九九三ニ遺產相続ト準用規定。四一項。五・六一項ニ未成年者行為能力。八ニ禁治產宣告ノ效力。一二一四一項。一五ニ妻ノ行為能力。八八四ニ親權者ノ子ノ財產管理權。九〇〇ニ後見開始ノ時期

49 人事訴訟ニ屬スル訴ハ苟モ意思能力アル以上未成年者ト雖モ自ラ獨立シテ當事者トシテ訴訟行為ヲ爲シ得ルモノトス(昭三・大審「法新二九四七號一頁」)

第九三ニ後見人ノ財產管理權。商六。人訴三・二六・三九。
第四十六條 法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得
第五八ニ本條ノ代表者又ハ管理人ニ關シテ準用サルル規定。民三三以下ニ法人。
第四十七條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得
訴訟ノ繫屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ變更スルコトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ脫退ス
第五二ニ法定代理權又訴訟行為ニ付テノ授權及選定當事者ノ選定又變更ノ證明。五七ニ項ニ當事者ノ變更。
第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者中死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得
第四十九條 未成年者及禁治產者ハ法定代理人ニ依リテノ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ法律行為ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三九五ニ項4ニ上告理由。2項ニ追認。四二〇

1項3ニ再審ノ物體。民八八四。九〇〇。九二二。三・四一。五・六一。項。商六。人訴三・二六・三九。
第二章 當事者
第一節 當事者能力及訴訟能力
四五 當事者ト正當ノ當事者トノ區別(大二・京・雉本。昭六・東・加藤)
當事者能力(昭二・明・早川。昭五・司) [關例] 民一・二・四三・商六
當事者適格(昭六・日・小野)
當事者能力、訴訟能力(大一五・司口。昭三・行) [關例] 四九・二二三 [關例] 民一・二・四三・商六・五
四五・五二・六三・八五
四六 形式的當事者能力(大一三・京・山田) [關例] 四七・五二
四九 訴訟能力(大八・明。大九・中・細野。大一〇・中・吉田。昭三・中・前田。昭五・明・岩本) [關例] 五〇・五一 [關例] 五三・六三・八五
訴訟條件、當事者能力、訴訟能力(大一五・司口) [關例] 四五・二二三 [關例] 五〇・五一・五三・六三・八五・民一・二・四三・商六

62 遺産相続ニヨリ繋争不動産ノ共有權ヲ取消シタルヲ理由トシ共不動産上ニ有スル不法登記ノ抹消ヲ請求スル如キハ所謂必要的共同訴訟ニ非ス(昭五・大審「評論二〇卷一號」)

64 訴訟ノ一方ノ勝敗ニヨリ將來發生スヘシト想定セル單純ナル事實上ノ利害ヲ詳ニシテ判決ニヨリ影響ヲ受クヘキ現存スル利害ヲ詳カニスルニアラサルトキハ從參加ヲナシ得ヘキモノニ非ス(大七・大控「法新一三九九號二六號」)

第六十條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサス

第六十二條 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中断又ハ中止ノ原因アルトキハ其ノ中断又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス

第六十三條 取立手續ニ於テ第三債務者不履行ニ對スル救済ニ〇八以下ニ訴訟手續ノ中断及中止。民二五一・三九五。商一六三二項。破一六三一

項。信二四。人訴二二項。二〇・二六。スルニハ他ノ組員全員ヲ相手方ト爲スコトヲ要ス(昭和五・大審判)。

第六十三條 第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行爲ニ之ヲ準用ス

第三六〇 控訴物體ノ原則。三九三 上告ノ物體

第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シスコトヲ要ス

第六十六條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第六十七條 前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第六十九條 前項ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セザル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザル場合ヲ除ク外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

66 從參加人トシテ附隨スルコトヲ得ルノ權利ハ補助セラルルモノノ欲スルト否ト其意思ニ反スルト否トニヨリ何等ノ消長アルコトナシ(昭三・東控「法新二八〇七號」)

第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シスコトヲ要ス

第六十六條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第六十七條 前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第六十九條 前項ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セザル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザル場合ヲ除ク外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

・四一〇 普通抗告。

第三節 訴訟參加

第六十四條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第四九七ノ二項 第三項 對スル判決ノ執行。

一・中・沼

共同訴訟ノ種類、訴訟人ノ地位(大二・京・雉本。昭三、昭五・早・神谷) 六〇一六三

主參加(大一・中・遠藤。大一三・中・前田。大一四・東・松岡。昭二・關・勅使河原) 六四

參加ノ種類(昭五・行。昭五・司) 六四・七一・七四・七五

必要的共同訴訟(大三・京・雉本。大一三・京・山田。大一四・明・岩本。昭二・東・加藤。昭二・行。昭五・京・山田) 六五・六三・六一・人訴二二〇・二六・民二五一・三九五・商一六三・破一六三

第三節 訴訟參加

六四 從參加(大二・大三・東・仁井田。昭二・關・勅使河原。昭三・中・前田) 六〇・四九七ノ二

訴訟參加(昭五・行。昭六・辯)

參加人ノ訴訟行爲ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許ササル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 參加理由ノ説明ト許否ノ裁判。

提出ノ異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

參加人ノ訴訟行爲カ被參加人ノ訴訟行爲ト接觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セス

一三七 攻撃防禦方法ノ提出時期。三六〇 控訴物體ノ原則。三九三 上告ノ物體。四一〇 普通抗告。

第七十條 前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セザル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザル場合ヲ除ク外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

第七〇 參加人ニ對スル判決ノ效力(昭二・早・中村)

71 第一審判決言渡後第三者ハ本條ニ依ル參加申出ト共ニ控訴提起ヲ爲シ得(昭六・法決「法曹九卷五號一四七頁」)一訴訟當事者ノ委任ヲ受ケ其總理代人トシテ訴訟代理人選任ノ權限ヲ有スル者ハ當事者ノ爲ニ訴訟代理人ヲ任設シ得ヘキモノトス(大九・大控「法新一七〇九號二一頁」)

第七十一條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲メ訴訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十三條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第七十四條 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

第七十五條 規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第七十二條ノ規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ヲ引受アリタル場合ニ依リテ準用ス

第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ヲ告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ニ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十二條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十三條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

81 訴訟代理人カ其權限ニ基キ選任シタル後代理人ハ獨立シテ當事者本人ノ訴訟代理人トナルモノニシテ其代理人ノ監督ノ下ニ立タス(大九・大審「法新二五二五號」)

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ニ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十二條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十三條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニシテ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ヲ告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ニ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十二條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十三條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十四條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十五條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十六條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十七條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

第八十八條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル

總則 當事者 訴訟代理人及輔佐人

85 傳聞事實ニ基ク證言ト雖モ裁判所カ之ニ措信スルトキハ事實認定ノ資料トシ得 (昭六・大審「法新二〇卷四號二三三頁」)

87 假リニ許サレタル訴訟行爲ハ後ノ欠缺補正ニ因リ初ヨリ有效ノ訴訟行爲ト爲ルモノニシテ訴訟無能力者或ハ資格又ハ授權ナキ法律上代理人ノ訴訟代理ハ各之ヲ追認スルニ因リ有效トナル (大三・長控「法新九五八號」)

第八十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

第八十三條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ生セス

第八十四條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

第八十五條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セス

第八十六條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ

準用ス

第八十七條 第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條 當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八十九條 訴訟代理人ノ事實陳述ノ效力。

八一 訴訟代理權ノ範圍及其ノ消滅原因 (大三・京・雑本。昭三・辯。昭五・日・森田。昭五・辯。昭六・中・細野)

八五 民訴第八五條ニ當事者ノ死亡ニ因リテハ訴訟代理權ハ消滅セストノ意義 (昭六・日・小町)

總則 訴訟費用 訴訟費用ノ負擔

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第八十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十條 裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナルヲ行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナルヲ行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 當事者カ適當ノ時期ニ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滞セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ遲滞ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナルヲ行爲ヲ爲シタル當事者ヲシテ其ノ行爲ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス

第九十五條 裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ争ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス場合亦同シ

第九十七條 毀差戻又移送。當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル

ス(大五・大審「大判民二二輯一四〇九頁」)
 113 不當ナル假處分ニヨリ損害ヲ被リタル被假處分者ハ其假處分ニ付保證トシテ供託セラレタル現金又ハ有價證券ヨリ賠償ヲ受ケ得ヘキモノトナササル可カラス(大二・大審)
 115 控訴棄却ノ判決及第一審ノ執行ヲ停止スル爲上告裁判所カ保證ヲ立テシメタルトキハ第一審判決ノ執行ヲ停止スル爲曩キニ爲シタル供託證ハ之レヲ還付スヘキモノトス(昭三・大審「大判

ヲ標準トシテ之ヲ定ム
 ◇一〇七一項 被告ノ訴訟費用擔保供與ノ申立要件・一五〇七一項 被告ノ訴訟費用擔保供與ノ申立要件・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令・一五八一項 期間ノ伸縮。
 第百十一條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 ◇一〇七一項 訴訟費用擔保供與ノ申立要件・四一五〇七一項 即時抗告ノ提起期間。
 第百十二條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル
 第百十三條 被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス
 ◇民三四二以下 質權。
 第百十四條 原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 ◇一〇七一項 訴訟費用ノ擔保供與ヲ命スル決定ト供與期間並ニ擔保額・一二五〇七一項 當事者ノ審訊不適
 第百十五條 擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ
 訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス
 第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 ◇一〇七一項 被告ノ訴訟費用擔保供與ノ申立要件・一五〇七一項 申立其他ノ申述方式・一二五〇七一項 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令・四一五〇七一項 即時抗告提起期間。

第三章 訴訟費用
 第二節 訴訟費用ノ擔保
 一五 取消ノ訴ト原狀回復ノ訴トノ異同(昭二・日・日高) (國例) 一二二・一五・民一九一・一九五・二〇〇・二〇一・二〇五

第百十六條 裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス
 ◇一五〇七一項 申立其他ノ申述方式・一二五〇七一項 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令。
 第百十七條 第九條、第十條第一項及第百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス
 ◇商一六三ノ三。衆議院議員選舉法八七。
 第三節 訴訟上ノ救助
 第百十八條 訴訟費用ヲ支拂フ責力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル
 ◇一二四〇七一項 申立其他ノ申述方式。
 第百十九條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ救助ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス
 ◇二六七〇七一項 疏明ノ方法。
 第百二十條 訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス
 一 裁判費用ノ支拂ノ猶豫
 二 執達吏及裁判所ニ於テ附添ヲ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫

三 訴訟費用ノ擔保ノ免除
 ◇四九七以下 強制執行・一二三 受救費用ノ取立・一三五二項 辯護士附添ト通知・一〇七 被告ノ訴訟費用擔保供與ノ申立。執手規一三。
 第百二十一條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニノミ其ノ效力ヲ有ス
 裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス
 ◇七四一項 引受參加・二〇八一項 當事者死亡ト訴訟手續ノ中斷・一二四〇七一項 即時抗告。民費一九。
 第百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス責力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得
 ◇一五〇七一項 申立其他ノ申述方式・一二四〇七一項 即時抗告。民費一九。
 第百二十三條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得
 辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代

125 民事訴訟法ハ判決裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テノ當事者ノ辯論ニ付口頭辯論主義ヲ採用セルカ故ニ裁判所ハ判決ヲ爲スニ當ツテハ先ツ原告ヲシテ一定ノ申立ヲ爲サシメ且請求ノ原因及其申立ニ因テ生スル所ノ事實ニ付陳述ヲ聽クコトヲ要スルモノトス(大一五・東控)

リ第百三條又ハ第百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得
○一二〇〃訴訟上ノ救助附與ノ效力・一二四〃即時抗告ノ民費一八三項
第百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
○四一五〃即時抗告ノ提起期間。

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第百二十五條 當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム
前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲サル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス
○二三〇〃口頭辯論ノ期日指定・二〇四・二〇五
・二〇七〃決定命令・一一四〃訴訟費用擔保供與ヲ命スル決定ノ效力・二〇二〃不適用ナル訴ノ却下・三一四・三九六〃上告提起ノ審訊・三九三〃控訴却下・三九六〃上告提起ノ效力・三九九〃上告理由書・四〇一〃上告放棄ノ判決・五九七〃差押命令・七三五〃作爲不作爲ノ債權

ニ付テノ執行通則・七四二一項〃假差押命令申請ニ付テノ裁判ノ種類及其通知・七五六〃假處分ノ命令其他ノ手續・七四二項〃訴訟引受の參加・二八三一項〃證言拒絶ノ當否ニ付テノ裁判・四一九〃抗告ノ審理・四三四一項〃支拂命令ノ發行。裁權一〇三。
第百二十六條 口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス
裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得
○一二九〃口頭辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命令ト當事者ノ異議。

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

二二五 辯論主義(大三・東・仁井田。大三・大四・京・雄本。大五・早・細野。大一三・京・山田。大一五・日・細野。昭四・明・岩本。昭四・早・細野) (國例) 二六・一二七・一三一・一三七
▽口頭辯論(昭四・司口) (國例) 一二六以下
▽口頭主義(書面主義)(大三・京・雄本。昭四・東・菊井。昭五・明・岩本) (國例) 一四二・二四二

127 裁判長ハ不明瞭ナル申立ヲ釋明スヘキ旨ヲ規定セルニ依テ見レハ當事者ノ判決ヲ求ムル事項ノ申立ニシテ不明瞭ナルトキハ之ヲ釋明シテ明確ナラシメタル後其請求ノ當否ヲ判定スヘキハ當該裁判所ノ職責ナリトス(大七・大審)

第百二十七條 裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得
陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得
當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得
○一二九〃口頭辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命令ト當事者ノ異議。二九八〃證人訊問ト陪席判事ノ發問權。二九九〃證人訊問ト當事者ノ發問權。

第百二十八條 裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日ヲ準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
第百二十九條 當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依ル裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス
○一二五〃口頭辯論主義。一二六〃口頭辯論ニ關スル裁判長ノ指揮。二〇四・二〇五・二〇七〃決定命令。

第百三十條 受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス
裁判所ノ爲ス嘱託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判長之ヲ爲ス
○一三六〃和解ヲ試ムル權。二四九〃口頭辯論ノ

準備手續・二六五一項〃裁判外ニ於テ爲ス證據調。二七九〃出頭義務ナキ證人ノ訊問方法。三二二〃法定代理人ノ訊問。一三一〃一五〃必要ナル調査ノ囑託。二六二〃證據調ニ必要ナル調査ノ囑託。二六四〃外國ニ於テ爲ス證據調。三一〇一〃鑑定ノ囑託。三一九〃文書カ第三者ノ手ニアル場合ノ書證申出ノ特別。三四二〃當事者訊問其他ノ手續ト準用規定。三二八一〃一〃文書眞否ノ立證手續。三三五〃檢證其他ノ手續。

二二七 釋明權(昭五・東・大森。昭六・東北・勅使河原) (國例) 一二八・一二九

133 裁判所ハ當事者ノ辯論再開ノ申請ニ對シテ許可ノ決定ヲ爲スコトヲ要スルモノニアラズ(大一〇・大審「大判民錄二七輯二二七頁」)

第三百三十一條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト
- 二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト
- 三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト
- 四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト
- 五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス

○三三三以下ニ檢證・三〇一以下ニ鑑定・二六二ニ裁判所ト調査ノ囑託。民八八四・九〇〇・九二二。

第三百三十二條 裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得

第三百三十三條 裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第三百三十四條 辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ聲若ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ聲者又ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

○三〇一以下ニ鑑定。裁構一一五一一一八。

第三百三十五條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

○七九ニ訴訟代理人ノ資格・八八ニ訴訟ノ輔佐人。民八八四・九〇〇・九二三。民費八。

第三百三十六條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ和解ヲ試ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シムルコトヲ得

裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

○九七ニ裁判上ノ和解ト訴訟費用ノ負擔。一四四ニ口頭辯論調査記載事項。二〇三ニ和解、請求ノ拋棄又ハ認諾ノ效力。三五六ニ訴提起以前ノ和解申立。民八八四・九〇〇・九二三。

一三六 和解(大ニ京・雉本。昭四・東・菊井。昭五・司口)(共通)二〇三・三五六

140 當事者ノ一方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルコトヲ以テ直ニ争ハサルモノト解スル如キハ本條第一項ノ本旨ニ副ハズ(昭六・大審「法評二〇卷二號一九五頁」)

第三百三十七條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

○二五五ニ準備手續後ノ口頭辯論・三八〇ニ控訴審ト第一審ニ於ケル訴訟資料ノ效力・一三九ニ攻撃防禦方法ノ却下。

第三百三十八條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

○二二四ニ訴狀記載事項・二四四ニ準備書面記載事項・二四七ニ準備書面ニ記載ナキ事項ノ效力

第三百三十九條 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遅延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサルトキ前項ニ亦同シ

○一五〇ニ申立其他ノ申述方式・一二五ニ口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七ニ決定命令・一二七・一二八ニ裁判長ノ釋明權。

第四百十條 當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張

シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス

○二五七ニ事實ノ證明。

第四百十一條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滞ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

一三八 第三百三十八條ノ說明(昭六・東北・勅使河原)

△當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ不出頭ノ場合ノ手續(昭三・明・岩本)

一四〇 自白ノ性質、效果(大元、大二・京・雉本。大

四、大ニ中・前田。大五・日・細野。大一四・東・加藤。昭五・中・細野。昭五・辯口。昭六・明・岩本)

▽裁判外ノ自白ト裁判上ノ自白トノ區別、效力(大

三・東・仁井田。昭二・早・神谷。昭三・早・中村)

(關係)一四四・四二〇・二五六

一四一 責問權(昭五・東・大森。昭六・東北・勅使河原)

第四百二十二條 口頭辯論ニ付テハ裁判所書記日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第四百二十三條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其ノ席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

- 一 事件ノ表示
- 二 判事及裁判所書記ノ氏名
- 三 立會ヒタル檢事ノ氏名
- 四 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並陪席シタル當事者ノ氏名
- 五 辯論ノ場所及年月日
- 六 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由

○一四二 口頭辯論調書作成者及作成時期・七九

二 訴訟代理人ノ資格・八八 訴訟ノ輔佐人・一三四

三 通事ノ立會・三九五 上告理由・裁構三・四〇・五三・九一・三項

四 一〇五 人訴・五・二六・四五・六七・七四 民八八四・九〇〇・九二三 憲五九

第四百二十四條 調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

- 一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
- 二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
- 三 檢證ノ結果

第四百二十五條 調書ニハ書面、寫真其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

○一四二 口頭辯論調書作成者及作成時期

一四四 認諾(昭五・司口。昭六・東・大森。昭六・京・山田) 關保五〇・二〇三

第四百二十六條 調書ニハ書面、寫真其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

五 書面ニ作ラサル裁判

六 裁判ノ言渡

○一四二 口頭辯論調書作成者及作成時期・一三

六 和解ヲ試ムル權・三五六 訴提起以前ノ和解申立・二〇三 和解請求ノ拋棄又認諾ノ效力・三六四 控訴權ノ拋棄・三九六 上告審ノ訴訟手續・四一四 抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續・二二六 訴ノ取下要件・二八五 證人宣誓ノ方式・三〇七 鑑定人ノ宣誓方式・一八八 判決言渡ノ效力・二〇七 決定命令通則。裁構九一・三項

149 受訴裁判所ノ囑託ニ基キ受託判事カ證人ノ訊問ヲ爲シタル場合ニ於ケル調書ハ口頭辯論調書ニアラス(昭五・大審「評論二〇卷一號一五五頁」)

152 期日指定ノ申立ヲ却下スル裁判ハ訴訟ノ宣明ナルヲ以テ裁判所ノ決定ヲ以テスヘク裁判長ノ職權ニ屬スルモノニ非ス(昭五・大審「評論二〇卷一號一七五頁」)

第四百二十六條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

○一四二 口頭辯論調書作成者及作成時期・一五

○申立其他ノ申述方式・二〇六 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議

第四百二十七條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ減失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○一四二 口頭辯論調書作成者及作成時期

第四百二十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得

第四百二十九條 第四百二十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

第四百五十條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作り之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

○七七 訴訟告知ノ方式及送達・二二三 訴ノ提起方式・二三二 請求ノ基礎變更・一三四 先決的確定ノ訴・二三六 訴ノ取下要件・二四二

一六四 二項 送達書面ノ送達方法

第四百五十一條 當事者ハ訴訟記録ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

○二六七 疏明ノ方法。裁構八一項

第四百五十二條 期日ハ裁判長之ヲ定ム

受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ判事之ヲ定ム

期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

○三五四 訴提起ノ方式・六五七 競賣前ノ手續・六九三 一項 不動產強制競賣ト賣却代金ノ支拂及配當期日ノ指定

第二節 期日及期間

171 所謂成長シタル云々トハ送達ノ何タルヲ了解シ宛名人ニ當該書類ノ傳達スルコトハ任ヘタリト認メ得ラルル者ヲ云フ故ニ其年齡ノ如何ハ之レヲ問ハス(大一四・大審「法新二五二三號九頁」)一裁判所ノ爲シタル裁判ハ法律ノ規定ニ違背シタル場合ニ於テモ不服申立ノ方法ニヨリ適法ニ取消ササル限り其形式上ノ效力ヲ保有スルモ之カ爲メ常ニ必スシモ實質上ノ效力ヲモ發生スモノトナスコトヲ得ス(大六・大審「大判民二三輯九三〇頁」)

第百六十八條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス
 第百六十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營業所又ハ事務所ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
 送達ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト明ナラサルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキ亦同シ
 第百七十條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
 送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得
 第一項ノ届出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第百七十一條 送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得
 前項ニ掲クル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得
 第百七十二條 前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得
 第百七十三條 第百七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス
 第百七十四條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日以後ニ於テ執達吏ニ依ル送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス
 前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス
 前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受ク

ヘキ者カ之ヲ受取リタル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス
 第百七十五條 外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス
 第百七十六條 出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上級司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス
 前項ノ送達ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス
 第百七十七條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
 第百七十八條 裁判書記自ラ爲ス送達
 第百七十九條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ第七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得
 同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第百八十二條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁

第百七十九條 公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス
 裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得
 第百八十條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ第七十八條第二項ノ公示送達ハ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス
 前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス
 第百八十一條 送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス
 第百八十二條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁

第百八十一條 送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス
 第百八十二條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁

185 辯論主義ノ行ハルル範圍ニ於テハ裁判所ハ當事者一方ノ申立テサル事實ニ基キ相手方ニ不利益ナル裁判ヲ爲スヲ得ス(昭六・大審「法評二〇卷六號一九二頁」)

判所ハ終局判決ヲ爲ス
○三六〇 控訴物體原則・三九三 上告物體・九五 訴訟費用ノ裁判
第百八十三條 訴訟ノ一部カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數個ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス

○三六〇 控訴物體原則・三九三 上告物體・三二二 口頭辯論ノ指揮・二二七 客觀的訴ノ併合・二二九 反訴要件・九五 訴訟費用負擔者

第百八十四條 獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ争ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付争アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ

第百八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

第百八十六條 裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與

第百八十九條 判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告クルコトヲ得

第百九十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 主文
二 事實及争點
三 理由
四 當事者及法定代理人
五 裁判所

事實及争點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第百九十二條 判決ニ記載スヘキ事項(昭三・明・早川)

判決ノ作製及方式(大元・京・雉本) 一八六一

三五九 判決書ノ形式・一八九一 項 判決主文ノ朗讀・一八九二 項 判決理由ノ朗讀。民八八

195 訴ノ變更アリトシテ控訴却下ノ判決ヲ爲シタルトキハ其ハ中間判決ニ非スシテ終局判決ナリトス (昭三・大審「大判民第七卷八九八頁」)

第九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作り之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シテ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一二五〇口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七決定命令・一五〇〇申立其他ノ申述方式

第九十五條 裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脱漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

訴訟費用ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第四百四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シテ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス

一五〇〇申立其他ノ申述方式・八九以下ノ訴訟費用ノ負擔

第九十六條 財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セスシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

一九七〇訴訟費用ノ擔保ト準用規定・七五六ノ二〇假處分取消ノ判決・四三八一〇支拂命令ニ對スル假執行宣言ノ要件・二〇一三項假執行宣言ノ效力・三七五〇控訴審ニ於ケル假執行宣言・四〇六〇上告審ニ於ケル假執行宣言・四九七〇債務名義タル判決ノ種類・一九一〇項一〇判決主文。民印六ノ二。

第九十七條 第一百十二條、第一百十三條、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

一九四 判決ノ更正及補充(昭二・東・加藤) (關係) 一九四 判決ノ更正及補充(昭二・東・加藤) (關係) 一九四 判決ノ更正及補充(昭二・東・加藤) (關係)

追加判決ト更正判決トノ差異(大一・三・中・前田) (共通) 一九五

第九十八條 假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

五五〇一強制執行ノ停止又制限實施ノ場合・五五〇二強制執行ノ停止又制限ノ程度

第九十九條 確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス

相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル類ニ付既判力ヲ有ス

一九一〇項一〇判決主文・四九八〇判決ノ確定及其遮斷。民五〇五。

第二百條 外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セサルコト

二 敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依ラシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト

三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト

四 相互ノ保證アルコト

五〇一四・五〇一五外國裁判所ノ判決ノ執行。承繼人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス

七〇〇〇裁判ノ參加人ニ對スル效力・七二〇〇被參加人ノ脱退及判決ノ脱退者ニ對スル效力・七四〇〇項訴訟引受ノ場合ノ準用・四九八〇判決ノ確定及其遮斷・四七〇〇選定の訴訟當事者・一九八〇・二六・三九。破二五〇・一六二。商九九ノ四一〇項・一六三〇項・二二二〇項・二二二〇項

一九九 既判力(昭三・明・細野。昭三・早・中村。昭四・司口) (共通) 二〇一

一九九條第一項第二項ノ說明(昭六・東北・勅使河原)

二〇一 既判力(昭三・細野。昭三・早・中村。昭四・司口) (共通) 一九九

判決ノ形式的確定力(大一・五・日・大丸) (關係) 四九八

203 請求ノ拋棄ハ口頭辯論若クハ準備手續ヲ實行スル受命判事ノ面前ニ於テ爲ササル限リ效力ナシ(昭五・大審「評論二〇卷一號一八〇頁」)

204 判決以外ノ裁判ハ其裁判カ外部ニ對シテ效力ヲ有スルト同時ニ執行力ヲ生スヘキモノトス(昭五・法決「法曹九卷二號一二〇頁」) 一 訴訟ノ進行中當事者ノ一方カ中斷中ノ訴訟行爲ヲ明ニ承認シタルトキハ勿論ソレニ對シ何等異議ヲ主張セスシテ其儘訴訟

第二百二條 不合法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第二〇三條 和解又ハ請求ノ審訊不適用

第二〇四條 和解又ハ請求ノ審訊不適用ハ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第一三六條 和解ヲ試ムル權・三五六條 訴提起以前和解申立・八一四條 普通ノ訴訟代理人權限範圍・一四四條 口頭辯論調書記載事項・五六〇條 強制執行準用規定・一九九・二〇一 確定判決ノ既判力ノ及フ範圍

第二百四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第一二五條 口頭辯論主義・一八八條 判決言渡效力

第二〇五條 訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二百六條 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第一五一條 訴訟記録ノ利用・五一六條 執行力アル正本ノ付與・五一七條 執行文ノ附記及其文式・五二三條 執行力アル正本ノ數通又再度ノ付與・一二五條 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令

第二百七條 決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第一八二條 以下 裁判ニ關スル規定

二〇三 請求ノ拋棄(昭四・辯。大一〇、昭五・司口。昭六・日・細野)(關例)五〇・一四四・三五六

請求ノ認諾(大三・京・雉本。昭四・辯。昭六・京・山田。昭六・東・大森)

請求ノ拋棄ト訴取下トノ區別(大五、大八・日・前田)(共濟)二三六・二三七

行爲ヲ續行シタルトキト雖モ所謂責問權ノ拋棄ニヨリ爾後無効ヲ主張スルノ權利ヲ喪失スルノ結果ヲ齎スモノト解スヘキモノナリ(大一五・大審「法新二六二一號一二頁」)

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止

第二百八條 當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第一一六條 以下 訴訟手續受繼・六二三條 共同訴訟人間ノ效力・八五條 訴訟代理權不消滅・二二三條 訴訟當事者ノ資格不喪失。民三一・一〇五二・一〇一七以下。民印六ノ二。

第二百九條 當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス

第一八五條 訴訟代理權不消滅・二二三條 訴訟當事者ノ資格不喪失。二二六條 以下 訴訟手續受繼。商七四・八二・七九三項・八〇・二二五。民印六ノ二。

第二百十條 當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止

訴訟手續ノ中斷中止及休止ノ差異(大二・法。大二・東・仁井田)(關例)二〇八以下。人訴一三・七六

二〇八 當事者ノ死亡ノ及ホス效果(大一・中・前田。昭二・三・明・早川。昭四・東・菊井)(關例)六二・八五・二二三・二二六・二二九・民一〇一七以下

第二百十一條 受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第一八五條 訴訟代理權不消滅・二二三條 訴訟當事者ノ資格不喪失。二二六條 以下 訴訟手續受繼。信一・四二一項・四三・四四・四六・四七・七一・七二。

213 訴訟繫属中當事者ノ一方カ死亡スルモ其訴訟代理人アル場合委任消滅ノ通知アル迄ハ代理權ノ消滅ヲ來スコトナク審級ハ其審級ニ於ケル終局判決ノ送達ニ因リ終了スルカ故ニ當該審級ニ對スル代理權ハ右ノ送達ニヨリテ當然消滅シ訴訟手續ノ中斷ヲ生ス(大四・東控「評論四卷」)

第二百十二條 一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中斷シタル場合亦同シ
第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ選定セラレタル者ノ全員又ハ新ニ原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
第八六條 訴訟代理權ノ消滅ニ因リ訴訟當事者ノ資格ノ喪失ニ因リ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
破一六二。商六五二。一三三。民印六〇二。
第二百十三條 第二百八條第一項、第二百九條第一項及第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス
第八五條 訴訟代理權ノ消滅ヲ來ササル事由・八六
第八四條 當事者ノ資格ノ喪失
破一六二。商六五二。一三三。民印六〇二。
第二百十四條 當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ破産法ニ依リテ受繼アル迄ニ破産手續ノ解止アリタルトキハ破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス
破七・六九一。一六二。一五六。三四七。三五三。
第二百十五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリタル後破産手續ノ解止アリタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス
破七・六九一。一六二。一五六。三四七。三五三。
第二百十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
民印六〇二。
第二百十七條 訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス
破一五〇。申立其他ノ申述方式。
第二百十八條 訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス
裁判ノ送達後中斷シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲スコトヲ要ス
破一七〇。訴訟手續受繼ノ通知・一二五。口頭辯論・二〇四。二〇五。二〇七。決定命令。

第二百二十三條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提起シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
破二三二。一。訴ノ變更・二三四。一。先決的確定ノ訴・三五二。一。三五四。區裁判所ノ訴訟手續・三五六。三。項。和解期日ニ出頭シタル當事者ノ申立・四四二。一。項。支拂命令ニ對スル異議申立ノ效果・二〇二。一。項。不合法ナル訴ノ却下・二〇八。一。項。訴訟當事者死亡ト訴訟手續ノ中斷。
第二百二十四條 訴訟手續ノ中止(大一一・關・古川) 關例二
二二〇。二二二。六二。七一。七七〇。人訴一三。七六
訴ノ休止(大五・東・仁井田)
第二章 第一審ノ訴訟手續
第一節 地方裁判所ノ訴訟手續
第一節 訴
二二三 提起ノ方法(昭五・中・前田)
二二三 要件(昭六・中・細野)
訴訟條件、當事者能力及ヒ訴訟能力(大一一・司口)
共四四。四五。四九(關例) 五〇。五一。五三。八五。民一。二。四三。商六
起訴(昭三・司口)

第二百十九條 裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得
第二百二十條 天災其他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス
第二百二十一條 當事者カ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得
破一二五。口頭辯論・二〇四。二〇五。二〇七。決定命令。
第二百二十二條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得
訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム
破一八九。判決言渡ノ方式・二〇八。一二五。訴訟手續中斷・二二〇。二二二。訴訟手續中止。

第二編 第一審ノ訴訟手續
第一章 地方裁判所ノ訴訟手續
第一節 訴
二二三 提起ノ方法(昭五・中・前田)
二二三 要件(昭六・中・細野)
訴訟條件、當事者能力及ヒ訴訟能力(大一一・司口)
共四四。四五。四九(關例) 五〇。五一。五三。八五。民一。二。四三。商六
起訴(昭三・司口)

224 訴狀又ハ判決ニ於ケル當事者ノ表示ハ法律上正確ナル名稱ヲ用ユルノ要ナク住所等ノ記載ニヨリ何人カ當事者ナルヤヲ知り得ヘキ程度ノ記載アレハ足ル(昭六・東控「評論二〇卷五號一八五頁」)

225 確認ノ訴ニ於テハ確認セラルヘキ權利又ハ法律行為ニ付即時ニ確定セラルヘキ法律上ノ利益アルコトヲ要ス(昭四・大審「法新二〇二號一三頁」)

第二百二十四條 訴狀ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス

△四九〇 無能力者又ハ其法定代理人ノ訴訟能力一六五〇 送達ヲ受クヘキ者・二四二以下〇口頭辯論ノ準備・二〇二〇 不適法ナル訴ノ却下・二〇八〇 當事者死亡ト訴訟手續中斷・民八八四・九〇〇・九二三・民印一三・一一

第二百二十五條 確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ真否ヲ確定スル爲メモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

判例 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ債務者カ給付ヲ爲スヘキ時期ニ至ルモ之ヲ爲ササル虞アル場合ニ限り許スヘキモノトス(昭和三・大審判)

第二百二十七條 數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限り一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

△二一・二三 併合請求ノ管轄・二七〇 管轄合意ノ制限・一三二 口頭辯論ノ指揮・一八三 一部終局判決・人訴七・二六・三九・五八・六七

問題

二二五 給付ノ訴ト確認ノ訴トノ區別(大元・京・雉本)(關例)二二六

△確認ノ訴(昭三・昭五・明・細野。昭四・辯)

△確認訴訟ノ權利獲得要件(大一一・京・山田。昭六・東北・勅使河原)

△請求異議ノ訴ニ於ケル原告勝訴ノ判決ト債權不存在確認判決トノ效力ノ異同(昭六・京・山田)(關例)四九七・五四七

二二六 給付ノ訴(昭四・司。昭六・日・森田)

△給付ノ訴ト權利保護要件(大二・京・雉本)

△將來給付ノ訴(大三・京・雉本。昭四・京・池田。昭五・明・細野)

二二七 客觀的訴ノ併合ノ要件(大一四・關・谷。昭三・司)

△請求ノ併合(大元・大三・京・雉本)

229 訴ノ提起カ履行請求ノ效力ヲ生スルモノニ非シテ訴狀ニ包含スル債務ノ履行ヲ促ス意思ノ發表カ訴狀ノ送達ニ因リテ其效力ヲ生スルモノトス故ニ訴ノ提起ノ有效無効ハ履行請求ニ影響ナシ(大二・大審「民錄一九輯」)

232 訴ノ原因トハ請求權ノ發生スル法律行為ノ成立事實ヲ指スモノトス(大五・大審「大判民二二輯四三四頁」)

第二百二十八條 訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス

前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス

△一五八 三項ノ期間ノ延長又ハ短縮・四一五 即時抗告・二〇二 不適法ナル訴却下ノ判決。民印一三・一一

第二百二十九條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

△一六〇 以下 送達ニ關スル規定。

第二百三十條 訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

△二二三 訴ノ提起方式・一二五 口頭辯論主義・一五二 期日ノ指定又變更。

第二百三十一條 裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十二條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變

更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ遲滯セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

△二二四 訴狀記載事項・一五〇 申立其他ノ申述方式・一六〇 以下 送達・一三三 訴ノ變更ノ許否ノ裁判・二三五 訴ノ私法的效果發生時期。

二二八 訴狀ノ要件(大九・明・早川。大一五・日・森田。昭六・明・細野。昭六・日・細野)(關例)一三八・二二三・二二四

△訴訟行為ノ裁判權(昭六・中・細野)

二二〇 訴提起ノ效果(昭五・中・細野)(關例)二二五・二二六

二二一 權利拘束(大三・東・仁井田。昭二・關・昭二。辯。昭三・東・小野)(關例)二九・二三五

△權利拘束ノ抗辯(大五・日・前田)

△一事不再理(昭二・東・小野)

二二三 請求原因變更ノ效果(大一四・關・谷)(關例)二二三

△請求ノ基礎ト請求ノ原因トノ差異(昭六・日・森田)

△訴ノ原因ノ變更(昭二・關。昭二・早・中村。昭二・辯口。昭五・司口)

第二百三十三條 裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

○二三二 訴ノ提起方式・一二五 口頭辯論主義
 ・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令・一五〇

申立其ノ他ノ申述方式

第二百三十四條 裁判カ訴訟ノ進行中ニ争ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル

前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

四二二 一 項 再審訴ノ管轄裁判所・四三一 一 項 督促手續ト管轄裁判所・五六三 一 項 強制執行ノ裁判所・七七九 二 項 證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告手續ト管轄裁判所・二三五 一 項 訴ノ私法的效果發生時期・一六〇 以下 送達・人訴一 二 項・二四・二七・三一・三三・三五・四〇 一 項・五六・六七・七一 一 項・商九九 一 項・三二 一 項・三五・二六三 三 項・二二六

第二百三十五條 時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ

依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

○民一四七 一 項・二〇一・四二六・七五八・七八四・七八五 二 項・七八六 二 項・八五三・八五五 一 八五九・八七〇・八七一・八七三 二 項・九五五・商一六三 一 二 項

訴ノ變更(大四・京・雉本。大五・東・仁井田。大一・中・前田)

原因判決ノ意義(大一・中・前田)

中間確認ノ訴(大三・大五・東・仁井田。大一・明・岩本。昭三・中・神谷。昭五・東・大森。昭六・東北・勅使河原)(關例)二三二・一二五

請求ノ意義(昭三・中・神谷)(關例)二二七・二三二・三二・二二四・一八四

訴訟繫屬ノ私法上ノ效力(昭六・東北・勅使河原)(關例)二三二・二二二・二三三・民一四九・一五〇・一五三・一五七

第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス

訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

四九八 一 項 判決ノ確定及其遮斷・二四四 一 項 準備書面記載事項・二四九 以下 準備手續・二二九 一 項 訴狀ノ送達・一〇四 一 項 裁判ニ因ラサル訴訟ノ完結ト訴訟費用ニ關スル規定・二四一 一 項 本訴ノ取下ト反訴ノ取下・一六〇 以下 送達

第二百三十七條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

一八二・一八三 一 項 終局判決・二三六 一 項 訴ノ取下要件・二四一 一 項 本訴ノ取下ト反訴ノ取下

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

一二五 一 項 口頭辯論主義・一五〇 一 項 申立其他ノ申

述方式・一五二 一 項 期日ノ指定又變更・一五六 一 項 期間ノ計算

第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

二七 一 項 管轄合意制限・一八三 二 項 口頭辯論ノ併合・三五五 一 項 訴ノ移送・三八二 一 項 形式判決・人訴七・二六・三九・五八・六七・民印四

第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

二三六 一 項 訴ノ取下

二三六 一 項 訴ノ取下(昭五・司口。昭六・司。昭六・中・細野)(關例)二三六・二三八・五〇

判決ノ形式ノ確定(昭六・東・大森)(關例)四九八

訴訟カ裁判ニヨラス完結スル場合(昭四・東・菊井)(關例)二三七・二三八・二五六・六九五・一三六

236 訴ノ取下ニ關スル訴訟上ノ契約ハ民事訴訟法ニ於テ之レヲ許ササルモノト解スルヲ相當トセサルヲ得ス(大二・大審「法新二一二一號一九頁」)

239 強制執行上ノ訴ト雖モ其訴訟手續ハ通常訴訟手續ナルヲ以テ其訴訟手續ニ於テ反訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス(大四・大審大判「民錄二一輯二一一頁」)

第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス

訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

四九八 一 項 判決ノ確定及其遮斷・二四四 一 項 準備書面記載事項・二四九 以下 準備手續・二二九 一 項 訴狀ノ送達・一〇四 一 項 裁判ニ因ラサル訴訟ノ完結ト訴訟費用ニ關スル規定・二四一 一 項 本訴ノ取下ト反訴ノ取下・一六〇 以下 送達

第二百三十七條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

一八二・一八三 一 項 終局判決・二三六 一 項 訴ノ取下要件・二四一 一 項 本訴ノ取下ト反訴ノ取下

第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

一二五 一 項 口頭辯論主義・一五〇 一 項 申立其他ノ申

述方式・一五二 一 項 期日ノ指定又變更・一五六 一 項 期間ノ計算

第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

二七 一 項 管轄合意制限・一八三 二 項 口頭辯論ノ併合・三五五 一 項 訴ノ移送・三八二 一 項 形式判決・人訴七・二六・三九・五八・六七・民印四

第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

二三六 一 項 訴ノ取下

二三六 一 項 訴ノ取下(昭五・司口。昭六・司。昭六・中・細野)(關例)二三六・二三八・五〇

判決ノ形式ノ確定(昭六・東・大森)(關例)四九八

訴訟カ裁判ニヨラス完結スル場合(昭四・東・菊井)(關例)二三七・二三八・二五六・六九五・一三六

第二百四十二條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス

第二百四十三條 準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百四十四條 準備書面ノ記載事項・一五六〇期間ノ計算法・一五八三項ノ期間ノ伸長又ハ短縮・一六〇以下ノ送達ニ關スル規定

第二百四十四條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所
- 二 代理人ノ氏名、職業及住所
- 三 事件ノ表示
- 四 攻撃又ハ防禦ノ方法
- 五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述
- 六 附屬書類ノ表示
- 七 年月日
- 八 裁判所ノ表示

第二百四十五・二四六條 準備ニ引用シタル文書ノ謄本又抄本送附及其原本閱覽供與・二四七條 準備書面ニ記載ナキ事項ノ效力・二四八條 外國語ノ文書。民二一―二四・五〇。商一六以下

第二百四十五條 當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百四十六條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムルコトヲ要ス

第二百四十七條 準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第二百四十八條 外國語ヲ以テ作リタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百四十九條 訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或争點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

第二百五〇條 受命判事ノ指定・一五二二項ノ四項ノ期日ノ指定又變更・三五八條 區裁判所ト口頭辯論

第二百五十條 準備手續ニ於テハ調書ヲ作り當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス

第二百五十一條 當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得

第二百五十二條 受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

第二百五十四條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第二百五十五條 調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得

第二百五十六條 準備手續作成・二四〇條 反訴ト準則・二六七條 疏明方法ノ原則

第二百五十六條 第二百二十六條乃至第二百二十九條、第二百三十一條、第二百三十三條乃至第二百四十一條及第二百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第二百五十七條 準備手續(大・一五・日・森田。昭五・日・森。昭五・日・細野。昭五・明・細野。昭五・早・中村。昭六・行。昭六・中・細野)

第二百五十八條 裁判上ノ自由(昭六・明・岩本) (關係) 二四〇・一四四・四二〇

258 證據ノ申立ノ場合裁判所ハ取調ノ裁判ノ後又ハ其裁判ヲ須ツコトナクシテ總テ取調ヲ爲ササル可カラサル場合アリトス(昭五・法決「法曹九卷一號一〇三頁」)

第三節 證據 第一款 總則

第二百五十七條 裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス。
一四〇一項 口頭辯論ニ關スル當事者ノ行爲。
第二百五十八條 證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス。
一三七七項 攻擊防禦方法ノ提出時期。一五〇一申立其他ノ申述方式。民印六ノ三。
第二百五十九條 當事者ノ申出テタル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス。
第二百六十條 證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得。
第二百六十一條 裁判所ハ當事者ノ申出テタル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得。
二八〇二項 管轄事項ノ職權調査。人訴一四・二六・三七二項・四六一項・七四二項。
第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得。

第三節 證據 第一款 總則

一三〇二項 裁判所ノ爲ス囑託。一三一一項 必要ナル調査ノ囑託。民費八。
二五七 證據ノ意義、種類(大三・東・仁井田。大三・大一・中・岸本)(關例)二五七以下
證據鑑定(昭四・辯口)(關例)二五七以下・三〇一以下
證據ニヨラスシテ事實ヲ確定スル場合(大三・中・大一・中・岸本)
裁判所ノ顯著ナル事實(昭三・五・明・細野)(關例)一五二
二五八 證據方法(大一・五・日・大丸)(關例)二五七以下・三〇一以下・三一一以下・三三三以下・三三六以下
記錄ノ申立(明五・日・森)
二五九 舉證責任(大元・二・京・雉本。大四・東・仁井田。大九・中・細野。昭二・關・勅使河原。昭六・行)(關例)二六〇・二六二・二五七・三二九・三三八

265 受託判事ノ爲シタル證據調ノ效果ノ採用ハ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ陳述スルモノトス(大一・大審)

267 疏明ハ證明ト其性質ヲ異ニシ苟クモ證據ニヨリ裁判所ヲシテ一應主張事實ノ存在ヲ認メシムルヲ以テ足り嚴格ナル證明ノ法則ニ據ルコトヲ要セサルモノトス(大一・二・大審「法新二六三三號」)一 證言ハ證人カ裁判所ニ於テ自己ノ見聞ニ依リ係争事實ニ付知得シタルコトヲ供述スルノ謂ニシテ事實ヲ知りタル原因ノ如

第二百六十三條 證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セザル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得。
第二百六十四條 外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス。外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモノ本法ニ違背セザルトキハ其ノ效力ヲ有ス。
二八〇二項 裁判所ノ爲ス囑託。
第二百六十五條 裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受訴裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス。
一三〇一項 受命判事指名及共助事項囑託。一五二一・一三〇二項 訊問方法。三〇一・二七九項 出頭義務。三二一・三二二項 文書ニ對スル受命判事又受託判事ノ證據調。三三四項 檢證ノ爲メノ鑑定。裁構一〇三・一三一。
第二百六十六條 受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受訴裁判所ニ送付スルコトヲ要ス。
二六五項 裁判所外ニ於ケル證據調。
第二百六十七條 疏明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘ

キ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得
第二百八十六條乃至第二百八十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ之ヲ準用ス
三八二項 判事ノ除斥又ハ忌避原因ノ疏明。五六一項 特別代理人ノ選任。六六一項 訴訟費用ノ疏明及許否ノ裁判。一〇〇二項 訴訟費用額確定ノ申立方式。一〇一一項 訴訟費用額確定決定前ノ手續。一一九二項 訴訟上ノ救助原因ノ疏明。一五一一項 訴訟記録ノ利用。二五五項 準備手續後ノ演述範圍制限ノ原則。二八二項 證言拒絶理由ノ疏明。三〇六二項 鑑定人ノ忌避事由ノ疏明。三四五二項 證據保全事由ノ疏明。七四〇二項 請求及假差押ノ理由ノ疏明。二六八二項 疏明ニ代ル保證金沒收ノ決定。二六九二項 疏明ニ代ル宣誓ヲ爲シタル者ト過料ノ決定。民八八四・九〇〇・九二三。
二六七 疏明(大三・東・仁井田。昭二・關)(關例)三八・五六・六六・一〇〇・一〇一・一一九・一五一・二五五・二八二・三〇六・三四五

何ハ問ハス(大一三・大審)
271 訴訟代理人ハ證人タル資格ニ何等缺クル所ナク從テ之ヲ證人トシテ訊問シ其證言ヲ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニアラス(大七・大審「法新一四九六號二六頁」)

第二百六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒取ス
○二二五〇口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〇決定命令・二七〇〇即時抗告
第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス
○二二五〇口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〇決定命令・二七〇〇即時抗告
第二百七十條 第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
○四一五〇即時抗告期間
第二款 證人訊問
第二百七十一條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得
○二七二〇一・二七四〇證人タルノ義務・民費九・一二・一三・一七
第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス
○裁權一・二一・所得稅法七六・營業收益稅法三〇〇
第二百七十三條 國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞

密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス
第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
○議院法三七以下
第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
○二五八1項〃證據ノ事實表示
第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 當事者ノ表示
二 訊問事項ノ要領
三 出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁
○二七七・二七八〇證人ノ出頭義務強制手段
第二款 證人訊問
二七一 從參加人ハ證人トナリ得ルヤ(大七・東・仁井田)〔關係〕六四

281 證人ノ默秘義務ノ有無ハ取引ノ通念ノ他客觀的ノ標準ニ依リ定ムヘキモノトス(大一・大審「民一卷」)

第二百七十七條 證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
○二二五〇口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〇決定命令・二七〇〇即時抗告期間
第二百七十八條 裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ取引ヲ命スルコトヲ得
前項ノ取引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス
○三〇三〇鑑定人ト勾引。刑訴八八以下
第二百七十九條 左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
一 證人カ受命判事ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ
二 證人カ受命判事ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ
○二六五〇裁判所外ニ於ケル證據調
第二百八十條 證言カ證人又ハ左ニ掲クル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ
一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

二 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者
三 證人カ主人トシテ仕フル者
○二八二〇證言拒絶理由ノ疏明・二八三〇證言拒絶ノ當否ニ付テノ裁判。民七二五・七二六・七三二・九〇〇以下
第二百八十一條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得
一 第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合ニ於テハ醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辨理士、辯護人、公證人、宗教又ハ禮祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ
二 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ
前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セズ
○二八二〇證言拒絶理由ノ疏明・二八三〇證言拒絶ノ當否ニ付テノ裁判
第二百八十二條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス
○二八〇・二八一〇證言ヲ拒絶シ得ヘキ人ト場合
○二六七〇疏明方法原則
第二百八十三條 第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絶ノ當否ニ付テハ受命裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

285 同一事件ニ付同一裁判所カ同一證人ヲ重ネテ訊問スル場合ハ最初ノ訊問ニ際シ一度宣誓セシムレハ足り其後ノ訊問ニ際シテ更ラニ新ニ宣誓セシムルコトヲ要セス（昭四・大審「法新二九四九號一頁」）

289 裁判所カ宣誓ヲ爲サシムヘカラサル證人ニ宣誓ヲ爲サシムタル場合ニ於テ當事者ノ異議ナキトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノトス（大七・大審「法新一四七八號」）

證言拒絶ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〇二八〇・二八一〇 證言ヲ拒絶シ得ヘキ人ト場合

・一二五三 項 當事者審訊不適用・四一五 項 即時抗告期間

第二百八十四條 證言拒絶ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

〇二八三 證言拒絶ノ當否ニ付テノ裁判

第二百八十五條 裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

〇二八九一・二九一 宣誓義務者例外。刑一六九・一七〇

第二百八十六條 宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條 裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ且低聲ノ前ヲ警告スルコトヲ要ス

〇刑一六九・一七〇

第二百八十八條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セズ又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

〇二八六 證人宣誓ノ方式・三〇七 鑑定人宣誓ノ方式

第二百八十九條 左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

一 十六年未滿ノ者

二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者

〇二八七 證人宣誓前ノ裁判長ノ諭示ト警告

第二百九十條 第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絶ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十一條 證人カ自己又ハ第二百八十條ニ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十二條 宣誓ヲ爲サシムル證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

〇一四四 口頭辯論調書記載事項・二八九一・二九一 宣誓義務者例外

第二百九十三條 第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

〇二七七 證人不出頭ノ制裁ト不服申立・二八二 證言拒絶ノ理由ノ疏明・二八三 證言拒絶ニ關スル裁判ト不服申立

第二百九十四條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

299 所謂權利行爲トハ必スシモ本案請求ノ基本タル權利行爲又ハ當事者間ノ權利行爲ノミヲ謂フニアラス如何ナル權利行爲ト雖モ裁判所ニ於テ其ノ成立及趣旨カ證據調ヲ要スル重要ナル事實ナリト認メタル者凡テ之レニ該當ス（昭三・大審「法新一六三號一頁」）

301 鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルノ資料ナリトス（昭三・大審「法新二八九〇號九頁」）

〇三三七 當事者相互又當事者ト證人トノ對質

第二百九十五條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

〇三二九 項 對照ノ用ニ供スヘキ文字手記命令

第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得

第二百九十七條 證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十八條 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得

〇一二七 項 陪席判事ノ釋明權

第二百九十九條 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ發問ノ許否ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス

〇一二七 項 當事者ノ發問要求權・一二五 項 口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七 決定命令

第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事之ヲ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

〇二七九 出頭義務ナキ證人ノ訊問方法

第三款 鑑定

第三百一條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前款ノ規定ヲ準用ス

第三百二條 鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百八十八條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス

〇民費一 一三・一七

第三百三條 鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス

〇二七八 證人ノ出頭義務強制手段

第三百四條 鑑定人ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事之ヲ指定ス

第三百五條 鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同

二九九 當事者ノ本人訊問（昭五・中・細野）

第三款 鑑定

三〇一 證據鑑定（昭四・辯口）（關係）二五七以下・三〇一以下

308 理由ヲ示ササル鑑定ト雖モ事實認定ノ資料ニ供スルヲ妨ケス (大五・大審「民録二二輯九〇五頁」)

第三百六條 忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一五〇〥申立其他ノ申述方式・二六七〥疏明方法原則・一二五〥口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〥決定命令・四一五〥即時抗告期間。

第三百七條 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

二八八〥二項〥宣誓書記載事項。刑一七一。

第三百八條 裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得

第三百九條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル

第三百十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百十二條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス

一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ら所持スルトキ

二 學識者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキ

三 文書カ學識者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ學識者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ

商二七ノ二・二一・二一〇四。

第三百十三條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一 文書ノ表示

二 文書ノ趣旨

三 文書ノ所持者

四 證スヘキ事實

五 文書提出ノ義務ノ原因

一五〇〥口頭ニ依ル申述・三二二〥文書ノ所持者ト提出義務。

第三百十四條 裁判所カ文書提出ノ申立理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

第三百十五條 提出ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

三一一・三一九〥書證申出・一二五〥口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〥決定命令。

一三〇〥二項〥裁判所ノ爲ス囑託。民費八。

第三百十一條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一五〇〥申立其他ノ申述方式・三二二〥文書所持者ノ提出義務アル場合・三三三〥文書提出命令申立ノ方式・三一四〥文書提出命令ノ申立ニ關スル審理・三一九〥文書カ第三者ノ手ニアル場合ノ書證申出ノ特別・三二二〥提出スヘキ文書。

第四款 書證

三一 書證(大五・法。大七・明・岩本。昭二・日・森田。昭三・明・細野。昭五・日・細野) (關係) 三二二以下

書證ト檢證トノ異同(大五・大・四・中。大五・大八・日・前田) (共通) 三三三以下 (關係) 三二二以下

第三百十五條 文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十六條 當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十七條 文書提出命令ノ申立ニ關スル審理。ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十八條 文書ノ所持者ト提出ノ義務。キハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

三二四〥文書提出命令ノ申立ニ關スル審理。一五〇〥口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〥決定命令・四一五〥即時抗告期間。

第三百十九條 書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一五〇〥申立其他ノ申述方式・三二二〥提出スヘキ文書。不登法二一〇一項。戶一四一項。非訟

313 受訴裁判所ニアル他ノ記録ヲ證據トシテ援用セントスルトキハ其記載カ其裁判所ノ他ノ民事部ニアルト刑事部ニアルトヲ問ハス證書取寄ノ申請ヲ爲スコトヲ要セス (大六・法決「法曹二七卷四號一七頁」)

323 公正證書ト雖モ裁判所カ他ノ事實證據ニヨリ其内容ニ異ナル事實ヲ認定スルヲ妨クルモノニアラス (大九・大審「大判民二六輯一四頁」)

325 確定日附ナキ私署證書ト雖モ裁判所ハ其日附ノ正當ナルコトヲ認定スルニ妨ナシ (大四・大審「民錄二一輯四六四頁」)

326 本條ハ私文書ニ如上署名又ハ捺印無クシテハ眞正ニ成立シタルモノト認ムルヲ得ストノ趣意ニ非ス (昭六・大審「評論二〇卷

第一四二。 第三百二十條 裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得

第三百二十一條 第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

第三百二十二條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル謄本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二十三條 文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏キトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス

第三百二十四條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十六條 私人書ノ證據力。

第三百二十七條 文書ノ眞否ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十八條 第三百一十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添付スルコトヲ要ス

第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 私人書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス

第三百二十六條 私人書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十七條 文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得

第三百二十八條 第三百一十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添付スルコトヲ要ス

第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シ

第五款 檢證

三三〇 書類(昭二・辯口)(共四)一六四

三三一 檢證(大二・早・神谷)(關保)三一一下

二號一九六頁」)

323 公正證書ト雖モ裁判所カ他ノ事實證據ニヨリ其内容ニ異ナル事實ヲ認定スルヲ妨クルモノニアラス (大九・大審「大判民二六輯一四頁」)

325 確定日附ナキ私署證書ト雖モ裁判所ハ其日附ノ正當ナルコトヲ認定スルニ妨ナシ (大四・大審「民錄二一輯四六四頁」)

第三百二十九條 對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添付スルコトヲ要ス

第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シ

第五款 檢證

三三〇 書類(昭二・辯口)(共四)一六四

三三一 檢證(大二・早・神谷)(關保)三一一下

テ之ヲ爲スコトヲ要ス

二五八一項ノ證據ノ申出ノ方式、一四四三ノ檢證ノ結果。

第三百三十四條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 第三百一十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

三三〇 書類(昭二・辯口)(共四)一六四

三三一 檢證(大二・早・神谷)(關保)三一一下

336 共同訴訟人中ノ或者ノ供述ト雖モ本人訊問ノ手續ニ依リ爲テレタルモノナルトキハ他ノ共同訴訟人ト相手方トノ間ニ争トナレル事實ニ付形式上ノ證據力ヲ有スルモノトス(昭二・大審)

第六款 當事者訊問

第三百三十六條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得
○一五〇〓申立其他ノ申述方式・一三一項一〓當時者本人又ハ其法定代理人ノ出頭命令。民費九・二二・一三。
第三百三十七條 裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得
○二九四〓證人相互ノ對質。
第三百三十八條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス
○三三六〓本人訊問條件・一二五〓口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〓決定命令・四一五〓即時抗告期間。

第三百四十條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス
○三三六〓本人訊問要件。
第三百四十一條 第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス
○四九〓無能力者又ハ其法定代理人ノ訴訟能力・五八〓法人又ハ法人ニ非ラスシテ當事者能力ヲ有スル社團又財團ノ代表者又管理人ニ對スル準用規定。
第三百四十二條 第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第六款 當事者訊問

三三六 當事者本人訊問(昭五・明・細野)

343 所謂紛失又ハ使用シ難キ場合トハ證據喪失ノ危險カ自然力又ハ第三者ノ行爲若ハ必要止ムヲ得サル申請人ノ任意行爲ニ因リ證據ヲ喪失スル場合ヲ包含セルモノトス(大一〇・東控「法新臨時號二二頁」)

第七款 證據保全

第三百四十三條 裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得
○三四五〓三四七〓證據保全ノ申立及決定。
第三百四十四條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其ノ證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ者若ハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ區裁判所ニ證據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得
○三四三〓證據保全ヲ爲シ得ル場合。
第三百四十五條 證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス
一 相手方ノ表示
二 證スヘキ事實
三 證據
四 證據保全ノ事由
證據保全ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス
○一五〇〓口頭ニ依ル申述・二六七〓疏明ノ方法。
第三百四十六條 證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲

ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得
○三四五〓一項一〓相手方ノ表示。
第三百四十七條 裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ繫屬中職權ヲ以テ證據保全ノ決定ヲ爲スコトヲ得
○一二五〓口頭辯論主義・二〇四・二〇五・二〇七〓決定命令・二六一〓職權證據調・三四三〓證據保全ノ要件。
第三百四十八條 證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第三百四十九條 證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三百五十條 證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス
第三百五十一條 證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第七款 證據保全

三四三 自力救濟(昭六・日・玉井) (例) 憲二四・五七

352 區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ反訴ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ何時ニテモ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス(大ニ・大審「大判民二一輯一八〇頁」)

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第三百五十二條 區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

第三百五十三條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百五十四條 當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シテ訴訟ニ付口頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百五十五條 裁判所書記ノ署名捺印

第三百五十六條 民事上ノ争ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因並争ノ實情ヲ表示シテ相手方ノ普通

第三百五十七條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

第三百五十八條 準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

第三百五十九條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無並請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第一九一ノ判決書ノ形式

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲サザ

第一審ノ訴訟手續 區裁判所ノ訴訟手續 上訴 控訴

裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

方式・二〇三ノ和解、請求ノ拋棄又認諾ノ效力・九七ノ裁判上ノ和解ト訴訟費用ノ負擔・三五二ノ區裁判所訴訟手續ト準則・二二三ノ訴ノ提起方式・民一五一・民印六ノ二

三五五 反訴(大ニ・京・雉本。大ニ・東・仁井田。大ニ・七・大ニ・中・前田。大ニ・一・大ニ・三・中・岩本。大ニ・一・三・日・松本。昭六・東・大森。昭四・司口) 三四〇・二四一・二三九・三五五・三八一

三五六 裁判上ノ和解(昭三・行。昭四・司。昭四・東。菊井。昭五・司口。昭六・東北・勅使河原) 共ニ二〇二・一三六

ル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス

一八二・一八三ノ終局判決・三六一ノ訴訟費用ノ裁判・七七四ノ除權判決ニ對スル上訴・六九一ノ參加ノ效力・三九三ノ上告ノ物體。裁構二六第二イ・三七第一・三八・四一

第三編 上訴 第一章 控訴

三六〇 上訴ノ意義及抗告トノ區別(大元・大三・東・加藤。大八・明・早川。昭二・日・日高。昭二・辯) 三六〇以下・三九三以下・四一〇以下

控訴ト抗告トノ異同(昭六・日・日高) 三六〇以下・四一〇以下

控訴ト上告トノ差異(昭五・中・前田) 三六〇以下・三九三以下

離婚判決ニ對シ原告ハ取消ノ控訴、被告ハ附帶控訴ヲ提起シ得ルヤ(大ニ・二・京・山田) 三七二・三七四・人訴七八

360 控訴ノ制度ヲ設ケタル目的ハ第一審判決カ第一審裁判所ニ提出セラレタル訴訟材料ニ付正當ニ判斷ヲ爲シタルヤヲ調査スルノミナラス其判決カ當事者ノ實際上ノ法律行爲ニ付キ正當ニ判斷シタルモノト云フコトヲ得ヘキヤヲモ調査スルニ在ルモノトス(大ニ・東控「法新八四五號二一頁」)

第三編 上訴

第一章 控訴

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲サザ

第一審ノ訴訟手續 區裁判所ノ訴訟手續 上訴 控訴

第三百五十七條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

第三百五十八條 準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

第三百五十九條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無並請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第一九一ノ判決書ノ形式

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲サザ

第一審ノ訴訟手續 區裁判所ノ訴訟手續 上訴 控訴

裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

方式・二〇三ノ和解、請求ノ拋棄又認諾ノ效力・九七ノ裁判上ノ和解ト訴訟費用ノ負擔・三五二ノ區裁判所訴訟手續ト準則・二二三ノ訴ノ提起方式・民一五一・民印六ノ二

三五五 反訴(大ニ・京・雉本。大ニ・東・仁井田。大ニ・七・大ニ・中・前田。大ニ・一・大ニ・三・中・岩本。大ニ・一・三・日・松本。昭六・東・大森。昭四・司口) 三四〇・二四一・二三九・三五五・三八一

三五六 裁判上ノ和解(昭三・行。昭四・司。昭四・東。菊井。昭五・司口。昭六・東北・勅使河原) 共ニ二〇二・一三六

ル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス

一八二・一八三ノ終局判決・三六一ノ訴訟費用ノ裁判・七七四ノ除權判決ニ對スル上訴・六九一ノ參加ノ效力・三九三ノ上告ノ物體。裁構二六第二イ・三七第一・三八・四一

第三百六十一條 訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス
 第三百六十二條 終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

一八二・一八三 終局判決・一八四 中間判決
 一三一・一三四 口頭辯論ニ關スル裁判所ノ職能・一三九 時機ニ後レテ攻撃防禦方法ノ提出・二二一 訴訟手續ノ中止・二五九 證據調ノ限度・四四 裁判所書記ノ除斥、忌避、回避
 三〇六 三項 鑑定人ノ忌避ト其決定・一〇三 裁判上和解ト訴訟費用額確定決定・一〇四 裁判ニ因ラサル訴訟ノ完結ト訴訟費用額ニ關スル決定・一一七 訴訟費用ノ擔保規定・一九七 假執行免脱ノ爲メノ擔保・二二九 訴狀送達及其不能・二七七 證人ノ出頭義務強制手段・二八四 證言強制手段・二九三 宣誓義務者ノ宣誓拒絕・三三九 一 項 宣誓者虛偽ノ陳述ヲナセル場合ノ制裁・三四一 法定代理人ノ訊問・三七〇 不合法ナル控訴提起又控訴狀送達不能ノ效果・三九六 上告提起ノ效力・一二三 二 項 辯護士又ハ執達吏ノ報酬及立替金・五四九 四 項 停止及執行處分ノ取消ト準用規定・二四二 項 三三二 項・四一・三〇六 三 項・五〇〇 三 項・五三三 二 項

四八三 項・四一二 一 項 二 項 不服申立・四一〇・四一一 抗告・一二四・三三一 項・六六二 項・九八三 項・一〇〇三 項・一一一・一一五 四 項・二二八 三 項・二七〇・二八三 二 項・三七六 二 項・三三五 二 項・七五四 四 項・七六九 三 項 即時抗告。

三六一 控訴ノ性質(大元・大四・東・加藤・大一一・早・神谷・大一一四・關・野中・大一一四・日・前田・大一一五・日・森田・昭四・司口) 三六〇・三六二・三七五・三七七・三七九・三八二・三九一
 三六二 中間判決ニ對シテ上訴ヲナシ得ルヤ(大七・大八・中・岩田)

故障ノ申立(大五・東・仁井田) 一〇四・一二九・二〇六・二九九・四三四・四三七・四一・六六・九八・一〇〇・一〇三・一〇四・一一一・一一五・一一七・一二三・一二四・一九四・一九七・二二八・二二九・二六八・二六九・二七七・二九三・三〇一・三〇六・三一五・三一八・三二八・三三一・三三五・二八三・二八四・三三九・三四一・三七〇・三七六・四三三・四一〇・四四一・三九六・四一二・四一一・五五八・六八〇・七五四・七六九・二四・三三・四一・四四・三〇六・三四八・三五五・三七六・四三三・五〇〇・五四八・五四九・七七四・七七五

363 口頭辯論前控訴人中ノ一人カ控訴取下ノ意思表示ヲ爲スモ必要ノ共同訴訟ニ於テハ固ヨリ其ノ效ナシ(大五・東控(法新一一三七號一九頁))

366 補充判決ノ送達マテニ執行セル控訴期間内ニ提起シタル本判決ニ對スル控訴ハ夫レ自身適法有效ノモノタルヲ失ハス(大八・大審「法新一五九一號二〇頁」)

第三百六十三條 控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得
 第二百三十六條第二項第三項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

三六五 二 控訴提起後ノ控訴權拋棄・三七三 一 獨立ノ控訴ト看做サルル附帶控訴・一〇四 一 裁判ニ因ラサル訴訟ノ完結ト訴訟費用ニ關スル決定。

第三百六十四條 控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得
 三六五 一 控訴權ノ拋棄・三七二 一 附帶控訴要件

第三百六十五條 控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 一五〇 一 申立其他ノ申述方式・三六三 一 控訴ノ取下・一六〇 以下 送達。

第三百六十六條 控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス
 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
 一九三 一 判決ノ職權送達・一五六 一 期間ノ計算

原則・一五八 一 期間ノ伸縮、附加・一五九 一 期間懈怠ノ效果。
第三百六十七條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 當事者及法定代理人
 二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲ス旨
 三 三九二 一 期間内ニ上告理由書ヲ提起セサル場合ノ效果・三七〇 一 不合法ナル控訴提起又控訴狀送達不能ノ效果。民印一・五・一一。

三六三 控訴ノ取下(大九・明・宮本。大一一四・日・前田。大一一四・關・野中。昭五・日・日高)
 三六四 豫メ控訴權ヲ拋棄シ得ルヤ(大一一五・日・日高) 三六五
 控訴權ノ拋棄ト控訴ノ取下トノ關係(昭六・日・日高) 三六三・三六五
 控訴權ノ喪失(大三・東・加藤)
 控訴提起ノ效力(大七・日・松岡。昭二・早・神谷)

三六一 控訴ノ性質(大元・大四・東・加藤・大一一・早・神谷・大一一四・關・野中・大一一四・日・前田・大一一五・日・森田・昭四・司口) 三六〇・三六二・三七五・三七七・三七九・三八二・三九一
 三六二 中間判決ニ對シテ上訴ヲナシ得ルヤ(大七・大八・中・岩田)

370 全然印紙ノ貼用ナキ控訴狀ニ因ル控訴ハ法律上ノ方式ニ適セサル控訴ナルヲ以テ裁判長ノ命令ヲ以テ却下スヘキモノトス(昭四・大審「法新一九三九號一四頁」)

374 附帶控訴ハ本控訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレタル第一審判決全部ニ亙リ許サルヘシ(昭六・大審「評論二〇卷六卷一八六頁」)

第三百六十八條 準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ訴訟記録ニ控訴狀ヲ添付シテ送附ナクテ之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ送附ナクテ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ムルコトヲ要ス

第三百七十條 控訴提起スヘキ裁判所ト控訴狀ノ内容ニ依リテ決定スルニ關シハ第三百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第一審判決ニ從ヒテ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

民印一〇〇〇ノ民事訴訟ノ書類・五〇〇ノ控訴狀・一一〇ノ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類

第三百七十一條 控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス

第三百七十二條 起又控訴狀送達不能ノ效果

第三百七十三條 附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ

キ又ハ不合法トシテ控訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第三百七十四條 附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル

第三百七十五條 控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限り申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

論主義・二〇四・二〇五・二〇七ノ決定命令・一九六ノ未確定判決ノ假執行ニ關スル裁判。民印六ノ二

第三百七十六條 假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

三七二 附帶控訴(大・三・日・高。大・四・關・野中。大・一・東・加藤。昭三・中・神谷) 三三七四

377 第一審ニ於ケル自白ハ第二審ニ於テ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所ハ相手方ノ利益ノ爲メ之ヲ判斷ニ供セサル可カラサル義務ナシ(大九・大審「大判民二六輯三五四頁」)

第三百七十七條 口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス

當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第三百七十八條 前編第一章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百七十九條 第一審ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十條 第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十一條 控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三百八十二條 反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

相手方カ異議ヲ述ヘシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト看做ス

第三百八十三條 不合法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺カ

補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スルコトヲ得

第三百八十四條 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスルコトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

判決カ其ノ理由ニ依リテ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百八十五條 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條 控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十七條 第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十八條 第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十九條 控訴審ト差戻判決・九六ノ事件ヲ完結スル裁判ト訴訟費用ノ裁判

三七八 控訴審ノ訴訟手續・二三九 反訴ノ要件・二四〇 本訴ニ關スル規定ノ準用

三七七 控訴審ノ辯論ノ範圍(昭五・早・中村)

控訴審ト上訴審トニ於ケル辯論ノ範圍(大・二・大五・東・加藤。昭三・早・中村)

389 第一審ノ訴訟手續ニ違背アリタル場合ニ於テ事件ノ差戻ヲ爲スヘキヤ否ヤハ控訴審ノ自由ニ決スルコトヲ得ルモノトス(大
四・大審「大判民訴二一輯三二二頁」)

390 管轄裁判所トハ一般ノ規定ニ從ヒ管轄アル裁判所ヲ指スモ
ノト解スヘキモノトス(昭四・大審「法新一九〇號一四頁」)

393 請求ノ原因アリトスル判決ハ上訴ニ關シ終局判決ト看做ス
ヘキモノトス(大一〇・大審「法新一八三八號」)

第三百八十八條 訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一
審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ
第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス
○三八六〃控訴審ト第一審判決ノ取消・九六〃事
件ヲ完結スル裁判ト訴訟費用ノ裁判
第三百八十九條 前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一
審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付尙辯論ヲ爲ス
必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ
得

第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續カ法律ニ違背シタ
ルコトヲ理由トシテ事件ヲ差戻スコトキハ其ノ訴訟
手續ハ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス
○三八六・三八七〃控訴審ト第一審判決ノ取消・
九六〃事件ヲ完結スル裁判ト訴訟費用ノ裁判

第三百九十條 事件カ管轄違ナルコトヲ理由トシテ
第一審判決ヲ取消スコトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以
テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス
○三八一〃控訴審ト第一審ノ管轄權・三八六〃控
訴審ト第一審判決ノ取消・三四〃訴訟移送確定
ノ效力・九六〃事件ヲ完結スル裁判ト訴訟費用
ノ裁判

第三百九十一條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ
第一審判決ヲ引用スルコトヲ得
○一九一〃一項二〃三〃判決ニ記載スヘキ事項トシテ
ノ事實・争點及理由
第三百九十二條 訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナク

第三百九十三條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ
之ヲ爲スコトヲ得
第三百九十四條 第二項ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ
對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得
○一八二・一八三〃終局判決・三九六〃上告提起
ノ效力・三六一〃訴訟費用ノ裁判ト控訴・七七
四〃一項〃除權判決ニ對スル上訴・六九〃一項〃參
加人ノ爲シ得ル訴訟行為ノ程度・四〇四〃上告
審ト原判決確定ノ事實・裁權五〇第一イ

シテ上訴期間満了シタルトキハ裁判所書記ハ判決
又ハ第三百七十條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟
記録ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スル
コトヲ要ス
○三九六〃上告提起ノ效力・三六六〃控訴提起ノ
期間・三七〇〃不適法ナル控訴提起又控訴狀送
達不能ノ效果・二二八〃三項〃訴狀却下ノ命令ニ
對スル即時抗告・四一五〃即時抗告期間

第二章 上告

第三百九十六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合
ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書
記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク
其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス
○三九六〃上告提起ノ效力・三六九〃訴訟記録ノ
送附
第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサル
トキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上
告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス
○一五六〃期間ノ計算・一五八〃一項〃期間ノ伸縮
ノ效果
第三百九十九條 上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告
理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論
ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得
○一二五〃三項〃別段ノ規定アル場合ト口頭辯論

398 上告ニ付口頭辯論ヲ開始シタル場合ナルト否トヲ問ハス上
告理由書ハ上告人カ訴訟記録到着ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日
內ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス(昭四・大審「大判八卷一二號民事
九三二頁」)

第三百九十四條 上告ハ判決カ法令ニ違背シタルコ
トヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
○三九五〃上告ト法令違背・四一三〃再抗告
第三百九十五條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令
ニ違背シタルモノトス
一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシト
キ
二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得サル判
事カ判決ニ關與シタルトキ
三 專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ
四 法定代理權・訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟
行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタル
トキ
五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ
六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルト
キ

前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ
規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス
○三五〃判事ノ除斥原因・三七〃判事ノ忌避原因
及時期・四一〃除斥又忌避ヲ理由アリトスル裁
判ニ對スル不服申立・四〇七〃三項〃原判決ニ關
與シタル判事ト差戻移送事件・二七〃管轄合意
ノ制限・四九〃無能力者又ハ其法定代理人ノ訴
訟能力・七九〃訴訟代理人ノ資格・八〇〃訴訟
代理權ノ證明・五〇二項〃訴訟退却・一九一〃一
項三〃判決ノ記載事項トシテノ理由。憲五九

裁權一〇三一一一
第三百九十六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合
ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書
記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク
其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス
○三九六〃上告提起ノ效力・三六九〃訴訟記録ノ
送附
第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサル
トキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上
告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス
○一五六〃期間ノ計算・一五八〃一項〃期間ノ伸縮
ノ效果
第三百九十九條 上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告
理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論
ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得
○一二五〃三項〃別段ノ規定アル場合ト口頭辯論

第二章 上告

三九四 上告理由及判決(大二・東・加藤。大七、大八、
日・松岡) (圖例) 三九五・四〇二

516 執行文ノ付與ハ第四九七條第五五九條ニ反對ノ規定ナキ限リ各裁判ニ付キ之ヲ付與スヘキモノトス (昭四・法決「法曹七卷五號八九頁」)

519 指名債權ノ讓渡ハ該讓渡ノ意思表示ニヨリ當事者間ニ權利移轉ノ效果ヲ生スヘク之カ讓渡ノ通知ハ其要件ニ非サルヲ以テ讓渡ノ通知カ債務者ニ到達シタルコトノ證明ナキヲ理由トシテ執行文ノ付與ヲ拒絶スルヲ得サルモノトス (昭五・長控「法新一〇

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一九三二項ニ判決ノ送達・五一八―五二〇ニ執行力アル正本ノ付與・二〇一ニ確定判決ノ既判力ノ及フ人ノ範圍・五二三ニ執行力アル正本ノ數額及再度ノ付與・五二四ニ執行力アル正本付與前ニ判決原本記入・一五〇ニ申立其他ノ申述方式・五六一―一五〇ニ假執行宣言ヲ付シタル支拂命令ト執行文ノ附記・七四九―一五〇ニ假差押命令ト執行文ノ附記・七五六ニ假處分命令其他ノ手續本則。民印一・六ノ三。

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

五一九・五二〇ニ執行力アル正本ノ付與・五二三ニ執行力アル正本ノ數額及再度ノ付與・五二五ニ執行力アル正本ハ判決ノ確定シタル

トキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件ニ繋ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

五一六ニ強制執行・四九八ニ判決ノ確定及其遮斷・一九六ニ假執行宣言ノ手續・三七五ニ假執行ノ宣言・五四八ニ執行力アル正本ノ付與・五二一ニ執行文付與ヲ求ムル訴

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

五一六・五二〇ニ執行力アル正本ノ付與・五二〇ニ執行文付與ヲ求ムル訴・二〇一ニ確定判決ノ既判力ノ及フ人ノ範圍

五一六 執行文(大二三・日・宮城。昭四・明・早川)

五一八 執行力アル正本(昭三・中・神谷。昭五・中・阿部)

三號九頁」)

522 假執行ノ宣言アル判決ニ執行文ヲ付與シタル後其訴ノ取下アリタルトキハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ヲ爲シ得ルモノトス (昭五・名控)

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

五六三ニ強制執行ノ裁判籍

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立タルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所ニ對シ之ヲ付與ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

五一六ニ項ニ執行力アル正本付與者・五六〇ニ強制執行ノ準用規定・五六二ニ公正證書執行文付與者・五一三ニ強制執行ノ保證又供託・五六三ニ強制執行ノ裁判籍

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數額ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數額ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數額ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

五一六ニ執行文ヲ付シタル判決ノ正本・五二六ニ數額ノ方法ニ於ケル強制執行

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

五一六ニ執行文ヲ付シタル判決ノ正本

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

五一六ニ執行文ヲ付シタル判決ノ正本

五二二 執行文付與ニ對スル異議申立(昭三・明・早川)

528 債權差押命令及轉付命令ノ申請ト同時ニ承繼執行文ヲ裁判所ニ提出シタルモ債權者ニ對シ該命令ト同時若クハ其以前ニ右承繼執行文ノ送達ナカリシ場合ニハ承繼人ニ於テ更ニ承繼執行文ノ送達ヲ申立テ該執行文ノ追送ヲ爲スカ又ハ債務者ニ於テ右手續ノ瑕疵ニ付責問權ヲ拋棄スルカノ二者ニ依ラサル限リ債權轉付ノ效力ヲ生セス(昭五・東地「法新一七二號七頁」)

531 執達吏ハ公法上ノ職務ニ基キ獨自ノ權限ヲ以テ強制執行ヲ

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス
○五一六〇執行文ヲ付シタル判決ノ正本・五二二一
第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得
判決ノ執行力其旨ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲シ可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス
若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付シタルトキハ亦其證明書ノ原本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス
○一九三〇判決ノ職權送達・二〇〇一確定判決ノ既判力ニ及フ人の範圍・一六〇〇送達・七四九

3項ニ假差押命令ノ記載事項・五一六一五一九
第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限リ強制執行ヲ始ムルコトヲ得
若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其原本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得
○一九六〇假執行ノ宣言ノ手續
第五百三十條 豫備ノ後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得
此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ
第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス
債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得
裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス
○五四三〇執行裁判所ノ裁判・五五七〇外國ニ於ケル強制執行ノ手續・七三三・七三四〇作爲ノ不作爲債權ニ付テノ執行。裁構九・九四以下。
五三一 執行委任(大八・東・加藤。大八・中・阿部。

爲スモノニシテ債權者ノ代理人又ハ使用人ニ非ス(中略)債權者ト執達吏トノ關係ニ付キ民法一〇一條第二項ヲ適用スヘキニ非ス(昭五・大審「評論二〇卷二號一七八頁」)

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其實ニ任ス
第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得
○五一六一強制執行ト執行文ヲ附シタル判決ノ正本
第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス
執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ
○五一六二執行力アル正本ト強制執行
第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證書ヲ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證書ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ
○五一六二執行力アル正本ト強制執行。民四八六
第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス
抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ
○五四三〇執行行爲ノ共力ト管轄裁判所・五五五〇執達吏ノ執行行爲實施ニ付キ執行裁判所ノ共力。
昭三・中・神谷(關例)五三二以下
▽執達吏ノ地位、性質(大元・京・雉本。大八・東・加藤。大八・中・阿部。大八・三・日・宮城。昭六・日・玉井)
▽執達吏ト破産管財人トノ地位權限ノ比較(大八・四・東・加藤) [共通] 破一五七以下

544 差押命令並ニ讓渡命令ハ強制執行ノ方法ニ外ナラサルカ故ニ利害關係人之ニ對シ不服ナルトキハ本條第一項ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ニ尙不服ナルトキハ始メテ該裁判ニ對シ抗告ヲ爲シ得(昭四・大審「法新二七八〇號一四頁」)一執行裁判所カ強制競賣ノ申立ヲ却下スルノ決定ヲナスコトハ本條ニ所謂強制執行ノ方法ニ非サルヲ以テ之ニ對シテハ同條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヘキニ非ス(昭四・大審「法新三〇八六號一五頁」)

第五百三十七條 執達吏ハ執行行為ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條 夜間又ハ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行為ヲ爲スコトヲ得

第五百四十條 執行行為ノ際ニ示ス可シ

第五百四十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十一條 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

第五百五十二條 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ハ若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第六十七條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ(本項中改正)

第五百五十三條 執行行為ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載スヘシ

第五百五十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百九十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

545 請求ニ關スル異議トハ請求即訴訟物タル權利關係ニ關スル異議ヲ云フ故ニ此異議ハ之ヲ口頭辯論ニ於テ提出シタルトキハ本案判決ノ主文ニ影響ヲ及ホス性質ノモノナラサルヘカラス(昭二・大審「法新二七〇〇號六頁」)一法律行為ノ取消權ハ命令相手方カ其法律行為ニ付確定判決ヲ得タル後ト雖行使シ得ヘキモノニシテ法律ニ因リ確定シタル請求ノ原因タル法律行為カ口頭辯論終結後ニ取消サレタルトキハ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區別所ノ管轄ニ屬ス

第五百四十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百四十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百五十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百六十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百七十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十一條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十二條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十三條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十四條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十五條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十六條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十七條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十八條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百八十九條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百九十條 執行行為ノ共力ト管轄裁判所ノ

第五百九十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第五百九十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百零九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百一十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百二十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百三十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百四十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百五十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百六十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百七十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十一條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十二條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十三條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十四條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十五條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十六條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十七條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十八條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百八十九條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

第六百九十條 執行行為ニ對スル異議(大八・日・板倉。大

論終結後ニ其原因ヲ生シタルモノトシテ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シ得ルモノトス(昭四・大審「法新三〇六〇號一六頁」)

548 受訴裁判所ノ判決トハ受訴裁判所カ本條第二項ニ基キテ爲ス判決ヲ謂フ(昭四・法決「法曹七卷三號五五頁」)

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此力爲ニ妨ケラレルコト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ制限ノ裁判ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラレルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ

因リ強制執行ヲ續行ス

○一五〇 申述方式ニ二六七 疏明方法ノ原則・五
一三 強制執行ト保證又供託・五四三 執行裁
判所・五五八 強制執行手續裁判ト即時抗告・
一五八一 期間伸縮・二二五 口頭辯論主義。

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ掲ケル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本項改正)

五五六 執行文付與ニ關シ訴ヲ以テ第一審受訴裁判所ニ異議ヲ爲スヘキ場合(昭四・明・早川) 例五
四七

549 目的物ノ引渡ヲ妨クル權利ノ中ニハ占有權ヲモ包含スルモノトス(昭六・大審「評論二〇卷六號一八三頁」)

550 競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テ競落許可ノ決定アリタル後ト雖モ該競賣手續ノ完了前競賣ノ基本タル債權ノ辨濟アリタルトキハ之ニ依リテ債權ハ消滅シ爾後競賣手續ハ之ヲ續行スヘキモノニアラス(昭五・大審「法新三一號一四頁」)

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨ケタル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメシテ之ヲ爲スコトヲ得

○五九・六〇 共同訴訟・六一 一六三 共同訴訟人ノ效力・五四三 執行裁判所・二二 本然ノ事物管轄・二三 特殊管轄・五六三 強制執行ノ裁判權。裁權一四・二六第一。

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第三 執行ヲ免カサル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面(本號改正)

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

○五五一 強制執行ノ停止又制限ノ程度・一九六
2 項 假執行免脱ノ宣言・一九八 1 項 假執行宣言ノ效力消滅・五四五 請求ニ關スル債務者異議ノ訴・五四六 執行文付與ニ關スル異議訴・五四八 1 項・五四九 4 項 強制執行ノ制限ノ裁判・五四九 1 項 執行ノ目的物ニ關スル第三者異議ノ訴ノ要件・四一八 2 項 抗告ニ付キ決定前ノ假處分・五〇〇 1 項・五一二 強制執行ノ停止又制限・五一三 2 項 強制執行ニ關スル保證又供託ニ關シ證明書ノ付與・五四四 1 項 強制執行方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關スル申立又異議・五四七 2 項 強制執行ノ制限ノ裁判。供託法二。

五四九 第三者ノ異議ノ訴(大七・大九・中・阿部。大
一三・中・遠藤。大一五・明・前田。昭五・日・中尾。
昭五・日・木村)

五五〇 差押ヲ解ク場合(大一四・中・前田) 例五
四八

審「法新三二〇六號五頁」

第五百六十一條ノ二 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス(本條追加)

第五百六十二條 公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テハ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第五百六十三條 請求ニ關スル異議ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

第五百六十四條 執行文付與ニ付テハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス(本項改正)

第五百六十五條 執行文付與ニ付テハ執行力アル正本ノ數通又再度ノ付與・五二二項ノ執行力アル正本ノ決定前假處分・五二九項ノ抗告審理・五二二項ノ執行文付與ヲ求ムル訴・五四六項ノ執行文付與ニ對スル異議ノ訴・一四四項ノ普通裁判籍ノ公證人法一。

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリ

強制執行 總則 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 通則

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ボスコトヲ得ス

差押ヲ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六六條 強制執行ト執行文ヲ附シタル判決ノ正本・五五四項強制執行ノ費用。民八六項動産ト不動産。

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第二節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 差押ノ意義、效力(大一一・中・阿部。昭三、五六四)

566 債務者ノ住居ニ存在スル財産ハ一應其者ノ所有ト推定スヘキモノナレハ執達吏ニシテ相當ノ注意ヲ以テ差押ノ場所カ債務者ノ住居ナルコトヲ確メタル以上特別事情ナキ限り右財産ヲ債務者ノ財産ト思惟シ之ニ對シ差押ヲ爲スモ直ニ過失アリト爲スヲ得ス(昭五・東地「法新三二〇七號一七頁」)

民事訴訟法

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疎明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 有體動産ニ對スル強制執行ニ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 通則

通則

雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一ヶ月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

置ハ其多分力滿ヲ成造スル爲メ揚リ置ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

中・神谷

優先主義ト平等主義(大三・東・加藤。大一五・日・森田)

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

五六六 有體物引渡請求權ノ執行(大一五・明・前田)

五六七 金錢債權ノ強制執行(大三・四・東・加藤。大五・日・板倉。大一・中・阿部。昭三・中・神谷。昭五・明・前田。昭五・中・阿部。昭五・日・中尾)

五六八 前田。昭五・中・阿部。昭五・日・中尾)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 有體動産ニ對スル強制執行

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ賣却ス可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ賣換ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ賣却ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ賣却ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因テ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏賣却ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アララント執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲スコシ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十二條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

第五百九十二條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十三條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十四條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十五條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十六條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十七條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十八條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十九條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第六百條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

594 既ニ拂込ノ催告ヲ爲シタル株金ノ請求權ハ必スシモ絕對ニ株式會社ニ專屬スルモノニハ非スシテ之ニ對シ差押ヲ爲スモ適法ナルモノトス(昭五・大審「法新三一二二號一頁」) 一 權限アル者カ一定ノ形式ニヨリ幾何ノ賞與金ヲ交付スヘキ旨ノ意思ヲ表示シタル事實アリトスレハ之ヲ辭退セサル限り右事實發生ト同時ニ賞與金債權發生シタルモノト解スヘキモノナルト共ニ斯ル債權ハ一身ニ專屬スヘキ債權ト謂フヲ得スコレニ對シテ債權者ノ申請

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏賣却ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アララント執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲スコシ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十二條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

第五百九十二條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十三條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十四條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十五條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十六條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十七條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十八條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第五百九十九條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

第六百條 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 有體動産ニ對スル強制執行

基キ裁判所カ差押及轉付命令ヲ發スルモ失當ニ非ス(昭五・東地「法新三〇八九號九頁」) 債權ニ關スル重複差押ハ有體動産ニ關スル重複差押ト異ニシテ我民事訴訟法ニアリテハ別段ノ規定ナキトコロナリト雖モ之カ重複差押ヲ禁スル明文ナキノミナラス之カ差押命令ハ裁判所カ差押フヘキ財産權存在スルヤ否ヤヲ調査セシテ之ヲ發スルモノナルヲ以テ之ヲ許スモノト解スヘシ(昭四・關地「法新三一五二號一一頁」)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス
第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所、此區裁判所ナキトキハ差押フヘキ債權ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヲ管轄スル地ニ在ルモノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ擔保權ヲ有スル債權ハ其物ノ所在地ニアルモノトス(本條改正)
第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第五百九十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第五百九十八條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第五百九十九條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントテ申請スルコトヲ得
第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス
第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

600 請負金債權ハ請負工事完成前ト雖モ之カ差押及轉付ヲ爲スヲ妨ケス(昭五・大審「大判九卷一〇五五號」)
601 債權ノ轉付ヲ受ケシ者ハ債權ヲ承繼スルコト其讓渡ヲ受ケシト同様ナル故右轉付當時被承繼者ノ債務者ニ於テ同人ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ轉付ヲ受ケシ者ニ對シ之ヲ以テ對抗スルヲ得サルヘカラス(昭三・大審「法新二九〇七號一二頁」)
603 執達吏カ差押命令ノ執行力アル正本ニ基ク債權者ノ委任ニ

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十九條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントテ申請スルコトヲ得
第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス
第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス
第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス
第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス
第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證券ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證券ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得
第六百七條 轉付命令(昭二・日・中尾。昭三・中・神谷。昭五、昭六・日・中尾) (關係) 六〇一・六二〇

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス
第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ
第五百九十九條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ
第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントテ申請スルコトヲ得
第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス
第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

ヨリ手形ヲ占有セルトキハ右差押命令ハ執行力アル債務名義ノ存在ヲ基本トセルコト疑ナキカ故ニ結局執達吏ハ執行力アル債務名義ニ依リ手形ノ差押ヲ爲シタルコトニ歸着スルモノトス(中略)手形債權ニ對スル轉付命令ハ其效力發生當時ニ有效ナル手形ノ差押アルヲ以テ足ル(昭五・大審「法新三一六〇卷九頁」)

604 或ハ金額或ハ時期ニ依リ特ニ債權額ノ限度ヲ指定シテ差押ヲ爲シタル場合ハ差押ノ效力ハ自ラ當事者ノ申立テタル範圍ニ限

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

ラレ之ヲ超エテ指定以外ノ分ニ及フモノニアラス(昭三・大審「法新二八九三號一一頁」)

618 市ノ吏員タリシ者カ受ク可キ退職料ノ如キハ市條例ヲ以テ之カ賣買讓渡又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ禁止スルモ市條例ハ自治體ニ於テ制定セル自治體ノ準則ニシテ從テ本條ニ對シ優先シテ適用セラルル法規ニ非サルヲ以テ其差押及轉付命令ノ當否モ一ニ退職料カ本條第五號ニ包含セラルル債權ナリヤ否ニ依リ決定セラ

ル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ對的シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條 有體物ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ノ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十七條 以下ニ差押後ノ手續。民八五・八六。

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條 左ニ掲ケル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈善ニ因リ受ケル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 扶助料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞務者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メニ受ケル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十九條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

ルヘキモノトス(中略)退還料モ一般金銭債權ト等シク其差押並
 轉付ニ付テハ何等制限セルコトナク其全額ニ付テハ許スモノト謂
 フヘシ(昭三・德地「法新二九〇三號七頁」)
 625 加入名義變更禁止中ノ電話加入權ノ如ク本來ノ性質上讓渡
 性ヲ缺クニアラス唯特殊ノ理由ニヨリ一時讓渡ノ停止セラレアル
 ニ過キサルモノハ之ニ對シ差押ヲ爲サシメ執行行爲ヲ許容スルモ
 其時期ハ別問題トシテ強制執行ハ其目的ヲ達シ得ラレサルニ非サ

強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行
 債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル強制執行

求ヲ爲スコトヲ得ス
 右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者
 及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押力取
 消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シ
 タル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ
 生ス
 ◇六一〇〇強制執行ト執行文ヲ附シタル判決ノ正
 本・五九五〇執行裁判所・六〇〇八〇債權者ノ取
 立終了後ノ届出・六〇〇一〇取立又轉付命令
 ノ發行・一六〇以下送達
 第六百二十一條 金銭ノ債權ニ付テ配當要求ノ送達
 ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利ヲ
 有ス
 第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ
 債務額ヲ供託スル義務アリ
 第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁
 判所ニ届出ツ可シ
 ◇六二〇三項配當要求ノ送達・五一三〇強制執
 行ニ關スル保證又供託
 第六百二十二條 請求力ノ不動産ニ關スルトキハ第三
 債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所力差押債權者
 又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事
 情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産
 ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之
 ヲ引渡ス義務アリ
 ◇一五〇〇申立其他ノ申述方式・六一六〇不動産

請求權ノ差押
 第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義
 務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ
 履行セシムルコトヲ得
 執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人ト
 シテ原告ニ加ハル權利アリ
 訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權
 者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラント口頭辯論
 ノ第一期日マデニ申立ツルコトヲ得
 右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ
 利害ヲ及ホス效力アリ
 ◇六一〇〇執行文ヲ付シタル判決ノ正本・五九一
 六三〇共同訴訟
 第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルト
 キハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ
 一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコトヲ催告シ其催
 告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自
 ラ取立ヲ爲スコトヲ得
 ◇六〇〇一〇取立又轉付命令ノ發行・六〇〇二〇
 取立命令ノ效力範圍・六一四・五一六〇強制執
 行ト執行文判決ノ正本・五九五〇執行裁判所
 第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲
 ケタル以外ノ財產權ニ對スル強制執行ニ付テハ本
 款ノ規定ヲ準用ス
 若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ
 處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲

ル故ニ唯現ニ讓渡ノ停止セラレアルノ一事ヲ以テ直ニ上記電話加
 入權ハ差押ノ目的タルヲ得サルモノト爲スハ當ラス(昭五・大審
 「法新三一四號一五頁」) 一 現ニ一定ノ財產ノ拂戻又ハ利益配
 當ノ請求權カ具體的ニ發生セサル場合ニ於ケル合資會社社員ノ持
 分ハ之ヲ一ノ停止條件附財產權ナリト解スヘシ(中略)本條ニ於テ
 不動産ヲ目的トセス又前數條所載以外ノ財產權ニ付テハ本條ノ規
 定ヲ準用シ而モ條件附債權ノ差押ハ第六一三條ノ認容スル所ナル

強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 配當手續

シタルモノト看做ス
 右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利
 ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得
 ◇五九八二項差押命令ノ送達及通知
 第四款 配當手續
 第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行
 ニ際シ競賣期日又ハ金銭差押ノ日ヨリ十四日ノ期
 間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シ
 タルトキ之ヲ爲ス
 ◇五九三一項二項各債權者間協議不調ト實得金
 額ノ供託
 第六百二十七條 裁判所ハ事情屆書ニ基キ七日ノ期
 間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書
 ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ
 ◇五九三三項執行手續書類ノ添附・六二一三項
 債權額供託事情ノ届出・一五六・一五八一項
 債權額計算及期間伸縮
 第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表
 ヲ作ル可シ
 右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ル
 ニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ
 依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許
 サス
 ◇五九三三項執行手續書類ノ添附・六二一三項

債務額供託事情ノ届出
 第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ
 配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者
 及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラ
 サルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ
 要セス
 配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ
 遅クとも期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置
 ク可シ
 ◇六二八〇配當表作成及其作成手續
 第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配
 當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ
 停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法
 ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更
 ニ配當ス可シ
 第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ
 於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當
 額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ
 配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ
 ◇六二八〇配當表作成及其作成手續・六三二〇配
 當實施ト債權者不出頭ノ效果・七三七以下假
 差押及假處分
 第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者
 ハ直チニ陳述ヲ爲スコトヲ得シ關係人異議ヲ正當ナ
 リト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキ
 ハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

故=前示持分カーノ停止條件附債權ナリトスルモ之ヲ差押ヘ得ルモノト解セサルヘカラス (昭五・東地「法新三一〇號六頁」)

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 配當手續

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區域裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調整及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス(本條中改正)

第六百三十八條 第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコト又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルコトノ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス(本條改正)

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十三條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區域裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調整及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス(本條中改正)

第六百三十八條 第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコト又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルコトノ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス(本條改正)

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

643 本條第一項第五號ニヨリ證明スヘキ貸借ハ就賣申立當時其就賣目的物件上ニ現存スル貸借關係ヲ意味シ必スシモ抵當權者ニ對抗シ得ヘキ貸借ニ限ルヘキ謂ハレナシ (昭五・東地「法新三一〇九號六頁」)

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強制執行 通則 強制執行

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第五一六條 強制執行ト執行力アル正本。

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制執行

第二 強制執行

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制執行ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六四二條以下ニ強制執行ノ七〇六以下ニ強制執行ノ七三七以下ニ假差押及假處分。民八六ニ不動産ノ第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區域裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區域裁判所ノ管轄区内ニ

散在スルトキハ各區域裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ事件ヲ他ノ管轄區域裁判所ニ移送スルコトヲ得(本項中改正)

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第五〇〇條 申立其他ノ申述方式。五四三條 執行裁判所。五六三條 強制執行ノ裁判籍。

第二款 強制執行

第六百四十二條 強制執行ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 債權ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第三 債權者ノ申立其他ノ申述方式。四九七・五五九條 強制執行ノ非訟二〇八。刑訴五五三。行裁法二一。

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 登記簿ニ債權者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證明ス可キ證書

第三 土地所有權人ノ姓名、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル貸借價格及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ

644 競賣開始決定前既ニ所有權取得ニ關スル契約成立シ且其旨ノ假登記ヲ經由シタルニ於テハ其本登記カ右開始決定ノ後ニ爲サレタリトスルモ決シテ新ニ不動産ノ處分行爲ヲ爲シタル場合ニ當ラサルコト勿論ニシテ其競落許可決定確定ニ至ラサル限リ其登記權利者ハ有效ニ本登記ヲ爲シ得ルモノト解セサルハカラス(昭四・東控「法新三〇七〇號一一頁」)

645 不動産ニ對スル強制競賣ノ場合ニ配當要求ヲ爲スヲ得ル時

第一 債權者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタリトシテハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第二 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第三 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第四 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第五 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第六 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第八 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第九 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第十 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付テ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求スル債權者アルトキハ債權者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

期ニ付テハ別ニ明文存セスト雖強制競賣開始決定カ債務者ニ送達セラレタル以後ハ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得ト解スルヲ相當トス(昭三・大審「法新二九一六號一五頁」) 一 増價競賣ノ申立ヲ爲シタル債權者カ他ノ債權者ノ同意ヲ得ルコトナクシテ單獨ニテ右増價競賣申立ノ取下ヲ爲スモ法律上其效力ヲ生セサルヲ以テ競賣裁判所カ債權者ノ増價競賣申立ニ基キ既ニ爲シタル競賣開始決定ハ依然其效力ヲ有スルヲ以テ再ヒ同一ノ不動産ニ對シテ競賣開始決

債權者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタリトシテハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十九條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零一條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零二條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零三條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零四條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零五條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零六條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零七條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零八條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百零九條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第七百一十條 債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

債權者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタリトシテハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債權者ニ對シテ其債權ヲ確定ス可シ

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付テ強制競賣ノ申立アルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十三條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十四條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十五條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十六條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十七條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十八條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百五十九條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十一條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十二條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十三條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十四條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十五條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十六條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十七條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十八條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百六十九條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

第六百七十條 登記判事ハ前條ニ據ケタル記入ヲ

定ヲ爲スコトヲ得ス(昭五・大審「法新一三九號一五頁」)
 648 本條第一號ニ差押債權者トハ當該不動産ニ對シ強制競賣申立ヲ爲セル者ヲ指ス(昭三・大審「法新二九〇五號一五頁」)
 650 不動産競賣手續ニ於テ其目的タル不動産ハ差押ニ因リ其處分ヲ禁止セラルルモノニシテ差押ノ效力發生前ニ於ケル第三者ノ權利取得ハ其惡意ナルト否トヲ問ハス有效ナルヲ以テ本條第一項ハ差押ノ效力發生後ニ於テ權利ヲ取得シタル善意ノ第三者ヲ保護

爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ
 第六百五十三條 債權人知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨グ可キ事實カ登記簿ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ手續ヲ取消シ又ハ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ
 第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間定メテ告知ス可シ
 第六百五十五條 裁判所ハ登記簿及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス
 第六百五十六條 登記簿及ヒ租稅其他ノ公課ニ對スル強制競賣手續開始決定ト官廳ニ對スル通知・六六二ニ差押不動産競賣條件ノ變更・六七二ニ差押許可ニ對スル異議ノ理由
 第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス
 第六百五十八條 競賣期日ノ公告事項。
 第六百五十九條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 不動産ノ表示
 第二 租稅其他ノ公課
 第三 貸借アル場合ニ於テハ其期限及ヒ借賃
 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
 第五 競賣期日ノ場所・日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

キハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ
 右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ
 第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク賣却條件ノ變更・六六三ニ差押許可ニ對スル異議ノ理由・六六五・六六六ニ最低競賣價額ノ決定・六四九ニ差押不動産ノ賣却條件ト競落ノ效果・五五四ニ強制執行ノ費用・一五六ニ期間ノ計算・一五八一項ノ期間ノ伸縮・五二三ニ強制執行ニ關スル保證又供託。
 第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス
 第六百五十八條 競賣期日ノ公告事項。
 第六百五十九條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 不動産ノ表示
 第二 租稅其他ノ公課
 第三 貸借アル場合ニ於テハ其期限及ヒ借賃
 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
 第五 競賣期日ノ場所・日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

セントスルモノトス(昭五・東地「法新一八三號一二頁」)
 656 競賣ノ目的タル不動産上ニ競賣ヲ申立テタル者ノ抵當權ニ優先スル抵當權存シ該優先權者ニ辨濟ヲ爲スニ於テハ不動産ノ最低競賣價額ヲ以テハ剩餘アル見込ナキ場合ニ於テモ其競賣手續ハ之ヲ續行スヘク敢テ之カ取消ヲ爲スヘキニ非ス即チ此場合ニハ本條ノ準用ナキモノト解スルヲ正當トス(昭五・大審「法新一六二號一七頁」)

第六 最低競賣價額
 第七 競落期日ノ場所及ヒ日時
 第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨
 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨
 第六七二條 差押許可ニ對スル異議ノ理由・六五九ニ不動産ノ強制競賣期日・六五五ニ最低競賣價額ノ決定・六六〇ニ不動産ノ強制競賣ト競落期日・六六三ニ競賣實行ノ着手・六四九・六四八ニ差押不動産ノ賣却條件ト競落ノ效果・六四八ニ強制競賣ニ於ケル利害關係人。不登法一。民二九五・三三六。
 第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
 此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム
 第六百六十條 競賣期日ノ公告・六七二ニ差押許可ニ對スル異議ノ理由。
 第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス
 此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
 第六百六十二條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板
 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
 此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得
 第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百六十五條 六五六・六五九ニ不動産ノ強制執行ト競賣前ノ手續・六六四・六六五ニ競賣申出ノ效果・六七〇ニ新競賣期日・六四九ニ差押不動産ノ賣却條件ト競落ノ效果・七〇五ニ最高價入札人・六七八ニ不動産ノ毀損・六八六・六八七ニ競落人ト競落物トノ關係・六九三ニ期日ノ指定及關係人呼出・六四八ニ強制競賣ノ利害關係人。
 第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ
 第六百六十四條 競賣期日・六六二ニ競賣期日・六六七
 第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サ

681 競落許可決定ニ對シ競賣ノ申立ノ許スヘカラサルコトヲ理由トシテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テ其抗告ヲ正當ト爲シタルトキハ競落不許可ノ裁判ヲ爲スヘク競賣申立却下ノ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス(昭五・大審「大判九九卷六四頁」)

第六百七十四條 強制執行ト其費用。
 第六百七十六條 第六百七十二條及第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ。
 新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ。
 第一五六〇期間ノ計算法・一五八一項ノ期間ノ伸長短縮・二二五〇訴訟口頭辯論。
 第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ。
 競落期日ノ調査ニ付テハ第四百四十二條乃至第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス(本項中改正)。
 第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム。
 第六百七十九條 競落許可異議ノ理由。
 第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産ノ競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特利ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキ

ハ其條件ヲモ掲ケ可シ
 右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ
 第六百七十七條 競落許否決定ノ言渡・六六三〇競賣實行ノ著手。
 第六百八十一條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲ス可キトコトヲ得
 競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲ス可キトコトヲ得
 右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受ケルモノトス
 第六百八十二條 強制競賣ノ利害關係人・四一五〇即時抗告期間・四一八〇執行停止ノ效力。
 第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケタル總テノ不許可ノ原因ナキコトヲ理由トスルコトニ限リ之ヲ爲ス可キトコトヲ得
 第六百八十二條 競落ノ許否決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケタル總テノ不許可ノ原因ニ限リ之ヲ爲ス可キトコトヲ得
 第六百八十三條 競落ノ許否決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケタル總テノ不許可ノ原因ニ限リ之ヲ爲ス可キトコトヲ得
 第六百八十四條 競落ノ許否決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケタル總テノ不許可ノ原因ニ限リ之ヲ爲ス可キトコトヲ得

672 未成年者カ單獨ニテ代理人ヲ選任シ競買ノ申立ヲ爲シタルトスルモ代理人カ競買ノ場所ニ出頭シ甲物件ニ付競賣ノ申出ヲ爲シタル當時未成年者ノ父モ亦競買場所ニ出頭シ乙物件ニ付競買申出ヲ爲シタルトキハ特別ノ事情ナキ限り父ハ未成年者ノ代理人カ競買申出ヲ爲スニ付同意ヲ與ヘタルモノト認ムルヲ相當トス(昭五・大審「法新一一五〇號一〇頁」)

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ執行ス可カラサルコト
 第二 最高價競買人實買契約ヲ取結ビ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
 第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
 第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
 第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト
 第七 第六百六十五條第二項及第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
 第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト
 第六百七十一條 競落期日ニ出頭セル利害關係人ノ陳述・六七四〇不動産強制競賣ト競賣ノ不許可・六四九〇強制競賣ニ於ケル利害關係人・六五五〇不動産ノ強制競賣ト最低競賣價額決定・六五五〇・六五八〇・六六二〇・六七〇〇最低競賣價額・六六六〇一〇最高價競買人・六七八〇最高價競

買人ノ競買取消權・七〇五〇最高價入札人・六四四〇競買人ノ保證義務・六八六〇・六八七〇競落人ノ競落物ニ對スル關係・六九三〇競落期日ノ指定及關係人呼出・六五九〇競賣期日・六六〇〇競落期日・六六一〇競賣期日ノ公告。
 第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス
 第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス
 第六百七十五條 第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ履行ニ付承認セザルトキニ限ル
 第六百七十五條 強制執行ノ停止又制限實施ノ場合。一 二五〇〇口頭辯論主義。
 第六百七十五條 數個ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

682 競落許可決定廢棄ノ裁判ノ確定力ハ單ニ競落許可決定カ不法ナリトノ點ニ止マリ競賣開始決定ニ對シテハ其效力ヲ及ボササルモノトス(昭五・大審「法新一三九號一五頁」)

688 裁判所カ本條第一項ニ依リ再競賣ヲ命シタルトキハ之ニ依リテ競落許可決定ハ其效力ヲ失ヒ從テ競落人ノ代金支拂義務モ亦消滅スルモノト解スルヲ正當トス(昭五・大審「法新一一四號一三頁」)

民事訴訟法

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

不動産ニ對スル強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

○六六二ニ最低競賣價額以外賣却條件ノ變更・六七三ニ最低競賣許可ニ對スル異議ノ理由。

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス。

第六百八十八條 競落人ハ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ。

第六百八十九條 爲メ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス。

第六百九十條 再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ。

第六百九十一條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十二條 爲メ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス。

第六百九十三條 再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ。

第六百九十四條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十五條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十六條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十七條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十八條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十九條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇〇條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇一條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇二條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇三條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇四條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇五條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇六條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇七條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇八條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇九條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇一條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇二條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百一〇三條 再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ。

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス。此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ。

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ。

第六百九十五條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十六條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十七條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十八條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十九條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇〇條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇一條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇二條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

民事訴訟法

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

不動産ニ對スル強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

強制執行

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス。此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ。

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ。

第六百九十五條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十六條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十七條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十八條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百九十九條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇〇條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇一條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇二條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇三條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇四條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇五條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇六條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇七條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇八條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

第六百一〇九條 第一 代金 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十三條 配當期日指定及關係人呼出。六六四一
項ニ競買申出效果。六六八八執達吏ノ任務終了
第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及
ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債
權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ
債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當
ノ割合ヲ記載ス可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配
當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準
用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノ
ハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 配當表ニ對スル強制競賣ト配
當表確定及作成

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債權者ハ各債權
者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ
對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ
負擔ヲ引受タル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ
額ニ滿ツルヲ限リテ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入
代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受タルコトヲ得若シ債
權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金
ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スル
ニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算
ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキ
ハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 最低競買價額以外賣却條件ノ變更。六
九七二配當表ニ關スル異議及配當實施本則。五
一三三強制執行ニ關スル保證又供託

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書
及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸
件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ
抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記
入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ
負擔ス可シ

第六百九十七條 不動產ノ賣却代金ノ決定及其支拂。六
四九二差押不動産ノ賣却條件ト競落ノ效果。六
七〇一競多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可
キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用
ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人
ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂
ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於
テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十七條 競賣期日及競落期日ノ公告。六四八
強制競賣ニ於ケル利害關係人。一五〇申述方
式

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差
出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第七百四條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第
六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受
ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差
金ヲ負擔スル義務アリ

第七〇四條 不動產ニ對スル強制競賣ト入札手續。
六六二競賣條件ノ變更。六七二三競落許可
ニ對スル異議ノ理由

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第
六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ
第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用

第七〇二條 不動産ニ對スル強制競賣ニ換ヘル入札
拂。六五八競落期日ノ場所日時。六五九不
動產ニ對スル強制競賣期日

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開
封シ之ヲ朗讀ス可シ

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲ
シテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム
一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札
價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之
ヲ許サス

不動産ノ強制執行ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 船舶ニ對スル強制執行ニ關スル管轄裁判所ハ船舶ノ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百三十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百四十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百五十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

730 本條ニ所謂競落人ノ引受ケサル不動産上ノ負擔ノ記入トハ競落物件上ノ各登記事項中競落後尙競落人ニ於テ其競落以前ノ一定ノ登記事項ヲ認容スヘキ義務ノ有無ニヨリ判斷シ競落人ニ於テ之ヲ認容スヘキ義務ナキ登記事項ナル場合ニ於テハ之レ即テ競落人ノ引受ケサル不動産上ノ記入登記ト解スヘキモノトス (昭五・東地「法新三一八八號一七頁」)

ス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カス

第七百七十一條 船舶ニ對スル強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百七十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百八十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百九十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十二條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十三條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十四條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十五條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十六條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十七條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百一十九條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

第七百二十條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ港ニ在ラス

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 船舶ニ對スル強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

734 債務ノ履行ニ付第三者ノ共助ヲ必要トスル場合ニ於テハ其
 第三者ニ於テ債務者ノ求メニヨリ任意ニ其共助ヲ爲スヘキ特別ノ
 事情存セザル限り強制履行ヲ許スモノト認メ難シ（昭五・東地「法
 新三一〇〇號一二頁」）一代替物ノ一定數量ノ引渡ヲ目的トスル
 請求ニシテ而カモ右カ債務者ノ手中ニ存セザル如キ場合ニ於テハ
 損害賠償請求ノ訴ヲ提起シテ其救済ヲ求ムルハ格別本條ノ執行方
 法ニヨリ救済ヲ求ムルコトヲ得ス（昭五・大審「法新三一五二號

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル
 船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務
 者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ
 此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出
 頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除
 キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキ
 ハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇
 人ニ之ヲ引渡ス可シ
 債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達
 吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可
 シ
 債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行
 裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ
 從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ
 供託ス可シ
 〇五四三〇執行裁判所・五七二以下ニ差押後ノ手
 續。民八六・七三二。
 第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存
 スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金銭
 債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉
 付ス可シ
 〇一五〇〇口頭ニ依ル申述・五九四以下ニ債權及
 ヒ他ノ財產權ニ對スル強制執行。
 第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三
 項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因

リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス
 債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用
 ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラ
 ンコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ
 此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス
 權利ヲ妨ケス
 〇一五〇〇口頭ニ依ル申述・一二五〇訴訟口頭
 辯論・七三五〇口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ
 得ヘキ決定・五五八〇強制執行ノ手續ニ於ケル
 裁判ト即時抗告・五六三〇強制執行ノ裁判籍。
 第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合
 ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以
 テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲
 ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應ジ一定ノ賠償ヲ爲
 スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコト
 ヲ命スルコトヲ要ス
 〇一五〇〇口頭ニ依ル申述・一五八一項ニ期間ノ
 伸長短縮・一二五〇訴訟口頭辯論・七三五・五
 五八・五六三。
 〇所有權移轉ノ意思表示ヲ爲スヘキ義務ヲ履行セザ
 ル場合ニ於ケル強制執行（昭六・明・前田）（共濟）七
 三一・七三二・七三四

六頁」）一本條ノ執行方法ハ金銭ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ強制
 執行ニ於テハ之ヲ採リ得サル手段ナルコト明ナルト共ニ第三章ニ
 於ケル條文ノ順序ヨリ見ルモ動産又ハ不動産ノ引渡ヲ目的トスル
 債權ニ付キ之ヲ適用シ得サルモノト云フヘシ（昭五・大審「法新
 三二一六號九頁」）一幼兒ノ引渡ハ性質上強制執行ヲ許ス場合ニ
 該當スト解スルヲ相當トスヘク之ヲ許スモ公序良俗ニ反セザルモ
 ノトス（昭五・大審「評論一九卷九號一一六頁」）

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシ
 テ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ
 〇一二五〇訴訟口頭辯論・五五八〇強制執行ノ
 手續ニ於ケル裁判ト即時抗告。
 第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス
 可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ
 判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又
 ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ
 有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ
 於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從
 ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス
 〇五一六〇執行文ヲ付シタル判決ノ正本。
 第四章 假差押及ヒ假處分
 第七百三十七條 假差押ハ金銭ノ債權又ハ金銭ノ債
 權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動
 産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコト
 ヲ得
 假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ
 爲スコトヲ得
 〇民八六〇不動産及動産ノ意義。
 第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲サレハ判決ノ執
 行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シ
 キ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ
 執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得
 第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物

ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判
 所ノ管轄ス
 〇七六二〇假處分ト本案ノ管轄裁判所ノ意義・五
 六三〇強制執行ノ裁判籍・一二五〇訴訟口頭
 辯論。
 第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可
 シ
 第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係
 ラサルトキハ其價額
 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ
 申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 〇七三八〇假差押ノ條件・二六七〇疏明方式ト保
 證金供託・一五〇〇口頭ニ依ル申述。
 第四章 假差押及ヒ假處分
 七三七 假差押ト假處分トノ區別（昭三・昭五・明・前
 田）（岡田）七三八以下
 〇實體上ノ請求權ナキ者ノ爲ス強制執行ト救済方法
 （昭五・中・細野）（岡田）七三八

744 假差押ノ目的物件カ假差押債務者ノ所有ニ屬セスシテ第三者ノ所有ニ屬スルトキハ債務者ハ何等痛痒ヲ感スルコトナキヲ以テ該假差押ニ對シ異議ヲ申立ツルヲ得サルモノトス(昭五・東區「法新・三一三三號八頁」)

747 假處分命令ノ申請人カ本案ニ於テ敗訴シタルトキハ其判決確定前ト雖裁判所ハ事情ノ變更アリトシ假處分命令ヲ取消スコトヲ得ルモノトス(昭四・長控)

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第七百四十二條 假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
第七百四十三條 假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ
第七百四十四條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
第七百四十五條 假差押ノ申請ニ付テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス
第七百四十六條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ
第七百四十七條 假差押命令ニ付テノ審判方式・五三三

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス
債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂フ爲メスコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコトヲ得
假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達スル命令ヲ發シ得ル
第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス
第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス
假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス
右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得
第七百五十條 執行力アル正本・七四一一項ニ假差押命令ノ申請ニ付テノ裁判・一六〇以下ニ送達・一五六ニ期間ノ計算・一五八一項ニ期間ノ伸縮・五二八一項ニ執行力アル正本以外ノ強制執行ノ要件
第七百五十一條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

738 縱令債務者ニ於テ債務擔保ノ資力アルトキト雖モ或ハ其財産ヲ隱匿スル等後日強制執行ヲ爲スニ付著シキ困難ヲ生スル虞アル場合ニ於テハ假差押ヲ許スヘキモノナルコト言フ俟タス(昭五・大審「法新一四二號一〇頁」)

739 假差押ノ目的物カ債權ナルトキハ第三債務者ノ普通裁判籍ノアル地ヲ以テ假差押フヘキ物ノ所在地ナリト解スヘキモノトス(昭五・大審「大判九卷九〇〇頁」)

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第七百四十二條 假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
第七百四十三條 假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ
第七百四十四條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
第七百四十五條 假差押ノ申請ニ付テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス
第七百四十六條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ
第七百四十七條 假差押命令ニ付テノ審判方式・五三三

第七百四十四條 債權者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ
第七百四十五條 異議ノ執行ヲ停止セス
第七百四十六條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ
裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得
第七百四十七條 強制執行ニ關スル保證又供託
第七百四十八條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ
此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ
第七百四十九條 申立其他ノ申述方式・一五八一項ニ期間ノ伸縮・一二五ニ口頭辯論主義
第七百五十條 債權者ハ假差押ノ理由ヲ消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立

755 假處分ノ存続中假處分ノ目的物ニ對シテ第三者カ強制執行ヲ爲スモ其執行手續中假處分權利者カ之ニ對シテ異議ヲ主張セルト否トヲ問ハス假處分權利者ノ權利保全ト相容レサル範圍ニ於テハ其強制執行ノ結果ヲ以テ實體法上假處分權利者ニ對抗スルヲ得ス(昭六・大審「法新三二四四號七頁」) 一債權者ニ對スル不動産處分禁止ノ假處分命令ハ命令以前不動産ニ設定セル抵當權ノ實行ヲ阻止スル效力ナシ(昭六・大審「評論二〇卷三號一八三頁」)

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ
第六四〇三項 不動産ニ對スル強制執行ト強制管理ノ用途ニシテ
第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス
第七四八 假差押ノ執行ニ對スル強制執行ノ裁判所
第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ
假差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得
右裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第七四三 假差押命令ノ記載事項・七五〇二項 債權ニ對スル假差押ノ執行・四一五 即時抗告提起期間・五六三 強制執行ニ關スル裁判所
第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變

更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス
第七六〇 假ノ地位ヲ定ムル假處分
第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス
第七百五十六條ノ二 假處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セサルモノニ付テモ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得(本條追加)
第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所ニ對シテハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
右裁判所ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第七四三 執行裁判所・七六二 假差押及假處分ト本案裁判所・七六一 項 急迫ノ場合ノ係争物假處分・五六三 強制執行ニ於ケル裁判所
第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁止シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁止スルコトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

757 本條ニ所謂本案ノ管轄裁判所ハ本案カ第一審裁判所ニ屬スル場合ニアリテハ其受訴裁判所ヲ指稱シ受訴裁判所カ本案訴訟ニ付管轄權ヲ有スルト否トハ問フトコロニアラズ(昭五・大審「法新三二二九號一三頁」)

758 債務者ニ對シ其所有不動産ニ付之カ物權並賃借權ノ設定移轉即處分禁止ノ假處分ヲ爲シタルトキハ將來ノ債務者ノ處分行爲ヲ禁止スルモノニ係リ命令以前ニ爲サレシ行爲ノ效力トシテ債務

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得
第七六一 假差押執行ニ關スル保證又供託
第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但共處分ハ殊ニ急迫ナル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルコトキニ限ル
第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ヲ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
右裁判所ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得
第七五七 項 假處分命令ト本案ノ管轄裁判所
第七五八 項 假差押及假處分ト本案ノ管轄裁判所
第七五九 項 強制執行手續ニ關スル裁判所
第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ屬スルコトキニ限り控訴裁判所トス
第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判所ハ本章ノ申立ニ付キ裁判

第七編 公示催告手續
第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得
公示催告手續ハ區裁判所ニ對シテ
第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
此申立ニ付テノ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
第一 申立人ノ表示
第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告
第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示
ヲ爲スコトヲ得
第七四一 項 假差押ノ申請ニ付テノ審理方式・七五四 項 執行シタル假差押ノ取消・七五七 項 假處分命令ノ申請ニ付テノ審理方式・七六一 項 急迫ノ場合ノ係争物假處分ノ場合ノ係争物假處分

者ノ爲スヘキ行爲ヲモ禁止スルノ效力ヲ有スルモノニ非ス(昭二・東控「法新二七九二號一五頁」)

759 所謂特別ノ事情トハ各場合ニ於ケル當該具體的事實ヲ綜合シ裁判所カ自由ニ裁量スヘキ事實認定ノ問題ナルモ之カ事實ヲ認定シ自由ニ裁量スルニ當リテハ債務者ノ利害ト同時ニ債權者ノ利害ヲモ顧慮シ雙方ノ地位利益ヲ均等ニ保持セントスルコトニ標準ヲ置カサルハカラス(昭五・大地「法新一四四號四頁」)

第四 公示催告期日ノ指定

一五〇 申立其他ノ申述方式・七六七 公示催告ノ爲メノ公告

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス(本條中改正)

裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ命スルコトヲ得(本項追加)

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

一五六・一五八 一 項 期間・七六六 公示催告ノ爲メノ公告方法・七八三 公示催告期日・七四二 項 除權判決不服申立ノ管轄裁判所

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

トヲ得

一五〇 口頭ニ依ル申述・四一五 不變期間

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

一五八 一 項 公示催告期日・二五六 期間ノ計算法・第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ノ公告

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

760 假ノ地位ヲ定メタル假處分命令ハ後日異議ノ申立ニ基キ之ヲ取消ス判決決定シタリトスルモ其判決アル迄ハ有效ニシテ且ツ之ニ因リ生シタル效果ハ該判決ニ依リ既往ニ遡リテ消滅スルモノニ非ス(昭六・大審「評論二〇卷二號一九九頁」) 一 假處分ノ定メタル假ノ地位ハ管ニ假處分手續ノ當事者間ニ止マラス第三者ニ對スル關係ニ於テモ有效ニ成立ス(昭六・大審「法新三二五二號七頁」)

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス裁判所カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ(本號改正)

七六九 三 項 除權判決申立却下ノ決定及除權判決ニ付シタル制限又留保・七六六・七八二 公示催告ノ公告・七六七・七八三 公示催告期間

移送裁判ニ對スル不服申立・七七〇 公示催告期日ト權利届出ノ效力

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

一五六 一 項 期間ノ計算法・一五八 期間ノ伸縮又ハ附加・一五九 懈怠シタル訴訟行爲ノ追完

第七百七十六條 裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得(本條中改正)

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

一五七 商二八一 公示催告ノ申立

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人カ公示催告手續ヲ申立ツル權利アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判所ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判所ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

一 普通裁判所ノ意義・二 四 普通裁判所

761 本條ニ所謂急迫ナル場合ナルヤ否ヤハ假處分ノ當否ヲ裁判スル本案ノ管轄裁判所カ自由ナル裁量ニヨリテ決スヘキモノトス(昭五・大審「大判四卷九八頁」)

第七百八十條 中立人ハ中立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ原本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無效宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六ケ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ト不服申立ノ管轄裁判所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ等ノ判斷ヲ爲サシムル場合ハ當事者カ保爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第八編 仲裁手續

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スル

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル

權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ關東セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十四條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル

無能力者、啞者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十六條 仲裁契約ノ失效・八〇五ノ仲裁手續管轄裁判所・三七七ノ判事ノ忌避

第七百九十七條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十八條 仲裁人ノ選定・七九二ノ項ニ仲裁人ノ忌避・七九八ノ項ニ仲裁判斷ノ評決方法・八〇五ノ項ニ仲裁手續ト管轄裁判所

第七百九十九條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル

第七百九十九條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル

第七百九十九條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル

民事訴訟法施行法

(改正大正十五年四月二十四日) 法律第六十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟法中改正法律施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法施行法

2 舊法施行當時言渡サレタル缺席判決ニ對シ故障ノ申立アリシ爲新法施行後其審理裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ニ依リ新法ニ從フヘキモノナリ (昭六・大審「法新三二七〇號一三頁」) 一 舊法施行當時ニ於テ證人訊問後訴訟當事者ノ一方ヨリ其證人忌避ノ申請ヲ爲シ忌避ノ原因アリトノ決定アリタルトキハ本條ニ依リ新法施行後ニ於テモ該忌避ハ其效力ヲ有シ右證人ノ供述ハ事實認定ノ資料ニ供シ得ス (昭六・大審「法新三二八一號一三頁」)

第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ從前ノ規定ヲ謂フ
第二條 新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
第三條 新法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付新法ニ依リ管轄權アル裁判所ハ舊法ニ依レハ管轄權ナキ場
第四條 新法施行前ヨリ新ニ期間ヲ定メタル訴訟行爲ニハ新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第五條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第六條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第七條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第八條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第九條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十一條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十二條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十三條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十四條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十五條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十六條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十七條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十八條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十九條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第二十條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス

第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス
第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル
第八條 新法施行後進行ヲ始メタル場合亦前項ニ同シ
第九條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十一條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十二條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十三條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十四條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十五條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十六條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十七條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十八條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第十九條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス
第二十條 新法施行前ヨリ之ヲ起算ス

タテ事件ニ付控訴裁判所カ管轄權トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻スコトヲ得
第十二條 新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
第十三條 國席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ執行命令ニ對シテハ舊法ニ依ル故障期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得
第十四條 新法施行前妨訴抗辯ヲ棄却シ又ハ請求ノ原因ヲ正當ナリトシタル中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得
第十五條 新法施行前ヨリ繫屬スル證書訴訟及爲替訴訟ハ仍舊法ニ依リ之ヲ完結ス但シ訴訟カ新法施行ノ際第一審ニ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ通常ノ手續ニ於テ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ第十六條 故障ヲ許ササル國席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得
第十七條 新法施行前請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ求ムル申立アリタルトキハ仍舊法ニ依リ裁判ス新法施行前國席判決ノ申立アリタルトキ亦同シ
第十八條 新法施行前言渡シタル判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ニ依ル

附則 (大正十五年法律第六十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年勅令第五百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

人事訴訟手續法

(明治三十一年六月二十一日)
法律第十號

改正 大正一五―法律六六

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

人事訴訟手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

3 本條ハ當事者カ意思無能力者ナル場合適用セラルヘキニ非ス然レトモ受訴裁判所ノ裁判長ニ於テ本條ニ依ルヘキモノトナシ意思無能力者タル當事者ノ爲訴訟代理人ヲ選任シタルトキハ該選任命命ハ有效ニシテ代理人トシテ選任セラレタルモノハ之ニ依リ訴訟代理權ヲ取得ス (昭三・大審「法新二八五二號九頁」)

第一條 婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判權ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ普通裁判權ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス
第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス
前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢察官ヲ以テ相手方トス
檢察官カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受權ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承權人トシテ選定スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

7 本條ノ法意トスルトコロハ同一ノ婚姻關係ニ付各種ノ婚姻訴訟ノ重複スルヲ防止スルニ在ルヲ以テ同條ニ婚姻ノ無効ト謂ヒ取消ト謂ヒ或ハ離婚同居ト謂フハ常ニ一個ノ婚姻關係ニ關スルモノニシテ別個ノ婚姻關係ニ付之ヲ謂フニアラサルモノト解スルヲ正當トス (大一五・東地「新報九三一六頁」)

人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
禁治產者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第五條 婚姻事件ニ付テハ檢察官ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス
檢察官ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得
事件及ヒ期日ハ檢察官ニ之ヲ通知シ檢察官立會ヒタル場合ニ於テハ其ノ氏名及ヒ申立ヲ調査ニ記載スヘシ
第六條 檢察官ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得
他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ依リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リテ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ハ此限ニ在ラス
第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第十條 民事訴訟法第三百九條、第四百條第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ (大正十五年法律第六十六號ヲ以テ本項ヲ改正、第三項ヲ削除)
第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ラ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス (同上本項ヲ改正第二項ヲ削除)
第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢察官提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得
當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

16 離婚訴訟繫屬中ニ在リテハ控訴人ハ被控訴人カ其所有財産ニ付爲ス處分ヲ妨クヘキ何等ノ權利ヲ有スルコトナキヲ以テ離婚訴訟ヲ本案トスル本件ニ於テハ被控訴人所有ノ財産ハ係争物ナリト云フヲ得サルカ故ニ係争物ニ關スル假處分トシテ本件假處分ヲ求ムル申請ハ失當ナリトス (昭三・東控「新報一五二號一九頁」)

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス
第十三條 和議ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得
第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ
第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス
第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス
第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限リ其效力ヲ有ス
第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス
第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ爲スコトヲ得
訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス
第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス
當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス
第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其ノ死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
第二十五條 養親カ禁治產者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス
養子カ禁治產者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件

33 法定推定家督相續人タル地位身分ハ一身ニ專屬シ之ヲ承繼スルコト能ハサルカ故ニ其廢除請求訴訟中ニ相續人死亡シタルトキハ訴訟ハ本案請求ニ付テハ當然終了スルモ當事者間ニ已ニ生シタル訴訟費用ノ負擔ニ關スル部分ニ付テハ訴訟ハ終了セス相續人訴訟手續ヲ受繼クヘク裁判所ハ其負擔者ヲ定ムル前提トシテ廢除ノ原因アリヤ否ヤヲ判斷シテ訴訟費用ノ裁判ヲ爲スニ止ムヘキモノトス (昭二・大審「法新二七八八號九頁」)

ニ之ヲ準用ス

第二章

親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無効若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第二十八條 夫カ禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セシメシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得
第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其ノ前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ五ニ其ノ相手方ト爲ル
子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス
第三十一條 親權若クハ財產管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス
第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺產相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス
第三十五條 隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス
家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス
隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一

親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續
禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續

項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財產管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 禁治產ノ申立ハ禁治產ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治產ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 裁判所ハ禁治產ノ手續ノ開始前診斷書ヲ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治產ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治產ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ追行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調査ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第五十二條 禁治產ヲ宣告シタル決定ハ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治產ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治產ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一ヶ月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治產者ニ對シテハ禁治產ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治產ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治產ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治產ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治產者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

民事訴訟法第二編第一章第三節第二款及ヒ第三款ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス(大正十五年法律第六十六號ヲ以テ本項ヲ改正)

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治產ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラズ

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治產ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 禁治產ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治產者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第五十條 裁判所ハ禁治產ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財產ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治產ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治產ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ

禁治產ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十三條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第六十四條 前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十五條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第六十六條 第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

第六十六條 禁治産ノ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

第六十七條 檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十八條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第六十九條 第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七十條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第七十二條 第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第七十三條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ

71 本條第一項ノ所謂失踪宣告ノ取消ノ申立トハ第七八條八〇條ノ規定ト對照スルトキハ失踪宣告ノ判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ指示スルモノニシテ詳言スレハ失踪宣告ノ取消ノ申立ハ獨リ訴ノ方法ニ依リテノミ爲スヘキモノト解スルヲ相當トス(昭三・大審「法新二九四二號一五頁」)

第六十九條 於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四十條 失踪ニ關スル手續

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七十二條 第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

第七十四條 公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第七十五條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足ル

第七十六條 前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二個月以上ナルヲ以テ足ル

第七十七條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立

會フコトヲ得

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

第七十九條 前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第八十條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六十二條及ヒ第六十三條ノ規定ヲ適用ス

第八十一條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

人事訴訟手續法 附則 人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所地指定
人事訴訟法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他從前ノ
法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸シ又ハ重複スルモノ
ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴訟ニシテ其判
決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第六十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅
令第五百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

人事訴訟手續法第一條第三
項ノ住所地指定

(明治三十一年七月八日)
(司法省令第八號)

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市
ヲ以テ住所地トス

人事訴訟手續法第三章ニ
依リ爲スヘキ公告方法

(明治三十一年七月八日)
(司法省令第九號)

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告
ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選
定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘ
シ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所
カ選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判
所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

1 非訟事件ノ裁判所カ抗告事件ノ審理ヲ爲スニ當リ審問並ニ
證據調ヲ爲スヘキヤ否ヤハ其自由ナル心證ニ依ルヘキモノナリ
(昭三・大審「新報一六〇號一六頁」)

非訟事件手續法 總則

非訟事件手續法

(明治三十一年六月二十一日)
(法律第十號)

改正、明治三三、法律五一、明治四四、
法律七四、大正二、法律一九、大
正一、法律六三、法律七一、大
正一、五、法律六七、昭和二、法律
三三、昭和四、法律六〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

非訟事件手續法

第一編 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本
法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ
規定ヲ適用ス

第二條 裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル
場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ
知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所
トス
居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住
所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ

財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判
所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管
轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シ
タルトキ亦同シ

第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事
件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但其裁
判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他
ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得(大正十
一年法律第六十三號ヲ以テ但書ヲ追加)

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第
一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管
轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス
管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直
近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決
定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(大正十
五年法律第六十七號ヲ以テ本項ヲ改正)

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規
定ハ非訟事件ニ之ヲ適用ス
第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシ
ムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此
限ニ在ラス
裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ
退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申
立ツルコトヲ得ス
第七條 民事訴訟法第八十條ノ規定ハ前條第一項ノ
場合ニ之ヲ準用ス但私文書ニ認證ヲ受クヘキ旨ノ

告申立アルモ執行力アリ (昭六・札控「評論二〇卷八號」)
 20 權利ヲ侵害セラレタル者トハ必スシモ裁判ニ因リ確定的ニ權利ノ主張ヲ妨ケラレタル場合ノミヲ指稱スルモノニ非ス當該裁判カ抗告ヲ爲サントスル者ノ權利ノ主張ニ對シ直接不利益ノ影響ヲ及ホス場合ヲモ包含スルモノトス (昭三・大審「評論一八卷六號二五五頁」)
 24 本條ノ抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付テ爲サレシ決

非訟事件手續法

總則 民事非訟事件 法人ニ關スル事件

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス
 第二十二條 當事者カ其實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ即持抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得 (大正十五年法律第六十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
 第二十四條 (同上本條ヲ削除)
 第二十五條 抗告ニハ特ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス (同上本條ヲ改正)
 第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ
 第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第九十三條ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス (同上本條ヲ改正)
 第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス (同上但書ヲ追加、第二項ヲ削除)
 第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得
 第三十二條 民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス
 費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス
 第三十三條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ
 第三十四條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編 民事非訟事件
第一章 法人ニ關スル事件
 第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所ノ區裁判所ノ

10 非訟事件手續ニハ民事訴訟法第一八條ノ準用アルモ證據調施行方法ニ關スル決定ニ付テハ不服ヲ申立テ得サルモノト解スルヲ相當トス (昭三・大審「新報一七〇號三七七頁」)
 11 民事訴訟ニ於ケル如ク事件關係人ニ於テ證據調ニ立會フ權利ノ如キハ本法ニ於テハ之ヲ認ムルコトヲ得ス (昭三・大審「新報一七〇號三七七頁」)
 12 非訟事件ノ權利ハ告知ニヨリ即時ニ創設的效力ヲ發生シ抗

非訟事件手續法 總則

命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス (同上本條ヲ改正)
 第八條 民事訴訟法第五百十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス (同上本條ヲ改正)
 第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人ノ署名、捺印スヘシ
 一 申立人ノ氏名、住所
 二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
 三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
 四 年月日
 五 裁判所ノ表示
 證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ
 第十條 期日、期間、疎明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス
 第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ
 第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得
 第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得
 第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ
 第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第十六條 事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ
 職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ
 第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得
 裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ
 第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス
 裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス
 告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ
 第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス
 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス
 第二十條 裁判ニ對シテ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

告ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシメ若クハ口頭辯論ノ爲當事者ヲ呼出スコトヲ得ルニ止マリ必スシモ右抗告人ト反對ノ利害關係人ヲ審問スルヲ要セスシテ該抗告人ノミヲ審問シ其申請ニ因リテ證據調ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(大一〇・大審「評論一〇卷諸定ヲ指稱シ本體ニ付裁判ヲ爲サシムル爲前審ニ差戻ヲ爲ス旨ノ決定ヲ含マス(昭六・大審「評論二〇卷八號」)

25 抗告裁判所ハ其抗告人ト反對ノ利害關係人ヲ有スル者ニ抗

管轄トス
法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス
第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主たる事務所在地ノ區裁判所ノ管轄トス
法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス
第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得
第三十七條 第三百六條乃至第三百八條及ヒ第三百七十五條乃至第三百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三十七條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三十條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス(昭和二年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得(大正十一年法律第六十三號ヲ以テ本項ヲ改正)
管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ
第四十條ノ二 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(同上本條ヲ追加)
第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得
民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得
前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第四十二條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其原本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得
第四十三條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス
第四十四條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得
第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上

法二五九頁J)
38 行旅死亡者ノ遺留物件アル場合ニ於テ其相続人ノ分明ナラサルトキハ市町村長ハ管轄裁判所ノ檢事ニ通知シ檢事ハ該遺留物件ノ多寡ニ拘ラス相続財産管理人選任ノ請求ヲ爲スヘキモノトス(明四三・民刑局長回答)

ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得
前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ附本ヲ添付スヘシ
前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス
第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄裁判所之ヲ爲ス
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得
第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス
一 日用品
二 封印ヲ爲スニ適セサル物
三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス
第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ
民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス
第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ
第四十條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス(同上本項ヲ改正)

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ
調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ
一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示
二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由
三 申立人ノ氏名、住所
四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫
五 封印ヲ爲サザリシ物件ノ概略及ヒ其事由
一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ
第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得
第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス
保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得
第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第三項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス
異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取
下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ
得ス
封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲ
シテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五
條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人
カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ
在ラス

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載
シ判事、書記及ヒ立會人之署名、捺印スヘシ
一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示
二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其
事由
三 申立人ノ氏名、住所
四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下
若クハ却下アリタルコト
五 財産ノ目録ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシ
メザリシコト
六 封印ノ状況及ヒ異狀アルトキハ其ノ事由
調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ
第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ左
ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之署名、捺印
スヘシ
一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
二 申立人ノ氏名、住所
三 不動産ノ表示

四 動産ノ種類及ヒ數量
五 債權及ヒ債務ノ表示
六 帳簿、證書其他ノ書類
第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場
合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製
セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ
調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ
前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ウルコトヲ得ス
前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ
規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製
スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閲覧ヲ申請
シ又ハ手数料ヲ納付シテ其原本ノ交付ヲ申請スル
コトヲ得
第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘ
キ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却ス
ヘキコトヲ命スヘシ
第五十九條 本人カ自ら其財産ヲ管理スルコトヲ得
ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ
失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關
係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消

61 檢事ニ於テ相續財産管財人選任ノ申立ヲ爲スニ付要スル印
紙料ハ歳出科目中人事訴訟及非訟事件費ノ目ヨリ支出スヘキモノ
ニシテ非訟事件手續法第六一條ニ該當スル場合ニハ相續財産ヨリ
辨償ヲ受クヘキモノトス (明三三・民刑局長回答)

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ
保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理
人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル
裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判
ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管
理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算ス
第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申
請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前
ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負
擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用
亦同シ
第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判
ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告
人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ
負擔トス
第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項
ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判
所ノ管轄トス
第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其
住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地ノ區裁判所
ノ管轄トス
第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管
理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ
管轄トス

第六十五條 民法第一千二十一條第二項、第三項及ヒ
第一千五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル
事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關
スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ
第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス
第六十七條 民法第一千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ
關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ
訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス
第六十八條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前
五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス
第六十九條 民法第一千五十二條第二項ノ公告ニハ左
ノ事項ヲ記載スヘシ
一 申立人ノ氏名、住所
二 被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住
所
三 被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所並ニ其年月
日
四 管理人ノ氏名、住所
第七十條 民法第一千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ
記載スヘシ
一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
二 相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘ
キ旨ノ催告
第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル
公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三章 信託ニ關スル事件

(大正十一年法律第六十) (三號ヲ以テ本邦ヲ追加)

第七十一條ノ二 信託法第八條第一項、第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所ノ區裁判所、同法第十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所ノ區裁判所、管轄トシ受託者又ハ前受託者ノ數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條ノ三 裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財産目録及ヒ信託事務ニ關スル帳簿並ニ書類ノ提出ヲ命ジ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第七十一條ノ四 裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル信託管理又ハ信託財產ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財產ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス

第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理

人又ハ信託財產ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六 第二百二十八條、第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタル検査役ニ付キ之ヲ準用ス(昭和二年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四章 裁判上ノ代位ニ關スル事件

七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所

二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲

スコトヲ得ス

第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第八十九條ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム(大正十五年法律第六十七條ヲ以テ改正)

第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第五章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

(大正十一年法律第六) (十三號ヲ以テ改正)

第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條 第四十條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(大正十一年法律第六十三條ヲ以テ本條ヲ改正)

第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第八十五條 民法第千三十二條第二項、第千三十四

114 本條第二項ニ於テ立會人ノ氏名住所ヲ記載スヘキヲ命シタルハ遺言書ノ開封ノ如ク立會人アル場合ニ關スル規定ニシテ檢認ニ付テハ之ヲ要スルモノニ非スト解スヘキモノトス (明四四・大審「大判民七八九頁」)

115 本條第一項ハ告知ヲ以テ檢認ノ效力ヲ生スルノ條件ト爲スノ趣旨ニ非サルコト勿論ナルト同時ニ遺言書ノ檢認ハ裁判ニ非サルヲ以テ第一八條ニ依リ檢認ノ效力ヲ云爲シ得ス (昭三・大審「評

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其ノ任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其ノ職務ヲ拒マントスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ裁判所カ前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス
第八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其ノ任務ヲ辭シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其ノ任務ヲ辭シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ヲ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算ス
第六十二條 規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
第九條 民法第七十六條及ヒ第八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
第十條 遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ヲ告知ヲ受ケタル日ヨリ起算ス
前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第十一條 遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス
第十二條 遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス
第十三條 封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ
第十四條 遺言書ノ提出、開封及檢認ニ付テハ調査ヲ作ルヘシ
調査ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ
一 提出者ノ氏名、住所
二 提出、開封及ヒ檢認ノ年月日
三 立會人ノ氏名、住所
四 訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述
五 事實調査ノ結果
第十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其ノ他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其ノ旨ヲ告知スヘシ
前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調査ヲ閱覽スルコトヲ得
第十六條 遺言書ノ提出、開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第九章 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記

(大正十一年法律第六十三號ヲ以テ改正)

第十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第十八條 夫婦財產契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所又ハ其出張所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
夫ト爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所又ハ其出張所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第十九條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ヲ備フ
第二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ

其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス (明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人カララサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十三條 夫婦財產契約ニ關スル登記ハ契約者雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ夫婦財產契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十四條 第一百七條、第二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス
第二十五條 第四百一條乃至第五百四條、第五百五條乃至第五百七條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス (明治四十四年法律第七十四號、大正二年法律第十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
第六十五條 規定ハ夫婦財產契約ノ登記ノ更正

ニ之ヲ準用ス(大正二年法律第十九號ヲ以テ本項ヲ追加)

第三編 商事非訟事件

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第二百二十六條 商法第四十七條、第四十八條、第一百十一條第二項、第二百二十四條、第六十條第二項、第九十六條第二項及ヒ第九十八條ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス。地方鐵道法第六條ノ第四項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ定メタル事件亦同シ(大正十五年法律第六十七號、昭和四年法律第六十號ヲ以テ本項ヲ改正)。

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス。

商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シタル株式會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス。

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)。

第二百二十七條 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申請ノ事由
- 二 検査ノ目的
- 三 年月日
- 四 裁判所ノ表示

第二百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得

第二百二十九條 商法第二百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ(同上本條ヲ追加、明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ第二項ヲ削除)

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第九十八條ノ規定ニ依リ裁判所ハ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所

134 本條第二項ニ所謂利害關係人トハ會社ノ解散ニ付キ法律上利害ノ關係ヲ有スル總テノ者ヲ指稱ス從テ解散ノ命令ニ對シ最モ深キ關係ヲ有スル會社自身ハ同條ノ利害關係人タルコト論ヲ俟タス(明四一・大審「大判民一〇二四頁」)

之ヲ定ム(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第三百十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株主總會ノ召集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其召集ヲ爲スコトヲ命スヘシ

第三百十一條 商法第一百一十條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由、同法第六十條第二項ノ規定ニ依リ總會召集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其召集ヲ怠リシ事實ヲ説明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三百十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百十三條 商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ説明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第三百十四條 商法第四十七條及ヒ第四十八條ノ場合ニ於ケル解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以

テ之ヲ爲スヘシ(大正十五年法律第六十七號ヲ以テ本項ヲ改正)

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ仲長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ヲ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三百十五條 會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス(同上本條ヲ改正)

第三百十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラルタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其ノ支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ

136 本條ノ規定ハ管ニ會社解散ノ場合ノミナラス會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル爲メ清算人ノ選任ヲ要スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス (明四二・大審「大判民二〇三頁」)

記載スヘシ (明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非シテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス (同上本條ヲ追加)

第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ五 地方鐵道法第六條ノ四第二項 (軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ疏明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ (昭和四年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三百三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得 (同上本條ヲ追加)

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

(明治四十四年法律第七十號ヲ以テ本目次ヲ改正)

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス 銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督亦同シ (昭和二年法律第三十三號、昭和六年法律第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス 裁判所カ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ (同上本條ヲ改正)

第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
一 未成年者
二 禁治產者及ヒ準禁治產者
三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
五 破產者

第三百三十八條ノ二 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算事務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得 (昭和二年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、第三百三十八條ノ二ヲ第三百三十八條ノ三トシ以下之ニ準ス 昭和六年法律第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三百三十八條ノ三 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十

九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス (明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加、昭和二年法律第三十三號ヲ以テ改正)

第三章 商業登記

第一節 通則

第三百三十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四百十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ
一 商號登記簿
二 未成年者登記簿
三 妻登記簿
四 法定代理人登記簿 (同上本條改正)

九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス (明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加、昭和二年法律第三十三號ヲ以テ改正)

五 支配人登記簿
六 合名會社登記簿
七 合資會社登記簿
八 株式會社登記簿
九 株式合資會社登記簿
十 外國會社登記簿

第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ
第四百一十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其原本若クハ抄本ヲ交付スヘシ
登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ
郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ原本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ
第四百一十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ
第四百一十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス
公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス
第四百一十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

147 登記シタル株式会社ノ支店ノ場所ニ付事實上ノ變更ナキモ土地ノ名稱又ハ番號ノ表示ニ生シタル變更アリタル場合ニモ亦登記シタル場所ノ變更アリトシテ之カ登記ヲ爲スヘキモノトス (昭三・東控「新報一六六號一七頁」)

148 更正ノ登記事項ハ更正スヘキ登記ノ登記以前ニ係ル事實ナラサルヘカラス更正スヘキ登記ノ登記以後ニ係ル事實ニ更メントスルハ變更登記ノ性質ヲ帶フルモノニテ更正登記トシテ許スヘカ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更正ノ公告スヘシ
第百四十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得
第百四十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得
第百四十九條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得 (明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)
第百五十條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
一 申請人ノ姓名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其ノ商號及ヒ本店又ハ支店
二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名住所

三 登記ノ目的及ヒ事由
四 年月日
五 登記所ノ表示
第百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス
第百五十一條 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル體本ヲ添付スルコトヲ要ス (四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ追加)
第百五十二條 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス (同上本條ヲ追加)
第百五十三條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス
第百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登

ラス (大九・法決「法曹三〇卷八號」)

148ノ2 元來支店ニ非サルモノヲ支店トシテ登記シタル場合ハ其登記ハ非訟事件手続法第一四八條ノ二又ハ同第一五一條ノ二乃至第一五一條ノ四ノ規定ニ依リ抹消スヘキモノトス (大七・司法次官回答)

151 本條ハ登記官吏ニ形式的審査權ヲ與ヘタルニ過キスシテ實質的審査權ヲ與ヘタルモノニアラスト解スルヲ相當トス (大七・

記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ
登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得 (同上本條ヲ追加)
第百五十一條 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス (同上本條ヲ追加)
第百五十二條 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ (同上本條ヲ追加)
第百五十三條 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遅滞ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ
支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク登記ヲ抹消スヘシ (同上本條ヲ追加)
第百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登

記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遅滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス
前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遅滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ (大正二年法律第十九號ヲ以テ本條ヲ追加)
第百五十二條 (大正十一年法律第七十一號破産法附則ヲ以テ本條ヲ削除)
第百五十三條 (同上本條ヲ削除)
第百五十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
第百五十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得
第百五十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム
第百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス (明治三十二年法律第五十一號、大正二年法律第十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二節 商號ノ登記
第百五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同

大審「大判民二一八六頁」

151/2 合名會社ノ解散カ商法ノ定ムル要件ヲ具ヘサル爲無効ナル場合ニ於テハ右解散ニ基キ爲サレシ解散並清算人選任ノ登記ハ許ス可カラサル登記ニ該當ス(昭二・大審「彙報三八卷民下一三九頁」)

151/6 本條ニ所謂錯誤又ハ遺漏トハ登記セムト欲セシトコロト登記セラレタルトコロト一致ヲ缺ク場合ヲ指稱ス(大九・東)

一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百五十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第百六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百九十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第百六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其登記ヲ申請スヘシ(明治三十二年法律第五十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第百六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲スコトキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ改正)

第百六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ

關係ヲ有スルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第百六十四條 第五百一十一條ノ二乃至第五百一十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第百六十五條 登記所カ第五百一十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ削除、大正二年法律第十九號ヲ以テ追加)

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本目次ヲ改正)

第百六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可

控「評論九卷商法四九三頁」

ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第百七十條 法定財產制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第百七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法

定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

第百七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス(同上本項ヲ改正)

第百七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百九十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 支配人ノ氏名、住所

二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用ニヘキ商號

三 支配人ヲ置キタル場所

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス(明治四十四年法律第七十四號ヲ以テ本條ヲ